

て予が汝をば威嚇しつちまつたのだから、汝はもう些も予の目蓋を壓へてはくれん、予の感覺を氣持のよい忘却に漬してはくれん。睡眠よ、どうして汝は煙突もない農夫小屋の藁蒲團の中へばかり入り込むのだ、ぶん／＼鳴き立てる夜の蟲をも苦にしないて？ 天下の主の、高貴を極めた、空焼の香りの高い帳臺では、妙なる音樂の音にも眠入らん癖に。お、汝、鈍感の神よ、汝は穢らはしい寢床の中で、下司とは善く眠る癖に、なぜ國王の帳臺をば、不寐番の番小屋や火の見櫓のやうにしてしまふのだ？ 汝は、あの眩暈く高い帆柱に攀ぢてゐる船乗の小僧の目をも閉ぢさせるぢやないか？ 雲まで達く怖しい大高潮を、死人も爲に目を覺しさうな大音響を發せしめて、巻返らせ／＼しても、それが却つて搖籃の役をして、小僧は快げに眠てゐるぢやアないか？ お、依怙最良な睡眠よ、そんな大荒れの晩にさへ、船乗の小僧には安眠を與へながら、靜かな、長閑な真夜中に、ありとある安眠の法や手段を講じ盡した國王には、それを拒むのか？ ぢやア、幸福な賤民よ、眠ろ／＼！ 王冠を戴く頭は、曾て安らかに眠るといふことがない！

ウォーリックとサリーと出る。

ウォー　いやが上にてめてたき御朝を重ねさせられますやう！

王　もう朝か？

ウォー　もう一時過ぎでございます。

王　では、兩卿とも、……お早うござる。送つてあげた書面を讀んで下すつたか？

ウォー　拜讀いたしました。

王　ぢや、我王國が目下重體だといふとはお分りであらう。わるい病ひが、甚しく募つて、もう既に、心臓にまで危険を及ぼしてゐるといふことは、お分りだらう。

ウォー　いや、まだ、ほんの聊か不例といふ程度でございますから、治療法宜しきを得ますれば、回復は大丈夫と心得ます。ノオサンブランド卿の如きは、たやすく熱を醒すことが出来ませう。

王　お、神よ！ 宿命の書が豫め讀破されるものであるなら！ さうして山が平地となつたり、大陸が、其鞏固なのに飽き果て、溶けて海になつたりする有爲轉變が豫知されるものなら！ 或は海が海神の臂受けとしては廣過ぎる程の砂地を残して退却することもある。あ、どれほど偶然の爲に弄ばれるやら、どれほど様々な味の飲料を變化めが飲ませるやら！ お、それが悉く先見されたなら、最も幸福であつた青年も、來し方の免れた危さを見返ると同時に、未來の艱難が見透かせたなら、おそらく宿命の書を閉ぢて、死なうと觀念するでもあらう。……まだ十年とは經たない、リチャードとノオサンブランドと

が無二の親友で、飲食を共にしてゐたのは。然るに、二年の後には、相戦つた。まだやつと八年にしかならない、あのパーシーが子の第一の親友で、まるで兄弟のやうに、子の爲に身を獻じて働いてくれたのは。現に、子の爲に、さうだ、子の爲に、現にあのリチャードを面責した。……あの時、傍にゐたのは、足下たちの中の孰れだっけか？……(ウォーリックに)足下だらう、ネギル、たしか？……あのリチャードが、目に涙を一ぱい溜めて、ノオサンバランドに罵倒されながら、斯ういふことを言つた時に。それは今は適中した豫言となつたが、「従弟のボリングブルックを王位に登らせる階子の役を勤めるノオサンバランドよ」と……予は其頃、無論、そんな野心はなかつた、予が王位に押し上げられたのは、全く國家の必要上から起つたことだ。……それからリチャードは「時が今に来るだらう、穢い罪惡が段々募つて、竟にそれが腐爛して潰裂するに至る時が来るだらう」と言つて、尙も言葉をつゞけて、今日の此情態や吾々の仲たがひの事までも豫言したッけが。

たれしも、其一生中に、多少過去世の特質を表現する或事件を記憶してをるものでございませう。それをとくと觀察しますれば、將來の趨勢を、まだ種子が土に埋れて辛と芽を出した許りなのをほゞ豫言することが出来るものでございませう。それらを「時」が温めて孵化せて、雛にします。リチャード王の如きも、右の必然の様式に従つて、同王に對し不信不義

王

であつたノオサンバランドである以上、即ち種が同じである以上、早晚、更に大きな不信不義と生長するであらうが、外に畑地とともないのだから、必ず陛下の上へ掩ひかぶさるだらう、と圖星を言ひ中てられたのでございませう。

では、彼等の叛逆は必然の結果なんだね？　ぢや、吾々も必要の、止むを得ないこととして、之に當る策を講じよう。而うしてそれが既に焦眉の必迫となつてゐる。……大監督とノオサンバランドの兵は一萬五千強といふが、然うかね？

ウォー

そんな筈はありません。とかく風説は、反響のやうに、怖れられてゐる兵數を倍に傳へます。……どうか陛下には御就眠遊ばしませ。大丈夫、既に御派遣になりました諸軍隊が、容易に大功を收めて、凱旋するでございませう。更にお喜び遊ばすべきことは、グレンダワー死去の知らせでございます。確かな手から傳聞りました。陛下は、此二週間、御不例であらせられたのですから、斯んなに早くから御起床遊ばしては、必ず御病體のお障りとなりませう。

その忠告に従ひませう。兩卿、此内証が治まつたら、一しよに聖地へ行くことにしよう。

入る。

王

第二場 グロースターシャー判事シャロウの宅の前。

地方の老判事シャロウ (假譯して淺井知永)と同僚サイレンス(朽輪重)と
行逢ふ。補充新兵モールデー (微野隼太)、同シヤドワ (影星道善)、同
ウオート (疣野陽)、同フイーブル (弱虫脆)、同アルカーフ (當歳牛作) 及
び下僕ら從いて出る。

シャロウ さ、さ、さ、さ。さ、お手を、お手を。大層早くお出掛けてしたねえ！ 時に、いかゞで

す、サイレンス君、この頃は？

サイレン や、お早う、シャロウさん。

シャロウ 時に、あなたの仲よしの、あの従弟はどうしてゐます？ それからあの、あなたの、わた

しの女分の、あの別品さんのエレンは、わたしが名を付けてあげたあのエレンちゃんは？

サイレン なんの、ありや鴉娘ですよ、シャロウさん！

シャロウ ねえ、あの従兄のウィリヤムは、否應なしに、すばらしい學者になつたてごわせうねえ。

まだオクスフォードにゐますか？

サイレン はい、どうも費用がかゝつてねえ。

シャロウ ぢやアもう直に法律院へ入らんけりやならんですな？ 我輩も嘗てクレメント院にゐまし

たッけ、今でも彼處の者は「亂暴シャロウ」ッて噂をしてゐるのですよ。

サイレン 元氣者のシャロウともいはれましたらう、あの時分。

シャロウ いろんな異名を附けられましたよ。さうして、實際、いろんな事をやらかしたもんだ、お

い來たといふ調子でね。我輩と一しよにゐたのは、スタンフォードシャーの、あの小男のジヨ

ン・ドイトね、それから眞黒なデョールデ・バインスね、それからフランシス・ビクボーン、

それからウィル・スキール、あのコツフォードから來てゐた男でさ。ロンドン中の法律院を搜

したつて、あの四人のやうな躁狂者は又とは居ませんや。ジャック・フォールスタッフも、あの

今は士爵の、彼れも居ましたよ、あの時分は小僧でね、ノオフォルク公トマス・モウブレ

さんのお小姓でしたよ。

サイレン その士爵ジョンが、兵隊の事について、今日こゝへ來ますよ。

シャロウ そ、その士爵ジョンですよ、その。我輩は、院の表門のとこでね。スコーガンの頭を奴が

割つたのを見たですよ、まだやツと此れくらゐの(と手眞似をして)小僧子の時分にね。其同

じ日に、我輩は、グレース院の後ろで水菓子屋のサムソン・ストックフィッシュと撲り合ひを

しましたッけ。やれ／＼、随分亂暴をしたもんだつた！ もう大ぶ、むかし馴染は死んじまひましたよ！

サイレ

今に此方らとても皆な逝くのです。

シャロ

その通り、その通り。全く、全く。聖歌作者が言つてゐる通り、死は衆のまぬかれざる所ですよ。皆な死ぬんです。…好い小牛一對どのくらゐてしたねえ、スタンフォードで？

サイレ

つい、市へは往きませんでした。

シャロ

到底死は免れませんか。あんたの町のダブル老人はまだ生きてますか？

サイレ

死にましたよ。

シャロ

やれ／＼、死にましたか！ なか／＼弓をよく引きましたッけ。死にましたか！ 弓が上手てしたがな。ジョン・オ・瘦人さんが大層可愛がつて、あの男ならといつて、大金を賭けなさるのが定例でした。死にましたか！ 二百四十ヤード離れて星を射中てたもんでしたかねえ。二百九十ヤードも向うへ大鎗箭を飛ばしたんですからねえ、實に好い心持でしたよ、見てゐて。……牝羊は二十頭今幾らですか？

サイレ

物次第です。良い牝羊だと二十頭十ポンドぐらゐてせう。

シャロ

ダブル老人死にましたかい？

サイレ

(向うか見て) あそこへ士爵ジョン・フォールスタッフの家來らしいのが二人來ました。

バードルフと別に一人出る。

バード

舟早うごぜえます。失禮ですが、どちらが判事のシャロウさんですか？

シャロ

我輩がロバート・シャロウでございます。此州の田舎武士でござして、陛下の治安裁判官を拜承つてをる一人でございます。何の御用ですか？

バード

え、手前の隊長が宜しくと申されます。手前の隊長の士爵ジョン・フォールスタッフは遅し人て以て、非常に勇敢な將校でござえます。

シャロ

御挨拶かたじけない。立派な擊劍家でござらしたのを存じてゐるですよ。士爵はますます御健勝でござるか？ 失禮ですが、細君は、奥さんは如何お暮して？

バード

失敬ですが、軍人は嬪なんか有つたらん方が便益的ですよ。

シャロ

成程、いかさま。成程、これは御尤もだ。有つたらん方が便益的！ 成程、こりや御尤もだ。巧妙な新語は結構でござすよ、全く。便益的！ 便利、便宜なぞから來たのですな。結構。好い成語でござす。

バード

(誤解して憤として) 失敬ですが、手前確かに其言葉をば承はつたです。成語ですッて？ 憚しながら、成語とやらは心得てをらんですが、此劍かけて、たしかにそれは、軍人的の言

これは名簿へ針で採用の印に穴をあけるのをいふ。

モール (おづくと) 俺今までに既う存分突衝かれてをりますだからね、出来るなら、許して貰ひていてがすが。嫌どんが、おれがゐなくなると、困ちまふてがす。野良の仕事も、宅の仕事も爲るもんがなくなつちまふだから。おれを突一突かんだつても、外に幾らも出役に適つた仁があるべいだから。

フォル 馬鹿。だまれ！ 出るんだ。モールデー(徹野)て名からいつても、もう使ちまはんけりやならん。

モール (おどろいて) 使ちまふ！

シャロ 叱！ 叱！ 控へてろ。こゝを何處だと思つとる？……

マードルフ進み出てモールデーを押排ける。

フォル 士爵ジョン、では他の者を。(と名簿を見て) かうつと。……サイモン・シャドウ(影野)！

成程ね、その男はわたしの直下へ立たせて下さい。名からして涼しさうな男だから。

シャロ シャドウは何處にゐる？

シャド こゝに居ります。

フォル シャドウ、お前は何者の子だ？

シャド お袋の子です。

フォル お袋の子だ！ 成程、それで親父の影法師か？ よくある奴だ、親父の實質はほんの少々。

シャロ お氣に入りましたかな？

フォル 陰影は兎に角夏向ですから、突一突いときなさい、召集名簿にや幾らも影法師を並べてお

くのが定例ですから。

シャロ (又名簿を見て) トマス・ウォート(疾野)！

フォル 何處にゐる？

ウォー こゝにをります。

これは瘦脚の、疣よろしくの小男である。

フォル お前はウォート(疾野)といふのか？

ウォー さやうでござります。

フォル 疣にしても、大分むさくろしい方だなう。

シャロ 突一突いときませうか？

フォル それには及びませんよ。御覽なさい、着物を負ひ上げて、胴を二本針で突通してゐるといふ格構の男でさ。此上突一突くのは餘計です。

シヤロ はいはい！ 巧いもんでござすねえ、巧いもんで。よろしく……（と又名簿を見て）フラン
シス・ファイブ（弱蟲腕）！

ファイブ こゝにをります。

フォル ファイブ（弱蟲）、汝の商賣は？

ファイブ 御婦人向の裁縫師でございます。

シヤロ 突一突いとさせうかな？

フォル お附けなさい。だが、こいつが若し男子向の裁縫師であつたら、逆に貴下を突衝いたか
も知れんよ……汝は敵の陣へ切込むことが出来るか？ 平生婦人の下袴へ穴を拵へるや
うに？

ファイブ 出来るだけはやりませうですが、それ以上は御無理でございます。

フォル 感心々々！ 勇敢な弱蟲！ 汝は定めし怒れる鳩、英邁なる鼯鼠のやうに強いだらうな。

……シヤロウさん、此婦人向の裁縫師を突一突いとさせなさい。ずぶりッとやッとして下さい。

ファイブ どうか、あの、ウォート（疾野）をば往かせていたゞきたいものですが。

フォル 汝が男子向の裁縫師だとよかつたにな。さうだと、汝に奴を仕立直させる、さうすりや
往かせることが出来たらうに……あの男は只の卒なんかじゃされんわい。な、そら、一疣

のお伴は幾らもく〜といふだらう。奴はさういふ大將株だ。な、それでいゝだらう、猛
烈なる弱蟲。

ファイブ へい、よろしうござります。

フォル 御苦勞だつた、弱蟲……次はだれです？

シヤロ 牧が原のピーター・ブルカーフ（當歳牛作）！

フォル で、そのブルカーフといふ男は？

ブルカ は、こゝにをるでがす。

フォル 逞しい男だ……ねえ、牛作をうんと突一突いとて下さるよ、唸り出すほど。

ブルカ はあれ、どうすべし！ もうし、隊長さま……

フォル おや、もう唸り出すのか？ まだ突一突きもしないのに。

ブルカ はれ、旦那！ おれ病人でござりますだから。

フォル どういふ病氣だ？

ブルカ 厭な風邪がすよ、へい、咳、しまするだて、これ、あれ、王さまのお即位日の日に、お
祝ひ鐘鳴らす役勤めたて、それで以て罹れましたと、へい。

フォル おや、外套を着せて出陣させる。風邪なんか逐拂つてやるよ。さうして特に汝の友達に命

じて、汝の爲に鐘を鳴らさせることにする。……これッきりですかね？

シャロ 御指定よりも二人多うごわす。四人といふお汰汰でござした。では、どうか彼方でお食事
を。

フォル おや、御一しよに一盃やりませう、逆も食事をしてゐる暇はありませんが。シャロウさん、
實際愉快ですよ、お目にかゝつて。

シャロ あゝ、士爵ジョン、まだ御記憶でござすか、あのそれ、セント・デヨールデの原の風車で一
晩泊つたことを？

フォル もうあの話は御免、御免、シャロウさん、あの話は。

シャロ や！ ありや面白うござした。時に、ジェーン・ナイトヲオクはまだ達者でござすか？

フォル 達者ですよ。

シャロ 彼女我輩が大嫌ひの女でござして。

フォル さやう〜。常住「わたしシャロウさんは大嫌ひよ」といふのが癖でね。

シャロ 實際、彼女を折々火のやうに怒らせたものでござした。あの時分は別品でしたッけ。奴相
變らずでござすか？

フォル 齡を取りましたよ、齡を。

シャロ いや、さうなごわせう。これア止むを得ない。キツと好いお婆さんだ。まだ我輩がクレメ
ント院へ入らん前に、もうあのナイトヲオクの爺さんと何して、あのロピンを生んでゐた
ですからなア。

サイレ ありやもう五十五年前です。

シャロ や、サイレンス、此士爵さんや我輩の見聞したとを、足下に見聞させたかつたよ！ や、
士爵ジョン、實際でござせう？ え？

フォル お互ひに真夜中の鐘で奴を幾度も〜聞いたッけねえ。

シャロ 全く、全く、全く。實際、全く、其通り。「エヘン！ はじまりッ！」てのが何時も號令詞で
ね。……さ、食事にしませう。……さ、さ、食事に。……ねえ、どうもあの時分の事を思ふ
と！……さ、どうぞ、や、ね。

フォルル スタッフを案内して列事シャロウ及びサイレンス入る。

ブルカ (バードルフの前へ進んで、ベニ〜離儀をして) 骨長(伍長)さんのバードルフの旦那、おらの身方に
なつて下せえまし。この佛蘭西金貨でお前さまに銀貨の四十志分だけ納めますだアから。
ふんとに俺首縊められたはうが優しだア、軍に行く位なら。けんど、俺介意はねえ。けん
ど、その、どうも俺氣が向かねえからねえ、自分としちや村にゐてえだからねえ。で無き

や介意やしねえだけんど、自分一人のことどうなつてもいいだけんど。
バード (懐食に) 駄目だ。退つてろ。

ブルカーブ情々と引退る。モールデーが代つて前へ進んで、同じくへ
こゝ、辭儀をして

モール ねえ、もし、伍長さんの隊長さんの旦那、宅の婆のために、おれの身方になつて下せえま
し。おれがゐなくなると、彼女の爲に仕事爲る者が一人もなくなつちまふてござえますだ。
もう齡取つてますだから、どう爲ることも出来ましねえ。四十 志獻げますだから。
バード 駄目だ。引退んでろ。

モールデー退る。此様子を見てめた名前に似ぬフィアール (弱蟲) が氣
妬を揚げる。

フィー なアに、かまふもんかね。人間は一度しか死ぬもんぢやアねえ。命は神さまからの借物だ。
卑劣な根性骨持つのが可厭だ。死ぬのが運命なら、それもよし。で無きや、それもよしだ。
王さまの爲に死んで、物體ないて人間はありやしねえや。どうなとなつてくれ、今年死
にや來年は死にやアしねえや。
バード 偉い。お前は立派な男だ。

フィー 卑劣な根性は持ちたくねえや。

フォール スタッフと列事ら又出る。

フォール さ、どれ〜を伴れてくかね?

シャロ どれなりとも、四名だけ。

バード もし、ちよいと……(とフォールスタッフを一隅へ引張つて往つて) モールデーとブルカーブを赦す
ことにしますと、三ポンドになりますぜ。

フォール えいッ! (と大きく叱つておいて) うむ。(と小聲で頻りにうなづく)

シャロ さ、さ、士爵ジョン、どの四人をばお採りになりますかね?

フォール あんた選んで下さい。

シャロ それぢやア、モールデーに、ブルカーブに、フィアールに、シャドウを。

フォール モールデーとブルカーブ……モールデー、其方は宅に留つてろ、免役になつちまふま
で……ブルカーブ、其方はまだ些と早い。もつと大きくなれ。二人とも用はない。

シャロ 士爵ジョン、士爵ジョン、そりや御損でござすよ。其二人は一等立派でござす。最上等なの
を御採用になるやうにいたしたいでござす。

フォール シャロウさん、わたしに兵員の選擇法を指圖なさらうてんですか? 手とか、足とか、筋肉

とか、體格とか、圖體とか、大柄とかいふやうなことはどうでもいゝのですぞ！ 精神が第一ですよ、シャロウさん。……このウォートて男を御覽なさい。むさくろしい様子をしてまさ。けれどもあれで白鐵鍛冶の鐵槌をこのけの機敏さで弾込もすれば射出もすりや進撃もすりや退却もまさ、造酒屋の男が酒桶へ鉤索をぶっつけるよりも早いくらゐに。……あの半面男のシャドウ。あれを貫ひませう。あいつは敵が持刺しませう。あれを覗つて的中させようてのは、先づベン切り小刀の刃を覗ふやうなもんだからね。それから、退却と来てはだ……此婦人向の裁縫師のフィブルが敏捷さうだ！ 瘡せた男に限る、大きな男は止しだ。……バードルフ、ウォートに小銃を持たせろ。

（小銃をウォートに渡しつゝ） さ、持つて、進行だ。斯う！ 斯う！ 斯う。（と教へる）。

さ、其小銃を扱ふんだ。……さう。……よろしい。さう。上等、大上等。……（ウォート小銃扱ひをバードルフに教へられるまゝに行ふ）。

お、小ちやい、瘦ッぼちの、ひねッこびた、皺くちやの、禿ちよろ兵士に限る。……うまいぞ、ウォート、うまい。汝は感心な野郎だ。さ、取れ、これは褒美の六片だ。

あの男は駄目でござすよ。銃を扱ひ得やしませんよ。むかしあのマイル・エンド・グリーンでね、我輩がクレメント院にゐた頃でしたッけが、例のアーサーの射術會で、我輩が士爵

シャロ

バード
フォル

ダゴネット（アーサーの幫間）になつた時でござした。……一人、小男で、敏活なのがゐましたッけ、其武器を斯ういふ風に扱つてね、あつちへ行くかと思ふと、こつちへ来る、こつちへ来るかと思ふと、あつちへ行く。「ラ、タ、タ、タ」と言つたり、「バウンス！」と叫つたり、かと思ふと、又あつちへ行く。かと思ふと、又こつちへ来る。……あんなのは二度と見たこと有りませんや。

シャロウさん、此奴らで結構ですよ。さよなら、サイレンスさん。あんなには口数は利きませんよ。……御機嫌よう、兩君。ありがたう。今夜の中に十二哩行かんけりやならんのです。……バードルフ、兵士どもに外套をくれてやれ。

士爵ジョン、御機嫌よう！ 名譽の御成功を！ どうか御無事で！ お歸りにお寄り下さい。舊交を温めませうよ。多分御一しよに參朝するやうなことになるませう。

シャロウさん、どうかねえ、さういふやうなことに。

さ、さ、もう申し盡しました。御機嫌よう。

御機嫌よう、兩君！（判事ら入る）……さ、バードルフ、先へ奴らを引張つて行け。……（バードルフ新募兵を伴つて入る）……歸路に、あの判事共を掠奪つてくれう。シャロウの奴め、底が見え透いてら。やれ、やれ、互ひに齡を取ると、どうしてあゝ嘘を吐きたがるかなア！

シャロ
フォル

あの瘦ぼちの判事め、青年時代に亂暴をした話とタンプル街での手柄話とて持切つてゐやがる。三つ目にやア、土耳其の納税よりも間違ひもなく、きつと聴手の耳へ嘘ッばちを拂ひ込みやアがる。クレメント院にゐた頃にや彼奴ア、あの夕飯の後で乾酪で製へる人形のやうな瘦ぼちで、裸になると、まるで妙な風に頭を刻み附けた二股大根かと思ふ見すばらしい——目のわるい者にや、ゐるかゝるないか分らん位なの——男だつた。何の事アない、饑饉の精靈だつた。流行おくれは持前の癖に、車力の鼻唄をおぼえて来て、摺枯しの賤婦共に歌つて聞かして、自己が作つたのだなどと虚喝吹いたものだ。その道戯役者めが、今は郷紳士になつて、ジョン・オ・瘦人の公爵は自己の莫逆の兄弟分でもあつたかのやうに言やアがる。大丈夫、奴アあの競武場で、たかゞ一度公爵を見たさきりだらう。あの時、奴、無理に式部官の従者連の中へ潜り込みやアがつたので、頭を破られやがつた。あの時おれが公爵にさういつた、閣下は御自身のお名をお打擲になりますか。瘦男といふ洒落さ。着物ぐるみ蛇の脱売へ突込まれようて奴だ、木笛の一等細ッこい奴が奴の本宅だ、上邸だ。それなのに、今は田畑があつて、牛まで飼つてる。……む、凱旋となりや奴の知交にならう。大丈夫、奴を哲學者の二つ石にしてくれる。石班魚の子は梭魚の餌と定つてるなら、おれが奴を食はんで法はないわけだ。そこは成行次第だ。それで終局だ。

はひる。

第四幕

第一場 ヨオクシャー。ゴールツリーの森林。

ヨオクの大監督、卿モウアレー、卿ヘステンクス及び其他出る。

大監督 これは何といふ森ですか？

ヘスチ これはゴールツリーの森と申します。

大監督 こゝで暫くお留りなさい、さうして斥候を遣して敵の兵數をお查べなさい。

ヘスチ それはもう既に遣しました。

大監督 それは結構。……今回の大事に參與せらるゝ同志の諸君、最近にノオサンブランド伯から入手しました書面の趣意をお知らせ申さんけりやならんが、それは甚だ冷淡な意味内容の

書で、すなはち彼れは、其身分相當の一軍隊を引率して、早速参加しようと望んでゐたの
てはあつたが、それだけの兵員を募ることが出来ないで、其好運の熟する時機まで、蘇
蘭へ退いてゐようといふのです、さうして、どうか諸君の計畫が、首尾よく勁敵に打克つ
て、成功を收められるやうに、心から祈願する、と筆を止めてゐるのです。
モウブ それで、吾々が彼れに掛けてゐた望みは、地に墜ちて粉碎したといふものです。

使者出る。

ヘスチ さい、どういふ知らせだ？

使者 此森の西の方の、やうやく一哩のところまで、敵軍は堂々と進んで参りました。其兵で掩
はれてゐまする地積から推しますと、まづ、三萬人そこいらかと存じます。

モウブ ちやうど其くらゐと豫算してゐた。では、兵を進めて、對陣させう。

大監督 (向うを見て) 立派な武装をした將官があそこへ見えだが、だれてせう？

ウエスト モーアランドが王軍の使節として出る。

モウブ ウエストモーアランド卿だと思ひます。

ウエスト 總督ランカスターの公爵、王子ジョンが諸君の健康を祝し、御挨拶を申されます。

大監督 ウエストモーアランド卿、御安心あつて、お言葉をお続け下さい、どういふ御用で御入來

になりましたか？

ウエスト では、閣下、主として閣下へ使者の口上を申し述べることにいたします。……叛逆が若し其
者らしく、血氣無謀の青年らに導かれ、襪襦を以て飾られ、乞食同然の悪少年共を後援と
して、賤しい暴民群の形を取つて起つたのでありますならば……さういふ憎み賤むべき暴
動として、其本然の、持前の儘の相て現はれたのであるならば、尊敬すべき教への父たる
閣下や爰に御列席の諸卿の如き名族方が、斯様に、其醜い、卑劣な、残忍な暴動を是認せ
んとするかの如くに、御出陣なさることはなかつたらうと心得ます。……大監督閣下、本
來閣下の御領分は、國家が平和なればこそ支持せられたのであります、又閣下のお髭が
其如く銀色を呈するに至つたのも、又學を講じ、文を修められたのも、同じく平和の賜
であります。のみならず、閣下は平生、無邪清淨の表章たる白衣をば着用せられて、恰
も白鳩の如くに、平和の、幸福な精靈を以て自任なされる次第であります。然るに何が
故に閣下は、其有りがたい結構な平和の福音を、荒々しい、騒がしい戦亂の語に悪譯なさ
れるのでありまするか？ 經卷の革表紙を革の脚甲となされ、墨汁を、鐵筆を、神聖な
閣下のお舌を、血とも投槍とも、開戦の喇叭ともなさらうといふのは如何いふ理由でござ
いますか？

大監督

どういふ理由かとお尋ねですか？ 然らば簡単に斯うお答へします。吾々は悉く重病に罹つてをるのである、放逸と不攝生との爲に甚しい熱病となつてしまつたのであるから、血を抜くより外に療法はないのです。現に、故王リチャードは此病ひが傳染つて亡くなられた。併しウエストモアランド伯閣下、手前は決して名醫を以て自任するのでもなければ、平和の敵となつて、武人達の仲間入をしたわけでもありません。いや、むしろ暫時戦亂の怖しさを見せて、幸福の食傷をしてゐる者どもに養生を勸めて生活の血管を阻害し、さうに思はれる悪血を瀉したいと思ふばかりです。更に明白に申せば、手前は、公平に、偏頗なく考量して見ましたのです、吾々の干戈が齎す弊と現に吾々が蒙つてゐる弊害と、いづれが重いかを。さうして現在の苦痛の方が吾々の罪科以上であるとを覺つたのです。吾々は時の潮流の何れに向ふかを見て、極めて平靜な居處を捨て、餘儀なくも時勢の怒濤中に躍り入るのです。すなはち積弊の一々を簡條書にして、いざといふ時の用に備へてゐます、それは、其以前、既に王へ申し出たことであつたが、毫も聽かうともせられなかつたのです。損害や枉屈を蒙つて、其陳情の爲に王に面謁を求めると、其損害を與へた徒輩自身が遮り拒んで會せない。で、つい昨日今日の、現に地上に生々と流れてゐる鮮血が尙其記憶を書留めてゐるやうな、目前毎刻の種々の危害の看過しがたさに、遂に吾々をし

ウエス

て斯ういふ不似合な武装をさせたのです。平和を破らうなどといふ意志は少しもない、いや、むしろ、名實の一致した眞の平和を成立させたいと思ふばかりにいたつてあります。閣下の御献議を王が拒否されたのは何時の事ですか？ 王がどう冷遇せられましたか？ 内命で閣下を苦めたといふ其貴族は誰ですか？ 此不法な殘虐な叛逆に閣下が神聖な奥印とお捺しになつて、忌むべき暴舉を讚美すべきものゝやうになさるには、特に理由がなくてはなりません。

大監督

同胞全體に對し、國民に對し、又一家の私事としては、實の弟に對する殘虐行爲が専ら手前をして救済を思ひ立たしめたのです。

ウエス

さういふ救済の必要はない筈です。假令あるにしても、あなたのなさるべきことではない。(口を挟んで) 何故ないのです？ 既に前にも痛手を蒙り、今も現に不正な大壓迫を下さうとしてゐる王に對しては、吾々は悉く反抗の權利を有つてゐます。

ウエス

お、モウブレノ卿閣下、ま、とくと時勢の止むを得ない所以をお考へなさい、さすれば閣下ともおつしやるでせう、これは時代の罪だ、吾々に害を與へたのは王ではなかつたと。併し兎に角閣下は、手前の見る所では、王に對し若しくは現下の事情に對して、不平をおつしやる筈はない。あなたは御親父ノオフォーク公爵閣下の御榮爵全部を、王の好意

モウブ

によつて、そつくり其まゝ恢復なされたではありませんか？
 亡父は、今更恢復したり取戻したりしなければならぬやうな風に、假にも榮譽を失つたこととはありません！ 當時、王であつたりチャードは父を愛してゐたのはあつたが、行掛り上餘儀なく追放に處したのです。あの際、あのヘンリー・ボリングブルックと父とは、共に馬に跨つて、拍車に勇んで嘶き立つ駿馬の鞍坪に居丈高に跨つて、投槍を控へ、眉疵を下し、線隙から眼光を火花と光らせながら、高々と吹鳴らす合圖の喇叭を俟つてゐた。あの時には、あの時には、父がボリングブルックの胸先を只一突にしよつとしまいと心任せであつた時に……おゝ其時、王があゝ號令艇を抛げられたが、あれは取りも直さず、己が命を抛捨てられたのであつた。あの時に王は自身をも其他一同の者の命をも……後日冤罪を得たり、謀反したりしてボリングブルックの爲に殺された人々の命をも……抛られたのでした。

ウエス

モウブレー卿、あなたは事情をよく御存じなくつておつしやるのです。其時分、ハーフオードの伯爵（ボリングブルック）は、英國中で勇敢無双と言はれてゐなすつたのです。だから好運はどちらに歸したか分つたものぢやありません。が、幸ひにして御尊父が勝たれたにしろ、安全にコゼントリーの柵外へ出られるのはむづかしかつたでせう。何故ならば、國內擧つ

て御尊父を惡み呪つてゐたのでしたから。衆望は一へに悉くハーフオード伯に集つて、彼等は王以上に彼人を愛し、只もう彼人の爲に夢中になつて祝福するといふ風でしたから。併しこれは手前の使命以外の事です。手前は總督たる王子の命を受けて閣下がたの苦情を承はり、兼ねて、陛下が其事に就いて面謁を甘諾せられる由をお傳へに來たのです。で、閣下がたの御要求が正當である以上、萬事も望み通りになるのです、閣下がたを敵と見做さないでもよろしいやうなことになれば。

モウブ

けれども王は、畢竟、止むを得なくなつてさういふことを申し出されたのです。すなはち政略です、眞情ぢやアない。

ウエス

モウブレーさん、さうおつしやるのは少々御僭越でせう。王の此お申し出しは仁恕からです、恐怖からではありません。といふのは、御覽なさい、我軍は咫尺に陣取つてゐます。軍中一人たりとも、かりにも敵を怖れてゐる者などはありません。我軍中には勇士が充満してゐます、あなた方のそれよりもズツと武名の高い、老練な勇士が充満してゐます。甲冑は堅固だし、名分は無論最も正しい。閣下がた同様に勇敢に戦へる道理です。だから王の此提議を止むを得ないからだなんぞとおつしやるべきでない。

モウブ

いや、手前は、飽迄も、陣頭談判は拒否します。

ウエス それは御自分がたの非擧をお認めになつたことになりませぬ。てんで腐つてゐるから手が附けられないといふ意味になりませぬ。

ヘスチ (口を挟んで) ジョン王子は父王に代つて一切の事を聴取し且つ之を十分決定し得る全權を委任されてをられるのですか？

ウエス それは總督といふ名稱中に含まれてゐることです。そんな詰らんことをお尋ねなさるのは不思議ですな？

大監督 では、ウエストモリアランド卿、此書面をお持参下さい。これに吾々の不平の次第が列擧してあります。此諸箇條が矯正され、今度の擧に與つた者一同、こゝにゐる者、ゐない者の別なく、正しく有効に無罪とせられ、吾々の要望が悉く目的通りに履行された場合には、われらは再び崇嚴な領域へ立戻つて、平和事業の爲に全力を傾注しようと思ふのです。(受取つて) 此書面を總督へ見せませう。では、どうか、兩軍の面前で會見なさるやうに、て、事が平和に終る歟……これは神の御意次第……或は議が分れた場合には、劍戟によつてそれを決することになる歟です。

大監督 閣下、さやういたしませう。
ウエストモリアランド入る。

モウブ どういふ條件の下で、到底平和は望まれないやうに、わたしには思はれてならん。御心配なさるな。若し此方の望み通りの十二分の條件の下に和睦が成立つとすれば、随分

ヘスチ 岩山のやうな堅固な平和も得られませうから。

モウブ さやう、けれども王が吾々を信じてゐない以上、ほんの些細な、詰らん譴誣を聞いたとけでも、王が毎に今度の事を憶出すやうであると、吾々は、假令殉難者の氣になつて彼れに忠義を盡したところで、やばり荒い風に吹廻されてばかりゐなくちやなるまい、宛然悉く粉殻でゝもあるやうに、善悪無差別に。

大監督 いや、まさか。ま、お聴きなさい。王は既う然ういふ詰らん事を穴ぐり穿鑿するのに は倦み果てゝゐますよ。といふのは、王は、一の疑はしい者を殺すといふと、却つて更に 大きな二つの疑はしい者を生存せしめるに至るといふ道理に心附いたからです。だから、 彼れは其備忘帳を清淨に拭ひ去つて、何にも記憶に残すまい、書入れをすればするほど倍 倍損失の記憶を新たにするわけだからと斯う思つてゐるのです。といふのは、到底猜疑心 を起さずに居られるほどにそれほど十二分に不逞の徒を抜去つてしまふことの出来ないの を知つてゐるからです。彼れの敵と身方とは根が絡み合つてゐるから、敵を引抜かうとす ると、身分の根方がぐらつて來る。すなはち英國全國が、癩に障る山妻のやうに、亭主

が怒つて撲り附けようとすると、赤兒を楯に差上げて、窘めようとして振上げた其手を中途でぶらんこさせてしまふから。

ヘスチ それに、王は此頃中の懲罰騒ぎで、入用な棒を大抵折ツちまつてますから、新しい罪人が出て来ても、責道具が無いのです。だから、彼れは牙のない獅子同様です、咬まうとする氣はあつても力がありませんよ。

大監督 全く其通り。ですから、式部官閣下、若し調停が巧く整へば、和睦はきつと成立します、恰も一たび挫折した四肢が、接合はせた爲に、前よりも強健になることがあるやうに。

モウブ さうあればよいですが。……あ、あそこへウエストモリアランド卿が戻つて来た。

ウエストモリアランド 又出る。

ウエス 王子はもうすぐ参られます。どうぞ閣下には恰ど兩軍の中央といふ場所ので殿下にお會ひ下

やう。

モウブ では、ヨオクの大監督閣下、お出かけ下さい。

大監督 さ、先づ、王子をお迎へ下さい。閣下、お伴します。

はひ入る。

第二場 森の他の方面

陣頭談判を知らせる喇叭の聲。それが濟むと、一方からはモウブアレーと大監督とヘスチングス及び其他が出る。他の一方からはランカスターと公の王子ジョンとウエストモリアランドとが出る。士官其他従ふ。

ジョン

モウブアレー君、よくこそ御出張下さつた。……御機嫌よう、大監督閣下。……あなたにも、ヘスチングス卿、……其他一同の人々。……ヨオク卿閣下、あ、閣下は、あの小羊の群共が鐘の音につれて集つて来て、閣下の聖書の講義を聴かうとして、恭しく前後左右を圍繞してゐた時の方が、斯う甲冑に身を固めて、軍鼓で暴徒らを鼓舞し、言葉を劍に易へ、生を死に易へようとなさる閣下よりも、ズツと似合はしくお見えでした。譬へば、ここに十分に一國王の心を得て、其恩寵の日光に熟し切つてゐる者があるとして、若し其者が其王の信任を濫用するとしたら、果して如何な大弊を醸すでせうか、其特寵の蔭に隠れて！ 大監督閣下、あなたの場合が正にそれです。あなたは神の教に通曉した人だといふことを聞きしてゐない者がありませうか？ 吾々俗人に取つては、あなたは神聖な議院の

議長である、神の御聲其者とも想像されてお在なすつて、神聖な天意を愚味な人間共に告げ知らす役目をなさるお人だ。お、だれしも、閣下は決して其聖職を濫用なさるやうなことはないと思つておませう、天の特寵を濫用なさらうとは思ひ得ますまい、彼の似而非變臣が不正な事を其君の名で行ふやうに濫用なさらうとは思ひ得ますまい、然るに、あなたは何にも神のお爲らしく言ひ做して、神の御代理たる我父の臣民を煽動し、天の平和をも父の平和をも攪亂する斯やうな暴舉をお起しなすつた！

大監督

ランカスター卿閣下、自分は敢てお父上の平和を攪亂しようといたすのではありません。いや、既にウエストモアランド卿にも申した通り、亂脈な時勢が衆人に共同の不安を感ぜしめて、こんな怖しい形式で群り集らせ、自家の安全を求めしめるのです。先般吾々は苦情の詳細を認めて王のお手許へ差出したのですが、それは侮辱を以て却下されました。そこで遂に此兵亂の悪龍が生れたのです。但し此悪龍とても、吾々の公明正大な要求が入れられさへすれば、忽ち其怖しい眼を閉いて眠りませう、而うして其狂氣めいた憤怨が収まりさへすれば、一同おとなしく、従順に、王の御脚下に跪坐してありませう。が、若し入れられなれないとなれば、一人となるまでも戦つて、以て運命を決する覺悟です。さうして吾々が倒れれば、尙後陣が控へてゐます。若しそれが失敗すれば、第三のが繰出

モウブ

ヘスチ

すでありませう。すなはち内亂が陸續接踵して生じて、英國に人種が續く限りは、此内亂は續くでありませう。
ジョン
ヘスチングス、後世のことまで臆測して、説をお立てなさるのはくだらない、それは餘りくだらないことです。

ウェス

殿下、どうか先方の條件をどくくまでは御是認になりますか、それを有りのまゝに仰せ聞けられますやうに。

ジョン

條件は悉く是認します。且つ王族が其名譽に掛けて誓言します、全く父の意志が誤解されたのである、全く父の左右の者がほしいまゝの解釋を施して號令したのであると……閣下、不都合な條々は早速矯正することにします。誓つて、必ず矯正します。どうか兵をそれらの州へ解散して下さい、我軍とてもさうしますから。て兩軍相會して和親の宴を催しませう、再び相愛する親友となつたといふ現證を目で見えて歸國するやうに。

此時兵士ら酒壺と大盃とを持つて出る。

大監督

ジョン

ヘスチ

王子の御誓約なればお間違へはないこと、信じます。
お約束した以上は必ず遂げます。さうして閣下の爲に祝杯を挙げます。
隊長、此和睦の事を軍隊へ知らせて來い。それら給料を與へて、退去させろ。嘸皆な悦

ぶことだらう。急いで行け。

隊長一人入る。

大監督 (祝盃を舉げつゝ) ウェストモーアランド卿、閣下のために。

ウェス (同じく飲みつゝ) 閣下にお酬いたします。若しあなたが此和親を成立たせるために、手前か如

何なに骨折つたかをお察し下されたなら、十分にお飲み下さるべきです。が、手前の誠意

は尙今後更にお分りの時がありませう。

大監督 さうあらうと存じます。

ウェス そのお言葉は有りがたく存じます。……モウブレイ卿の御健康を祝します。

モウブ ちやうど好い時機に健康を祝して下すつた。といふのは、只今急に何だか心持がわるくな

りましたので。

大監督 不吉なことが起る前には、人は毎に陽氣になるが、吉事の前には氣が重くなるのが定例で

す。

ウェス だから、陽氣になさい。突然氣の鬱ぐのは……何か吉い事が明日來るぞ、とさう言つてゐ

るやうなものですから。

大監督 實にわたしは非常に心嬉しく感じます。

モウブ それは至極わるいわけです、あなたの今言はれた規則が確實だとすると。

奥にて囁の聲が起る。

ジョン 和睦の事が傳へられたと見える。え、関を作つてゐます！

モウブ 勝利を得て斯うなるのなら愉快だつたらうが！

大監督 和睦は先づ勝利と同格ですよ、雙方とも立派に服従はしたのですが、どつちにも損害はな

いのですから。

ジョン さ、どうか、我軍にも解散を命じて下さい。……

ウェストモーアランド入る。

それから、閣下、あなた方の部下の兵士らを、どうか此傍を通過させるやうにしていたゞ

きたい、敵にする筈であつた勇士らの顔を一見したく思ひますから。

大監督 では、ヘチシングス卿、解散前にこゝを通過させて下さい。

ヘスチングス入る。

ジョン 諸卿、今夜は御一しよに泊ることにしませう。……

ウェストモーアランド又出る。

我軍は何故ジツとしてゐるのです？

ウエス 將官連が、留つてるといふ御命令を承はつてゐるからと申して、直々の御沙汰をいた
だくまでは、退去いたしません。

ジョン よく本務を心得てをるなう。

ヘスチングス 又出る。

ヘスチ 閣下、我軍は既に退散しました。輓を脱された若駒のやうに、南西北へと走つて行きま
す。又は小學校の放課時といふ風で、めい／＼家路へと、遊び場所へと。

ウエス 好いお知らせです、ヘスチングス卿。(急に態度か改めて)さう聞いた上は、すぐさま其方を捕
縛するぞ、謀叛人め。それから大監督、あんたも。モウブレイ卿、あんたも、大叛逆罪と
して逮捕しますぞ。

兵士ら 群至して三人の武器を取り上げる。

モウブ (憤然として)さういふことをなすつて、それで公明正大といへますか？

ウエス 足下たちの暴舉が然ういへるか？

大監督 (ジョン王子に)かうまで誓約をお破りなさるか？

ジョン 此事に就いて特にどういふ誓約もしない。わたしは足下がたの陳情に應じて一切の積弊を
矯正することを約束した、さうしてそれはわたしの名譽に掛けて、基督信者らしく、きッ

と履行するであらう。併し足下がたは謀叛人である以上、其謀叛相當、其行爲相當の罰を
受ける覺悟をするが好い。事を起したのが既に愚舉であつたのだが、うっかり出陣して、
うっかり解散するとは、いよく愚な話であつた。……太鼓を打鳴らして退散した奴等を追
撃なさい。今日かう安全の利を收めたのは全く神のお力である。……だれか、此叛賊どもを
謀叛人の正當の臥床でもあり終焉所でもある斬首臺まで警護して行け。

入る。

第二場 森の他の方面

騒がしい喇叭、太鼓。突出。フォールスタッフと士爵ジョン・コールギルとが
行進ふ。

フォル 足下の名は何といふんだ、足下はどういふ身分だ、何處の人だね？

コール わたしは勳爵士です。名は峽のコールギルです。

フォル ふん、おや、名はコールギルで、身分は勳爵士で、住所は峽だね。名はコールギルでも可

いが、身分が謀叛人で、住所はうんと奥深い土の牢となるんだ。だから、やっぱり谷間の
コールギルでさしつかへないや。

コール 足下は士爵ジョン・フォールスタッフぢやないかね？

フォール おれがだれにしろ、ま、あの男に劣らん立派な男だ。さ、降参するかい？ 或は一骨折ら

せる氣かい？ おれが汗を垂らすやうだと、その一滴々々はお前の親友達の涙になるぜ、
お前の死ぬのを泣くんだぜ。だから、いつそ怖がつて慄へて、おれにお慈悲を願つたはう
が可いぜ。

コール 足下は士爵ジョン・フォールスタッフだらう、だから降参なさい。

フォール おれは此肚中に無数の舌を有つてゐんだ、て其只の一枚だつて、おれの名を白状してゐ

やがらねえのはねえ。おれがこれで、中位ゐの肚を有つてさへゐりや、歐羅巴中で、無論、
一等敏活な男なんだらうのにな。おれの此肚めが、此肚めが駄目にしつちまやアがる。…
：あ、あそこへおれんとこの大將軍が來た。

ランカスターのジョン王子、ウエストモリアランド、ブランド及び其他出
る。

ジョン もう熱は過ぎた。もう追撃するには及ばん。…軍隊を呼入れなさい、ウエストモリアラ

ンド卿……

ウエストモリアランド入る。

おい、フォールスタッフ、其方は何處へ往つてゐたのだ今まで？ 何もかも濟んでしまつた
時分にやつて來る。此怠慢癖は、早晚、故絞罪臺上できつと報罰されることになるだら
うぞ、もつとも臺が毀れるかも知れんが。

フォール

御前、さういふ御處分にならなかつたら、遺憾千萬に存じます。勇敢の御褒美は是非とも
お叱りであり、お小言であるとはかり心得てをりますから。御前は手前を雀や箭や彈丸
のやうに思つておいでですか？ 此大きな圖體を動かすのが箭や彈丸のやうに出來ます
かい？ こゝへ來るのには此上もない出來るだけの速度でやつて來ましたのです。百八十
頭以上の驛馬を乗殺しましたのです。さうして、こゝで草臥れてゐながら、純粹にして
清淨なる所の勇氣によつて、最も猛烈な、驍勇無双の敵軍の勇士、峽の勳爵士ジョン・コ
ールギルを擒にしました。が、そりや、いふに足らんです。奴は手前を見るや否や降服し
たからです。ですから、手前、羅馬のあの鈎ッ鼻男（シーザー）と共に、斯う言ひ得るです、
おれは來た、見た、さうして勝つたと。
そりや其方の力によつたのではなくつて、先方が武士道を心得てゐたからだらう。

ジョン

フォル　そりや知りません。奴はこゝにゐますから引渡します。で殿下に請願しますが、どうか今日の勳功帳に手前のも御記入を願ひます。で無けりや、手前は之を小唄に作らせまして、其頂邊に手前の足をコールギルがキツスしてゐる圖を畫かせます。止むを得ずしてさういふことになりますと、殿下は金貨たる手前に對して鍍金した二片銅貨と見え、又手前は恰も天上の、あの燃え残りどもの、あの留針の頭のやうな星共の前の満月といふ風に、光榮の大空の中に輝き渡つて、あなたを壓倒してしまひませうぜ。若しかこれが間違つたら、以後は貴人の言ふことも當にならんとお召せ。といふわけですから、手前を正當にお扱ひ下されて、もつと位置をお上げ下さいませうやう。

ジョン　汝は重いから、容易に上げられんよ。

フォル　ぢや、名だけでも光らして下さい。

ジョン　とても光りさうにない大きな塊りだ。

フォル　御前、どうかなすつて下さい、何かその手前の利益になるやうな風に、どういふ風でもよろごすから。

ジョン　（コールギルに）汝はコールギルか？

コール　さやうです。

ジョン　コールギルか！ 汝は逆徒中の有名な男だ。

フォル　それを良民中の有名な男が捉へましたんで。

コール　仰せの通りです、併し手前を同志たらしめた者も同様でございます。彼等が手前の意見に従つたなら、御勝利がもつとずつとお骨が折れましたでせう。

フォル　そいつらは如何いふ鹽梅式に身を賣つたか知らんが、お前は、親切者らしく、只もんめて降参してくれたねえ。まことに有りがたう。

ウエストモアランド又出る。

ジョン　もう進撃を止めましたか？

ウエスト　退却中です。殺戮は中止しました。

ジョン　コールギルは、其同志らと共に、ヨオクへ送附せい、すぐさま處刑するやうに。……プラント、其方しかと警護して、あつちへ連れて參れ。……

プラント其他はコールギルを引立て、入る。

さ、諸卿、急いで朝廷へ參らう。父王には御重體だと聞いたが、此吉報を吾々よりも先に、陛下のお手許へ達けたい。……（ウエストモアランドに）あんた、どうか此知らせを持つてつて父を慰めて下さい、わたしどもは大急ぎで直あとから行きませうから。

フォル

御前、どうか手前はグロースターシャーを通つて行くことをお許し下さい。それから、朝廷へお出でになりましたら、御前、どうか手前の功績のことを何分よろしく。

ジョン

さよなら、フォールスタッフ。わしの身分柄の許す限り、實際よりもずつと功績があつたやうに言つてやらう。

皆々入る。フォールスタッフだけ残る。

フォル

(王子の後影を見送つて) あんたにもツと洒落ッけがありさへすりやなア! 今持つてござる公領以上だになア。全く、あの青い、沈着きくさつた小僧どん、おれを好いちやぬないや。どうしたつて笑はせッこの出来ねえッて小僧だ。不思議はないや、酒の味を知らねえインだから。小僧の癖に、真面目くさつたあゝいふ奴らてものは、いざといふ時に何にもならん。といふのは、水ッぽいものばかり飲んでるから血が冷くなる、魚ばかり食つてるから男のヒステリーになる。で結婚をすりや、女子ばかり生む。奴らア大抵馬鹿か臆病者だ。こちとらだつて、酒で燃焼しなけりや同じだらうて。好いシエリー酒は二重の效能を持つてるからなア。先づ脳へ登る、そこに幡つてるあらゆる痴鈍な、下等な毒氣を乾燥さしツちまつて、それをその、想像力の活潑な、當意即妙の働きをするものにして、機敏な、猛烈な、いろんな面白い形象を生み出し得るものにする。さうしてそれが聲に移されて言

葉となつて現れると、素敵な名洒落となる。上等シエリーの第二の特質は血を温めることだ。前には血が冷えて沈み切つてゐるので、肝の臓が白ツちやけてゐたのが……それは臆病意氣地なしの標章だが……シエリーを飲むと温まつて来て、五臓六腑から四肢の隅々まで血が走り出す、顔が光り出す。それが人體といふ此小王国の各部分へ「起てッ!」といふ警報を與へる合圖の篝火なんだ。すると、平凡な小活力共や内地の小元氣なんぞが皆な御大將の心臓のところへ集まつて来る。大將、斯う元氣共に取巻かれると、氣が大きくなつて、どんな勇敢なことでもやらかす。此勇氣はシエリーから来る。だから武術に長けてゐたつて、それを働かせる酒がなけりや駄目の皮だ。學問だつても、悪魔が守つてる金山同然だ、酒がそれを押開いて活用させなけりやア。王子のヘンリーが勇敢なものも全く酒からだ。生れ附は親父の遺傳で、冷淡で引込思案なんだが、瘦地の赤土原に肥料をくれて、うんと手を入れたやうな鹽梅式に、しこたま良い酒を飲ませることに骨を折つたんで、今ぢやア熱烈な勇敢な男になつてゐる。おれに倅が千人あつたつて、眞先に言ひ聞かせる教訓は、水ッぽい奴なんかは決して飲むな、強い酒に身を打込め、と斯ういふんだ……

バードルフ出る。

どうした、バードルフ?

軍隊は皆な解散し、ちまひましたよ。

ボード
フォール
よし／＼。おれはグロースターシャーを通つて行く。あそこの郷士のロバート・シャロウド
んを訪ねて見る。人指ゆびと母指とて以て一通り捏ねといたから、封印がすぐと出来るだ
らう。さ、行かう。

入る。

第三場 ウェストミンスター。ジェルサレム室。

王
王ヘンリー四世、病中の體にて出る。第三の王子クラレンスのトマス、
(其實は第二の王子) 第四の王子グロースターのハンフリー及び伯ウォー
リック其他従ふ。第三の王子は王の背後にゐる。

王
さて、諸卿よ、若し神が、目下吾々の戸口で鮮血を流しつゝある此内亂をば、首尾よく終
局せしめ下されるならば、予は若い者共を、専心一意、神聖な遠征に従事せしめ、神のお
爲の外には、決して劍を抜かせまいと思ふ。既に海軍の艦装も整ひ、陸兵の召集も済み、

予が不在中の代理役にも既に權力の委任を終へて、萬事期望通りに進んでをるのだが、只
まだ聊か予の健康が復し足らんので、目前の謀叛人共が全く服従してしまふまではと躊躇
してをるのである。

ウォー
右兩件とても、程なく御満足遊ばされること、相成るでございませう。

王
グロースターのハンフリーよ、兄の世子は何處にをる？

グロー
ウインゾアへ獵に行かれたらうと存じます。

王
だれが一しよに行つた？

グロー
存じません。

王
弟のクラレンスのトマスが一しよぢやアないか？

グロー
いゝえ、さうぢやございませぬ。トマスどのは、こゝにお前にゐます。

クラレ
(前へ進んで) 父上さま、何か御用でございますか？

王
何でもない、只お前が無事でゐてくれればよい。どうして兄の世子と一しよにゐないの
だ？ 彼れはお前を可愛がつてをるのに、トマス、お前は彼れを大事にしない。お前の他
のどの弟よりも可愛がつてをるのに。決して等閑に思はんが好い。おれが亡い後では、
國王と彼れの他の同胞との間に立つて、お前がいろ／＼大切な役目を勤めることになるだ

らう。だから、彼れを大事にしなくちや不可ん。愛情を鈍らせたり、冷淡な仕向けをして、折角の寵愛を無駄に失つてしまつては不可ん、彼れは大事にさへすれば、情け深い生れ附なのだから。慈悲には、溶けるやうに涙脆くつて、すぐにも手を擲けて、憫れな者を救ひ上げる。けれども、それに拘らず、憤激したりといふと、燧石のやうに火花を散らす、冬のやうに氣まぐれて、宛然明け方に急に水蒸気が凍るやうに變る。だから彼れの氣分は餘程よく注意してゐなけりや不可ん。不心得を諫するのなら、彼れが陽氣に浮かれ立つてをるやうな時に鄭重に諫争するが可い。が、氣むづかしさうだつたら、鯨か陸に上つた時同様、思ふさま荒れて自分で疲勞れちまふまで、勝手にやらせておくが可い。トマス、よく記えときなさい、さうすればお前がお前の親友らの庇ともなり、又同胞一同の黄金の籠ともなつて、假令どんなに水を注さうとする者があらうとも……きつと水を注す者が出来るであらうが……骨肉一致の器には、それを入らせるやうな隙間は生じない、激毒のやうに又は爆發藥のやうに働く藥水を注込まうとしても。

王 クラレ トマス、なぜウィンゾアへ一しよに往つてゐないのだ？

クラレ あそこにお在てはありません。ロンドンで御宴會中なのです。

王 だれが一しよだ？ 知つてますか？

クラレ ポインズや其他いつものお附人と一しよです。

王 地味が良いほど雜草が繁茂する。おれの若い時そつくりの彼れにも雜草が一面だ。だから死んだ後までも心配になる、血の涙が流れる、おれが祖先と共に地中に眠る日となつたら、お前たちは如何な紊りがはしい腐り果てた世を見るであらうか、と、種々と、想像の目で歴々と詠めると。なぜならば、あの我儘な放埒に羈絆がなくなつて、熱い血の荒れ放題となつた時分には、放蕩の手蔓までが萬遍なく備はつた時分には、おし、きつと彼れは、翼の生えたやうに、向つて進んで來る危険や滅亡の眞只中へ自分から飛込んで行くに相違ないから！

ウオー 陛下、それはお案じ過してございます。王子が彼等をお友達となさるのは、譬へば、珍らしい言葉の御研究も同様で、甚しい下等な、いかゞはしい言葉も、一應はお學びにならざるを得ませんのです。が、一たび御承知にさへなれば、あゝ卑しい言葉だとお會得になれば、それでもう御用はないのでございませう。すなはち、下等な言葉をお覺えになつてお棄てになります如く、王子は其時機の熟するを俟つて、あのお附きの者共は御放逐遊ばすてせう。で、彼等は、見本や尺度のやうに、殿下が人間の性行を考量なされる御用だけ

に御記憶に存在して、以前の御不利が後の御利益とも相成りませう。

いや、腐つた死骸へ巢を掛けた蜂は、中々それを離れないものだ。……

ウエストモーアランド出る。

だれだ？ ウエストモーアランドか！

ウエス

陛下の御健康を祝しますると同時に、更に一の吉報を申し上げます！ 第二（其は第三）

の王子ジョン殿下より謹んでお口上を申し上げます。モウブレイ、監督スクロップ、ヘスチングス及び其他一同悉く伏罪仕りましてございます。もはや國內いづこにも叛徒の白刃は見えず、到る處に平和の月桂樹が茂りをります。如何にしてさやうの運びと相成つたかは、一々くはしく之に認めてございますから、御閑暇に御閱覽遊ばしますやう。

王

お、ウエストモーアランド、お前は冬の後へ出て来て、日の出を囁り告げる夏の鳥だ。……

ハーコート出る。

あ、また何か知らせだ。

ハーコ

天よ、常に陛下を仇敵より守らせたまへ！ 而うして、彼等が反抗を試みたる場合には、只今御報告申し上げる輩の如くに、速かに滅亡せしめたまへ！……英國人並びに蘇國人の一大軍をひきぬをりました伯ノオサンブランドと卿バードルフとがヨオクシャーの州

長の爲に打敗られましたでございます。其戦争の模様一切は、此書類にくはしく認めてございます。

王

（太息をして）斯ういふ目出たい知らせを聞きながら、なぜ予は斯う不快であるか？ 好運の神が決して両手で賜を持つて来てはくれんのか？ 美しい言葉をも穢らしい字で書くのか？ 食慾をば起させながら、旨い物をば與へなかつたり……それは健康な貧乏人の場合だ……珍珠を供しながら、食慾を取去ちまふ……物は餘りあつても食ふことの出来る富者の場合がそれだ。わしは此吉報を聞いて歡ばしいのだが、何だか目が見えなくなつて頭がぐらぐらして……お、だれか来てくれ、大變心持がわるい。

病ひが急に重つたらしく、王は頻りに悶へ苦しむ。王子ら驚きて介抱する。

グロー

お氣をたしかになさいませ！

クラレ

お、陛下！ お父さま！

ウエス

陛下、しつかり遊ばしませ。もしく。

ウォー

まア、王子がた。この發作は、御存じの通り、陛下にはよくお有りのことです。お離れ遊ばせ、樂におさせ申した方がよろしい。おきに、お回復でございませう。

クラレ いゝえ〜、逆ももう長くは此苦しみにお堪へなされることは出来まい。お氣苦勞が絶えな
いのだから、言はず、其壓迫で、壁が突崩されて、自然と生命が逸し去らうとしてゐるの
です。

グロー わたしは人民共の言つてゐることが氣になる。彼等は、近頃は、折々不自然な、奇怪な子供
が生れるといつて騒いでゐます。季候も非常に不順で、月が二三ヶ月分も飛越してゐるか
眠つてゐるかしてゐるやうです。

クラレ 河が三度も汎濫したが、それで曾ぞ退くといふことがなかつた。それから、老人連は、と
かく詰らんことばかり記えてゐる老人連は、曾祖父さまエドワードどのにお崩れなすつた
少し前が恰ど斯うだつたと言つてゐる。

ウォー もつと静かになつしやいまし、お氣が附きましたやうです。

グロー 此卒中でお亡くなりなさりさうだ。

王 (我れに復りて) どうぞ起してくれ。どこかあつちの室へ伴れていつてくれ。どうぞ徐と。

皆々入る。

第四場 他の一室

王は臥床の上に横臥してゐる。クラレンス、カロースター、ウォーリック
及び其他侍してゐる。

王 どうか静かにして音をさせんやうにして下さい。此疲れた心へ、竊と耳語くやうな音楽を、
だれか、眠たくなるやうに、奏してくれれば格別だが。

ウォー 別室で音楽を奏するやうに。(と侍者に命ずる)

王 枕元へ王冠を置いてくれ。

クラレ (ウォーリックに小聲で) 目が凹んでゐます。大變に變つて來ました。

音楽はじまる。

ウォー (奥へ向つて) もつと静かに、もつと静かに！

王世子ヘンリー何氣なく、つか〜と出る。

王子 クラレンスを見なかつたかい？

クラレ 兄上、こゝにゐます。悲しくつてなりませぬ。

王子 え、どうしたのだ？ 家の中は雨が降つてるの、外は晴天だのに？ 王が如何かなすつたの？

グロ 非常にわるいんです。

王子 大勝利の知らせをまだお聞きにならなかつた？ あれをお知らせすると好い。

グロ い、え、それをお聞きになつてから、大變にわるくなつたのです。

王子 喜んでわるくなつたのなら、薬を俵たないでお癒りになるだらう。

ウォー (皆を制して) もし、そんなに騒々しくなすつちやいけません。……(王子に) 殿下、どうか小

さいお聲で。どうやらお眠り遊ばしさうですから。

クラレ 別室へ退りませう。

ウォー 殿下も、吾々と一しよに、あちらへお出て遊ばしませんか？

王子 い、や。わたしはこゝでお看護してゐよう。……

皆々入る、王子だけ残る。音楽止む。

(王冠にふと目を附けて) なぜ王冠を枕元に置くのか、厄介な同寝者だのに？……あ、磨き立てた不安な物！ 金びかの苦勞の種！ 汝のち庇で眠りの門が、幾晩も閉ぢられな

いでゐるのだ！ それを今抱いて眠るとは！ けれども、逆も、あの手製の寝帽子を被つ

て、夜通し大駢をかく手合のやうに、あんな愉快な安眠の其半分だけでも眠られやしまひ。

あ、國王權！ 汝が其持主を苦しめるのは、恰どあの立派な甲冑を暑い日に着用した格

だ、身を安全にしながら、身を焼く苦しみを。……(王の寝顔をつくく見て) 口の端に羽が

あるんだが、動かない。息をしてるのなら、あんな軽い柔毛だから、是非動く筈だが。……

(臥床の後ろへ廻つて行つて) お父さま！ 父上！ 實によく眠てゐなさるのだ。(と歎息して) 斯う

いふ眠りだ、古來幾たびとなく我英國王の頭上から此金の環を奪ひ去つたのは。(涙聲で)

わたくしの貴下に獻ぐべきものは、涙と肉身の深い悲痛の情です、それだけをわたくしは

眞實の子たる愛と誠を傾けて、お、お父さま、十分に貴下に獻げます。あなたがわたくし

に下さるべきものは(と徐かに王冠を取つて) 此王冠です、これは嫡々の王子である關係上、

直ちにわたくしに傳はるわけです。そら、斯う(と頭上に載せて) 載ける。これを神がお守り下

さる。よしんば世界中の全腕力が巨大な一つの鐵腕に集まつてやつて来たからつて、此正

統の榮譽をわたしから引奪ることア出来アしまひ。これをわたくしは又、わたくしの子孫

へ譲ります、あなたから譲られたやうに。

王子 入る。

暫くして王は目を覺す。

王 ウォーリック！……グロースター！……クラレンス！

ウォーリック、グロースター、クラレンス 其他又出る。

クラレ 王がお呼びなされるやうだ？

ウォー 陛下、御用でございますか？ 御氣分はいかゞでございます？

王 なぜ手をたつた一人置いてつたのだ？

クラレ 兄上がお残りになつて、お傍でお看護なすつてました。

王 ウェールズの公爵が！ え、どこにをる？ 逢ひたい。こゝにやゐない。

ウォー 扉が明いてをります。あつちへお出でになつたのでございませう。

王 (枕元を見て) 王冠を何處へやつた？ 此枕元からだれが持つてつた？

ウォー わたくし共が引退りました際には、そこにございましたッけが。

王 王子が持つてつたね。彼れを搜して来てくれ。……そんなに氣短かなのか、眠てるのを死んだのだと思ふほどに？……さがして来て下さい、ウォーリック卿。叱つて伴れて来てくれ。……

ウォーリック 入る。

(歎息して) 此爲向けて病勢が募れば、程なく命は終るだらう。……やい、伴共、お前たちは何

王 だが、なぜ王冠を持つてつたか？

といふ料簡の者だ！ 父子骨肉も忽ち相背く、一たび黄金が目的となると！……あゝ、それだのに、馬鹿な、取越苦勞の父親共は、眠りもようせんで、種々と考へて、心配で胸を痛め、勞働で骨を痛め、非道な手段で掻集めた不淨な黄金を無暗に積重ねたりする。其子供らに文武さまざまの藝能を何くれとなく仕込んでおかうとして氣苦勞をする、恰ど蜜蜂が、いろんな花から有效な甘味を吸取つて、股には蠟蜜を詰め、口にも蜜を含んで、巢へ持つて来て、さうして其骨折の報いに殺されてしまふやうに。生中集めた財寶が、最期の父親にさういふ苦さを味はせる。

ウォーリック 又出る。

え、何處にをる、伴は？ もう直に、おれの身方の病魔の手でおれは息を引取つてしまふのに、それをすらも待つてゐない彼れは？

ウォー 王子はお次の室にお在でございましたが、全くの御孝心から、如何にも深く御哀傷遊ばして、御落涙なされてございました。血の外は飲んだことのない暴虐とても、あの御様子を見ましたら、其七首を憐愍の滴りて洗つたらうと存じます程でございます。只今お出でになります。

あ、あそこへ来た。……ハリー、こゝへ歩いてなさい。……みんな退つてくれ。わたしだけにして。

ウォーリック 其他一同入る。

王子

(うやうやしく跪いて) お言葉を二度と承はれるとは思ひませんでした。

王 さう思つたのは、ハリー、さうあつて欲しいと望んだからであらう。え、長く生き過ぎたので、待ち疲れたな。王の椅子が早く空けばよいと、お前は待ちかねてをるのか、まだ其機は来ないのに、わしの榮譽や尊嚴を身に着けてしまはうとするのは? あゝ、馬鹿な奴だ! 押潰されるのも知らないで、國王になりたがるのか!? ま、少し、待つてゐろ。わしの此威嚴の雲は、もう直雨となつて落ちるのだが、やつと微風に支へられてをるのだ。もう殆ど暗くなつてをる。お前の盗んで行つたものは、もう二三時間も経てば、そんなとをせずともお前の者になるのに、死際に、あゝ豫期してゐた通りだ、とお前はおれに思ひ知らせた。おれを愛してゐないのは、今までの行ひで分つてゐたものゝ、いよくそれが確實に分つた。お前は、胸の中で、内々短剣を百も千も研ぎすましてゐて、もうたつた半時間の此息の根を経つたのだ。えいッ! たつた半時間が待たれんのか? ぢや、自分で

往つておれの墓穴を掘つて、陽氣に鐘を鳴らさせるが可い、お前の即位を知らせる爲に、おれの死んだ知らせではなく。おれの柩に瀧ぐべき涙をば、それをば悉く香油の滴りにして、お前の即位用にするが可い。おれの死骸は、お前を生んだ此死骸なんかは塵埃としよにして、只もう蛆蟲にくれッちまへ。おれの任じた役人は皆な罷ッちまへ、おれの出した勅令は皆な廢ッちまへ。秩序を馬鹿にする時が来たんだ。ハリー五世のお即位だ! これからは虚榮の世の中だ! 王者の威嚴なんかは如何でもいゝ! 賢明な顧問官なんかは追拂ッちまへ! さうして此英國の朝廷へは、各地方から碌でなしの馬鹿者ども許り集つて来い! 隣國よ、汝らの國の劣等者を皆な吐き出してよこせ! 汝らのところに誓言したり、暴飲したり、踊り狂つたり、夜通し騒いだり、其他、強盗だの、虐殺だのといふ開闢以來の罪惡を最新の方法で行ふやうな惡黨がをるなら、喜べ、もう其奴らは汝らの厄介にはなるまい。英國が其奴らの其二重、三重の罪惡をも歡んで迎へるだらうから、官爵や權力をさへも與へるだらうから。なぜならば、第五世ヘンリーは、放逸無慚といふ狂ひ犬の鎖を切つて口籠を脱して、勝手に人に咬附かせるにしたのだから。あゝ、わが哀れな、内亂で病み疲れた王國よ! おれがこれほど心を勞しても汝の亂脈を鎮めることが出来なかつたとする、亂脈其者が王となつた時分には如何なるであらう? あゝ、汝は再び

狼の住む原始通りの荒地となつてしまふであらう！

と次第に激昂して病ひを忘れて、怒りつ歎きつして罵り、果は泣倒れる。

王子

(此間始終俯伏して泣いてゐたが、やつと顔を擧げて) おゝ、父上、御免なさい！ 涙が如是に出て、物を言ふ邪魔をしなければ、そんな深い、大きい、切なるお歎きのお叱りを、然う長々とおつしやらないうちに、お止めするのでしたけれども……王冠はそこに在ります。(天を仰いで) 無限に王冠を戴きたまふ御方よ(と改めてうやくしく跪いて) 長永に父上の有とそれを護らせたまへ！ 若しもわたくしが假にも其れを、あなたの御榮譽の標章としての意味以外で愛するやうでしたら、此恭順の姿勢から起上らせないで下さい、斯う平伏しました外形はわたくしの心中の至誠至恭の精神が指圖してさせてゐるのでございます。神よ、願はくは保證者とならせられて下さい、わたくしが先刻こゝへ来て(と父に向ひて) 陛下の息が絶えてしまつてゐるのを知つた時には、此心臓は氷のやうになりました！ これが若し偽りなら、おゝ、現在の此放逸な行ひのまゝで死んでしまつて、豫定してたやうに、立派に豹變して、世上の誤解を根本から解くなんて事は、逆も出来ないやうにして下さい！ 父上、わたくしは先刻お見舞に來まして、どう見ても御逝去としか思はれなかつたもので

王

したから、其王冠に向つて、生きてる物に言ふやうに、非難をしました。「汝に屬する心勞が我父の命を縮めたのだ。だから汝は最善の黄金でありながら、最悪の黄金である。十八金程度のもも薬水となれば人命を救ふから、汝よりも貴い。おゝ、最上等品であつて、最も人に尊重される汝は、其持主の命を奪つた」と。さう罵つて、わたくしはそれを頭に載せて見たのでした、目の前で父を殺した其者に對して、實子が敵討をする心持になつて。決してそれを嬉しく思つたのでも、誇りの念なんかを感じたのでもなく、又少しもそれが齎す實權を歓迎する所の逆心や虚榮心を持つてゐたのではありません。若し少しでもそんな心があつたのでしたら、神よ、願はくは長永に王冠を此の頭上から遠ざけて下さい、さうしてわたくしを、最上等の臣民が畏れ怖れてするやうに、其前に拜跪かせて下さい！ おゝ、作……神がお前をして王冠を持つて行かしめられたのであらう、さういふ賢明な分疏をさせて、却つてますゝ父に愛させるやうになさるために！ ハーリー、こゝへ來い。(王子起ち上ると、王は王子を抱擁する) 此床の脇へ掛けな……多分これはおれの口にする最後の教訓だらうと思ふから聽いてくれ。(王子王の脇へ腰を掛ける) 作、神は御存じのことだが、おれが此王冠を得るまでには、いろ／＼横路へも入り、曲つた間道をも通つた。てこれを被つてゐた間の苦勞心配といふものはなかつた。お前の世となれば、もつと安穩に

もなり、氣受けもよくなり、其位置が鞏固にもならう、それを手に入れた時の汚れは俺と一しよに土に收つてしまふから。俺としては、それが暴力で奪つた榮譽のやうに見えた、又現に俺達が助けたから手に入つたのだと罵りわめく奴等が多勢ゐた。それらの怖るべき不逞の徒は、お前も知つてる通り、俺が悉く壓倒した。俺の一代は逆臣膺懲といふ同じ筋書ばかり演じつゞけてゐた劇であつた。が、おれが死んで見れば、模様が變るわけだ。おれには買収品であつたのが、お前にはもつと正當な物になつて手に入る。お前は正しい遺産として王冠を譲り受けるのだ。だが、お前はおれよりもずつと堅固な地盤に立つのだとは言ひ條、まだ十分安心は出来ない、といふのは種々の生々しい不平が残つてをるからだ。それから俺の親友の者共は、それをお前が皆な親友にせにやならんのだが、彼等は、つい最近に、其牙や整針を抜かれたばかりだ。おれは最初は彼等の烈しい働きて、立身したのだが、又彼等の爲に何時廢位されるか分らんといふ恐れを抱いてゐた。て、それを避けるために、彼等の或者をば切除さ、さうして又多くの者をば聖地へひきゐて行かうと思つてゐた、ちつと手を束ねさせておくと、おれの權限しらべなどを始めさうだから。だから、ハーリーよ、狂躁な奴らは外征に従事させて、心に暇のないやうにするが可い、本國を離れて働いてをるうちに、紛れて、過去を忘れさせるやうに。まだ言ひたいことがあるが、

王子 息が切れて、此以上をいふ氣力が無い。……此王冠を手に入れた手續をば、神よ、赦させられませ、どうかお前の代には、これが平穩に保存されますやう！
 父上さま……あなたは、これをお手に入れて、お戴りになつて、保存なすつて、さうしてわたくしに下さいました以上、これは明かにわたくしの正當の所有物でなければなりません。わたくしは世界中を敵としても、非常な努力を盡して、必ず之を保持するてございませう。

王子 ランカスターのジョン出る。

王 あれ、あそこへ、ランカスターのジョンが来た。

ジョン 父王陛下の御健康と御平穩と御幸福とを祈ります！ (と跪く)。

王 ジョンよ、幸福と平穩とはお前が持つて来てくれたが、健康だけは、若い翼をはたかかせて、此萎びた裸幹から飛んでいつてしまつた。お前の顔を見たので、おれの此世の務は果てた。ウオーリックは何處にをる？

王子 ウオーリックの伯爵！ (と呼ぶ)。

ウオーリック 其他出る。

王 わしが最初悶絶したあの室には、何か特に名が附いてゐたかな？

ウォー ジエルサレムの室と呼んでをりまする。

王 神徳を讃へ奉れ！ あそこを終焉の室としよう。ずつと以前にわしはジェルサレムでな
い以上死なないと言言されてゐた、それを愚かにも聖地のことばかり思つてゐた。……
あの室へ伴れていつてくれ。あそこで臥る。あのジェルサレムでハリーは死ぬのだ。
皆々入る。

第五幕

第一場 グロースターシャー。シャロウの宅。

シャロウ、フォールスタッフ、バードルフ及び侍童出る。

シャロ とんでもない、今夜お立ちといふことはない。……おい、デーギ、あー
フォル どうか、お免しを願ひたいねえ、ロバート・シャロウさん。

シャロ いしえ、免されませんねえ。免すわけにや参りませんよ。免すなんてことはいけません。
免すべきでないです。決して免されませんよ。……おい、どうしたんだ、デーギ？

家令デーギ 出る。

デーギ へい。

シャロ デーギ！、かうつと、デーギ！。(と言つたが、急に用事が思ひ出されぬ)。かうつと、
あ、さうだ、料理番のウィリヤム、あいつに來いてつてくれ。……士爵ジョン、免すわけ
にやいしませんよ。

デーギ え、實は、斯様でございます。何分にも仰せのやうには参りませんので。それから又、
小麦はあの、端畑へ蒔きますのでございますか？

シャロ うん、赤小麦をな。だがの、料理番のウィリヤムを。……鳩の雛はないのか？

デーギ いえ、ございます。……これが鍛冶屋の書出してございます、靴の直し代と犁頭の代で
ございます。

シャロ 勘定して拂つてやれ。……士爵ジョン、免すわけには参りませんよ。

デーギ それから、もし、釣瓶の鎖が一箇是非入用でございます。……それから、ウィリヤムのお給
金は、幾らかお引去りになりますのでございますか、ヒンクリーの祭市で、彼れが先日損

パードルフと侍童と入る。

(シャロウの後影を見送りながら、北叟笑(ほくそうわら)として)おれをめちやく／＼に細く立割つたなら、あのシャロウ
どんよろしくていふ隠者(いんじゃ)握りの杖(ぼう)が、忽ち五十本(ごじゅうほん)ぐらゐ出来るだらう。奴(やつ)と奴(やつ)の奉公人(ほうこうにん)
共(とも)とは、する事(こと)、なす事(こと)が全く一致(いちじ)してゐるから不思議だ。奴(やつ)らは奴(やつ)を見真似(まね)に間拔(まねけ)の判事(はんじ)
らしい舉動(きんどう)をする、奴(やつ)はまた奴(やつ)らと交際(つぎあ)つてゐるから、奉公人(ほうこうにん)めいた判事(はんじ)になつちまふ。雙
方(はう)の氣質(きしつ)が全く絡み合(から)つて一(いつ)しよくたになつちまふ。あの雁(がし)て馬鹿鳥(ばかどり)と同じに、始終(しじう)雷同(らいどう)
ばかりしてやがるからだ。若(も)しかあのシャロウに何ぞ頼(たの)みたいことがあるや、奴(やつ)の家來共(けらいども)
の機嫌(きげん)を取ることだ、「足下(きみ)たちほど御主人(ごしゆじん)に信用(しんよう)されてゐる家來衆(けらいしゆう)はないよ」などと煽(おた)
又(また)、あの家來共(けらいども)に用(もち)があつたら、主人(しゆじん)のシャロウを嬉(うれ)しがらせるに限(かぎ)る、「あんたほど自由
に家來(けらい)を使役(しやく)し得(え)る人(ひと)はない」と言(い)つて。聰敏(さうびん)さうな舉動(きんどう)も、馬鹿(ばか)げた様子(ようす)も、わるい病
氣(おきな)と同じに、やっぱり傳染(でんせん)する。だから、友達(ともだち)は選(えら)ばんけりやならん。あのシャロウめをう
んと材料(たけな)にして、ヘンリー王子(わうじ)を、流行(はやり)が六たび變(かは)る程(ほど)の間(ま)、笑(わら)ひつゞけさせてやらう。
といふと、四期(まいご)、二訟(にそう)に當(あた)る。で、大將(たいしやう)取りも直(な)さず無間斷(むかんだん)的に笑(わら)ふことになるとい
ふもんだ。あゝ、誓言(せいごん)附(つ)きて嘘(うそ)を言(い)つたり、眞面目(まじめ)くさつて戲言(しやげん)を言(い)つたりすりや若い手
合(あひ)は大騒(おほさわ)ぎだ、肩痛(かたいた)の經驗(けいけん)なんか夢(ゆめ)にも知らねえやうな若い手合(あひ)は！ 面(つら)を、まるで、濡
入(ぬれい)る。

たま／＼引束(ひつづ)ねといいた外套(ぐわいとう)で鹽梅(あんばい)に、皺(しわ)くちやにして、馬鹿(ばか)笑(わら)ひをすらすら。

シャロ

(奥(おく)にて)士爵(ししゃく)ジョン！

フォル

はい／＼。今(いま)行(い)きます。

入(い)る。

第二場 ウェストミンスター王宮

ウォーリックと裁判長(さいばんちやう)がスコインとが行違(ゆきあ)ふ。

ウォー

これは、裁判長(さいばんちやう)どの！ どちらへ！

裁判長

王(わう)の御容體(ごようたい)はいかゞでございます？

ウォー

おめでたくあらせられます。御心勞(ごしんらう)は悉(ことごと)く終(お)つたと申(ま)すものです。

裁判長

よもや、御逝去(ごせいきよ)ぢやありませんまいね？

ウォー

自然(しぜん)の常道(じやうだう)をお通過(つうくわ)になりましたのです。吾々(われ)からいへば御他界(ごたがい)です。

裁判長

あゝ陛下(へいか)は手前(てまへ)をお召(めい)しつれ下(くだ)さればよかつたに！ 御在世(ございせ)中に忠勤(ちゆうきん)を勵(はげ)ましておいたゞ

ウオー けに未来の報罰が思ひやられます。
 成程、新王は貴下に對して好意を有つてをられませんな。
 裁判長 それは心得てゐます、で豫想以上の如何な怖しい事態が迫つて参りませうとも、それを甘んじて迎へるだけの覺悟をしてをります。

王子ランカスターのジョン、同クラレンス、同グロースター、及びウエス
 トモリアランド其他出る。

ウオー あそこへ故ハリー王の子息達が愁傷の體で見えられました。あゝ、あの王世子ハリー
 どのがせめてあの三王子中の最劣等の方の氣質でも有つてをられたならばなア！ さうて
 あれば、幾多の貴族が其位置を保つことを得たであらうに、あゝ恐らく、彼等は卑劣な根
 性を起さないわけには行かない！

裁判長 あゝ！ あゝ！ 何もかも亂脈となるてありませう！

ジョン お早う、ウオーリック君、お早う。

グロラー お早う。

ジョン お互ひに、話をするのを忘れちまつた人間のやうだねえ。

ウオー 記えてはゐます、けれども、話題が話題ですから、繰返すに忍びないのです。

ジョン さア、(と言ひかけて天を仰いで)あゝ、願はくは、神よ、其語るに忍びない君の御許に平和あら
 せたまへ！

裁判長 吾々の身には、願はくは平和あらせたまへ、更に悲みの加はらざらんために！

グロラー おゝ、裁判長どの、なるほど貴下こそ大切な親友をお亡くしになつたわけですね！ 貴下

は、全く心底から、歎いてお在であらうと信じます、借物の泣顔ではないと信じます。

ジョン 勿論、だれが如何いふ恩寵を受けるやら分らないのですが、とにかく貴下は一等冷酷な待
 遇をお受けなさりさうです。實にお氣の毒です。さうでなければ好いが。

クラレ ねえ、あの士爵ジョン・フォースタッフに取入つてお置きなさるのが必要ですよ、彼れは貴
 下とは全く相容れない男では なければ。

裁判長 王子がた、手前は、正義上、爲すべきことだけをしたのでした、無私公平の此良心の命令
 に従つてしたのでした。卑劣な手段を講じて、免されるまじきを免されようなどは思ひま
 せん。正直と潔白とだけでは通らんとすれば、手前はお亡くなりになつた故王のお許へ参
 りまして、云々の仔細で参つたと申し上げます。

ウオー (二方か見て) あそこへ王世子がお出てになつた。

下を従へて出る。

裁判長

(敬禮して)

御機嫌よろしう！

神よ、陛下を御守護あらせたまへ！

新王

仕立下しの此華美な王の服は、足下たちが相像してゐるやうに、着心が好いものではない。

……弟たち、お前たちは愁傷の中に多少の恐怖を混へてゐるやうだが、こゝは英國の朝廷だよ、土耳其やアない。アム・ラットがアム・ラットを相續するのぢやアない、ハリー

ィがハリーィの嗣になるのだ。だが、ま、澤山歎くが好い、なぜなら、歎くのは王子たるお前たちの身には善く似合つて、如何にも立派に見えるからだ。わたしもまた其同じ式通りに、悲みの深い髪を此胸の中へ畳み込ませようとしてゐるからである。だから、たんとお歎きなさい、けれどもそれは、わたしもまた足下たちと同等に負擔すべき筈である。わたしは、こゝで誓つて、お前たちの兄ともなり、父ともなる積りです、只友愛の情を持たせてさへくれれば、お前たちの心配や苦勞はわたしが荷ひませう。亡くなつたハリーィ王をたんとお歎きなさい、わたしも共に歎きませう。併し其涙をば一滴々々喜びに替へようとかめてゐるハリーィ王の生きてゐることを忘れなされるな。

王子ら

ひとへに陛下に信頼してをりまする。

新王

お前たちは皆な妙な顔をしてわたしを見てゐる。……殊に、其方は。(と裁判長に) お前は、

裁判長

わしはお前を愛してゐないと信じてゐるだらうな。

正當に御判断下さいましたならば、手前は陛下のお憎しみを蒙る筈はないと心得ます。

新王

善はない？……行く／＼國王ともなるべき身分の者が、お前がおれに被らせたりやうなあんな大屈辱を受けて、それを何とも思はんでをられると思ふか？ え？ 叱り付けて、罵倒して、英國の王世子ともある者を監獄へ暴力を以て引立てさせる？ それが平氣で看過されることか？ 物忘れ河なぞで一洗し去られることだと思ふか？

裁判長

手前は、あの際は、御父上の御名代でございましたから、手前の一身には國王の御大権が寓つてをりましたのです。で、國家の爲に、御父上に成代つて正邪曲直を取捌をりました際に、殿下が手前の身分を、正義公道の裁判役たる身分を、國王の御名代たる職柄をお忘れ遊ばして、場所もあらうに裁判所に於て、手前を御打擲なさいましたので、職務上、もはや躊躇いたすわけに参りませず、御父上に對する御不埒として、處分いたしましたのでございます。若しそれを不法だと思し召しますなら、王冠を戴かせられます今日、假に王子が在らせられて、陛下の御命令を蔑ろにし、陛下の裁判官を裁判廷に於て凌辱し、國法の執行を妨げ、陛下の御安泰を警護し奉る爲の正義の劔刃を鈍らす御所行があつたからとて、いや、たとひ如何なる陛下の御名代をも、御分身を足蹴になされたり、

辱めたり遊ばしたからとて、それを咎めになるとは出来ませぬ。御自身のお心に問はせられて、今假に王子が在らせられて、其王子が國家の大法を蔑ろにし、陛下の御尊嚴を凌辱遊ばしたと思し召せ、而うして手前が陛下に成代りまして、職權によつて、静に王子に御戒告を申し上げた、と斯様に御冷靜に御想像遊ばしました上にて、如何やうにも手前を御宣告下さいませ。王たるの御資格を以て、何卒公平に、手前が、王の御名代たるの職分上、不都合でございました條々を仰せ聞けられたう存じます。

新王

裁判長、お前のいふとは道理だ。當然だ。だから、此後とも、權衡と劍と(裁判と懲罰)を擔任して下さい。さうしてお前の名譽がいよ／＼ますます／＼加はつて、わたしの作がわたしがしたやうに、お前に對して無禮を働いて、さうして柔順にお前の宣告を奉ずるのを見るまで生延びて貰ひたいものだ。わたしもまた其時まで生きてゐて、父が言つた通りの事を言ひたい。「あ、子の實子に對してすら正義を行ふのを恐れない剛毅な裁判官を有してゐる子は幸福だ。又、正義の前には世子たるの權利をも抛つのを辭さない作を有してゐるも亦それに劣らない幸福だ」と。お前が子を監獄へ送つた其報いに、子は、今改めて、多年お前が持慣れてゐる其穢れのない劍を、お前へ贈物にする。(と言ひつゝ劍を渡して)どうか此劍を、お前が嘗て子に對してした通り、大膽に、公正に、依怙最良なしに使用してくれ

られるやうにと戒告して……さ、握手しよう。どうか齡の行かん子の父ともなつてくれ。お前の賢明な、老巧な指圖に隨つて命令をも發し、去就をも決しよう。…家弟たち、わたしの言ふことを信じて下さい。父上は、——わたしの從來の狂人根性を墓の中へ合葬しといたから、——今頃は嘸持剩してお在だらうが、其父上の嚴肅な氣質を譲り受けて、向後わたしは外見ばかりで批判をしてわたしの將來をいろ／＼と惡評してゐる奴等を鼻明してやらうと思ふ。わたしの血は、今日までは、自惚の爲に、とんだ方へばかり流動してゐたのだが、それが退潮となつた將來は、全く方向を一變して、國家の大波濤と進退を一にして、常に規則正しく堂々と流れることになるだらう。さ、我國をして古今の最善のそれと同列たらしめる準備として、先づ國會を召集しよう、さうして吾々の股肱耳目たるべき賢明な顧問共を選ばせよう。それから戦争も、平和も、いや、其二つを同時に取扱ふ事にも、熟通するやうにならねばならぬ……それらの事にも(と裁判長に)お父さん、眞先にお前さんに骨を折つて貰はんけりやならんよ……即位式が済むと、今言つた通り、國會を召集するであらう。神が子の善良な意志を御嘉納あらせられる以上、よもや王族なり、貴族なりが、假にも神に向つて、此ハリーリーの幸福なる生活を、只の一日でも短めたまへなぞと祈らうとは思ふまい!

はひ
入る。

六四〇

第三場 グロースターシャー。 シャロウの果樹園。

フォーリス、スタッフ、 シャロウ、 サイレンス、 デーギー、 パードルフ及び侍童
出る。

シャロ いや、是非手前の果樹園を御一覽願ひたいですよ、さうして四阿で、手前が手づから接木
しましたビ、ン林檎の昨年の初生りてのを食つて見ていたゞきたいですよ、葛縷子其他を
も一二品添へますからね。……さ、サイレンス、足下もね。……さうして、それから、そ
の、お就褥がよろしい。

フォル (四方を見廻して) こりや、實に、非常に立派なお住居ですよ。

シャロ ナアに、ぼろッけ、ぼろッけ。まるで乞食でござす、乞食世帯でござす。只その、何でござ
す、空気が好いだけでござす。……デーギー、布を敷いて、布を。デーギー食卓を整理する。
おつと、よし〜。

フォル デーギーどんは大變にお役に立ちますなア。お給仕役でもあれば御家令さんでもあるとい

ふわけてすなア。

シオロ は、全く忠僕でござす、全く、全く忠僕でござす。……ちや、つい、夕食に、ちと酒をや
り過ぎましたわい! ……全く忠僕でござす。……さ、お掛け下さい、さ、お掛け下さい。
さ、(とサイレンスに) 足下もね。

一同食卓に着く。

サイレ (大ぶ上機嫌で) あいよ、心得たといひをる。(歌ふ。

只もう食うて、食うて

愉快な今年を

神のお庇とお感謝申しな。

肉類は廉いが、女子は貴い。

若い衆ア浮かれて、あちこち徘徊、

日がな一日を、愉快にぶら〜。

フォル (酒盃を擧げながら) 面白い人だ! ……サイレンスさん、今に、其お禮に、貴下の健康を祝し
ますよ。

シヤロ デーギ、バードルフさんに葡萄酒をあげなさい。

デーギ (バードルフに) ねえ、貴下さん、お掛けなさいまし。今にお相手になりますから。ま、どうぞお掛けなさいまして。お侍童さん、ねえ、もし、お侍童さん、お掛けなさい。へい、よろこそ。食物の不足はお酒で償ひます。どうぞ御勘辨なさいまして、真情が肝腎でございますからね。

シヤロ バードルフさん、愉快にやつて下さい。……それから、その小さいお武士さん、愉快にやつて下さいよ。

サイレ (歌ふ)。

愉快に、愉快に、やつたり〜。

宅では嫌めが頭を抑へる、

脊高も脊低も女は悍馬、

髭面ばかりが一しよに集り、

懺悔期祭は愉快の極だに、

やつたり〜、愉快に、愉快に！

フォル サイレンスさんが斯ういふ氣象の人だとは思はなかつたねえ。

サイレ だれですか、え、わたし？ 稀には斯ういふこともあるんで。は〜は〜！

デーギ 又出る。

デーギ (バードルフに) へい、柔草林檎でございます。これは貴下さんへ。

シヤロ デーギ！

デーギ へい〜！……(バードルフに) 直に参りますよ。……(サイレンスに) 葡萄酒を一盃さしあげますかね？

サイレ (歌ふ)。

素敵な上等の葡萄酒一盃、

おらが敵に飲んでやつて下さい。

愉快に氣を持ちや、命が長い！

フォル よう〜！ よう〜！

サイレ 愉快にやらうてには、今が夜中の第一等て時刻ですよ。

フォル サイレンスさん、貴下の健康と長壽を祝しますよ。

サイレ (歌ふ)。

酒盃になみ〜漉へてお廻し、

底まで一里あると、飲みますべいによ。

シャロ バードルフさん、よう来て下すつたねえ。ねえ、欲しいものがありや言ひっこく。それを言はんやうだと、足下は實に不實者だよ。……(侍童に) ちい、大將、小ちやい盜賊さん、ようお出てたねえ、ほんまにようちいてたね。……我輩は先づバードルフ君のために飲む、それからロンドンの壯士諸君全體のために飲むよ。

デーギ (バードルフに) はい、生きてるうちに、いつか一度は行つて見たいと思つてますよ、ロンドンへ、はい。

バード 若しかロンドンで貴下に逢へばねえ、デーギーさん、……

シャロ さつとその五合壘で以て飲みくらと来るだらう！ え、さうでせう、バードルフさん？

バード さやう、一升壘でやりませう。

シャロ いや、どうも有りがたう。……奴、大丈夫、足下に畔かないよ。はぐらかしやアしないよ。素姓のいゝ男だからね。

バード わつしだつてはぐらかしやアしねえや。

シャロ よう。偷言汗の如しかね。さ、存分にやつて下さいよ、愉快に。……(内にて叩く音) だれか

戸口へ来たやうだぜ。……おうい！ だれだ叩くのは？

デーギー 入る。

フォル (サイレンスが大盃を飲干すのを見て) それで先づ御返禮が濟んだてもんだ。

サイレ (歌ふ)。

返禮してくれ、

勳士爵にしてくれ、

サーミンゴー！

斯うでしたね？

フォル さうです。

サイレ ですか？ ぢや、老人もまだ幾らか頼もしうごわすね。ははは！

デーギー 又出る。

デーギ (フォルスタッフに閣下へ申し上げますが、ピストルといふ方が、何か朝廷からのお知らせを持って来たつて、ござらつしやりました。

フォル 朝廷から！ 呼入れて下さい。……

ピストル 出る。

ピストル、どうした？

ピスト (敬禮して) 士爵ジョン、御機嫌よろしう!

フォオル ピストル、どういふ風に吹かれてやつて来たんだ?

ピスト だれの爲にもならぬ悪い風なんか吹かれて来たんぢやありませんぜ。士爵さん、お前

さんは、英國中の一等大きな人間の仲間入をしたんだぜ。

サイレ 大丈夫さうだらうね、バーソンの、あのプッフ爺さんだけを取除けりやアね。

ピスト (大きに腹を立て、) プッフだ! プッフた 此方ていふこつた、爰な卑怯な腰抜け爺めが、う

ぬ!……(と大見得を切つておいて、来れるサイレンスには關はずフォールスタッフに) 士爵ジョン、我輩は足

下のピストルであると同時に莫逆でもあるんだ、だから、暗雲に汗馬を突走らせて、すな

はち此吉報を、此幸福なる通告を、此黄金的報道を齎して来たんだぜ。

フォオル ちい、頼む、もつと平凡な、俗な、人間らしい言葉で報告してくれ。

ピスト 平凡だの、俗だのといふ卑屈なものは七里結界だ! おれは亞弗利加的の事や黄金的の報

道を話さうてんだ。

フォオル ちい、卑な亞西利亞のち武士さん、足下の報告てのは何だい? さ、有體に、コフイーチュ

ア王陛下に言上してくれ。

サイレ (歌ふ)。

ロビンフッドとスカレットとジョン小頭と。……

ピスト (サイレンスを睨んで) 埃溜漁りの野良犬なんかの分際でヘリコンに對抗しようてのか? 折角

の吉報告を滅茶々にしちまはうてのか? ちや、ピストル、お前は其頭を怨靈神の前

垂の中へ埋ちまへ!

サイレ (ピストルに) 貴下さん、わしは曾ど、貴下にやち目にかゝつたこともないのに。

ピスト 然らんには、いよゝ以て惘然至極だ。

シャロ (ピストルに敬禮をして) え、失禮でござりますが、……若しもその、貴下が朝廷から何等かの御

報告をお持たせてござすなら、其解決法は、要するに、只二様あるのみでござせう。……

直ちにそれを御發表なさるか、或は御隠蔽なさるか? 手前は王陛下から或職權をお預り

申してをる者でござす。

ピスト 王陛下とは何處の王陛下だ、此田夫野人が? さ、言ふか? 死ぬか?

シャロ ハーリー王陛下でござす。

ピスト ハーリーは四世か? 五世か?

シャロ ハーリー四世王でござす。

ピスト へ、そんな職權が何になる!……士爵ジョン、お前の可愛がつてた仔羊が王さんになつた

よ。ハリー五世てのがそれだ。眞實のこつた。若しピストルが嘘を吐いたら、(入指ゆびと中指との間へ母指を挿んだ拳を突出しながら) 斯うしてくれ、無花果を見せてくれ、あの喧嘩好きの西班牙人のやうに。

フォル　え、ぢや、老王さんは死んだのか？

ピスト　うん、扉の釘よろしくだ。今言つた事は皆な事實だ。

フォル　パードルフ、さ、あッちへ！ 早く馬に鞍置いてくれ。……ロバート・シャロウさん、何でも關はん、好きな職にお就きなさい、おれが受合ふから。……ピストル、今に夥多官職を装填してやる、待つてろ。

パード　ありがてい！……勳爵士ぐらゐぢや俺満足しねえぞッ！

ピスト　どうだね！ 大上等の報告だらう？

フォル　サイレンスさんを寝かしなさいよ。……シャロウさん、ねえ、シャロウ閣下……何でも好きなやうになさいよ。おれは好連の女神の家令も同然だから。……長靴をお穿きよ。すぐに馬で夜通しやつて行くんだ。……お、ピストル、御苦勞だつた……パードルフ、早く！……(パードルフ入る)。おい、ピストル、もつと後を話してくれ、さうして汝の出世の段取も考へとけ。……おい、シャロウさん、長靴々々。若い王さんめ、おれを待焦れてるだらう。

ピスト　だれのも關はんから、馬を持つて來な。英國の法律はおれの勝手次第だ。おれの友達は皆な幸福だが、氣の毒なのはあの裁判長だ！

ピスト　奴の肺の臓なんかは熊鷹に食はしてくれ！ 以前のおれは何處にゐるって言やがらア。へい、こゝにお在なるとおつしやる。さア、これから愉快だぞッ！

皆々浮かれ立つて入る。

第四場　ロンドン。街上。

教區の風俗係りの吏員甲、乙、丙、青色の制服で、女主人クイックリーと
ドール・チャシートを引立てつゝ出る。

女主人　いゝえ、お前さんはおそろしい悪黨です。わたしや此まゝ死んじまひたい、お前を

吏員甲　解死人にして絞罪にしたいから。肩の蝶番が脱れちまつたぢやないかね？ あゝ痛い！

彼女ア(とドールへ思入して) 警保官から引渡しになつたんだ。今に十分笞のお振舞にありつ

ドー爾 邏卒め、嘘を吐け。おい、若し今おれが孕んでるのが流産になるやうだと、牛の胃腑面野郎め、汝は自分のち袋をぶんなぐつたはうがまだしものことになるぞよ、紙面野郎め！

女主 あゝ、かういふ時に、ジョンさんが来てくれるといふのに！ あの人が居りや、どいつだかが血みどろになるやうな目に逢ふんだらうのに。だが、神さま、どうぞドー爾さんのお肚の子を流産にして下さいまし！

吏員甲 さうだと又座蒲團が十二枚も要るぞ、今は十一枚しかないのだが。さ、さ、一しよに歩

ドー爾 おい、香爐の蓋に附着してる薄ッぺらの人形野郎、おれの言ふことをよく記えときな、今に此報いて汝等はみつちり咎を食ふんだから……此青蠅野郎の、食ふや食はずの掃溜邏卒め、おのしらのやうな奴らが撲られないやうなら、もうおれは女下袴なんか縁切にしッちまはア。

吏員甲 さ、さ、女武者さん、さ、さ、おいてく。

女主 おゝ、神さま！ 正義が暴力に勝ちまふんだからしやうがないわねえ！……だけど、難澁から安樂が生れるといふから。

ドー爾 さ、悪黨、さ、早くおれを裁判官の許へ連れてけ。

女主 さ、伴れてきな、飢がりの獵犬野郎。

ドー爾 やい、骸骨、やい、骨！

女主 しやり骨！

ドー爾 おい、瘦ッぼち。おい、瘦鹿。

吏員甲 よしく。

ふたりを引立てゝ入る。

第五場 ウェストミンスター院附近の公街。

二人の僕、葎を地上に蒔きつゝ出る。葎は、室内、室外とも、當時は敷物の代りに使用したのである。

第一僕 もつと葎を、もつとく。

第二僕 喇叭が二度聞えたぜ。

第一僕 御即位式が濟まないうちに二時になちまふだらうぜ。急いでく。

ふたりとも入る。

フォール スタッフ、シャロウ、ピストル、バードルフ及び侍童出る。

フォール ロバート・シャロウ君、おれの傍にゐたまへ。王に挨拶をさせるから。傍へ来た時分に、おれが目くばせをする、と大將どんな風におれを待遇するか、見てゐたまへ。

ピスト 神よ、士爵さんの肺の臓を祝福したまへ！

フォール おい、ピストル、こゝへ来い。おれの背後に立つてろ。…あゝ、新しい制服を仕立てさせる暇があつたなら、足下に借りたあの千圓をそれに使ふんだつたに。が、かまつたこと、ない。この見すばらしい奴の方がいゝや。王に逢ひたさに、急いでやつて来たて證據になるから。

シャロ いかにも。

フォール 如何なに友情が切だかてことが證據立てられるからね。

シャロ いかにも。

フォール おれの熱誠が證……

シャロ いかにも、いかにも、いかにも。

フォール 夜を日に繼いでやつて来たてことがね。躊躇したり、廻想したり、服を着替へたりしてゐ

ねえて……

シャロ 全く。その點が最も妙でござす。

フォール 汚れたまゝの旅行服で、只もう逢ひたさに、汗を流して、何もかも忘れて、放擲ッといつて、やつて来たらしく見えるからね。

ピスト すなはち、要するに、一にして二ならずです。所謂不即不離でさ、全が各部に存在してゐるんでさ。

シャロ いかにも、全く。

ピスト ねえ、士爵さん、貴下の肝臓に炎症を發させて、憤激させることがありますぜ。……あんなあの、ヘレン姫ともいッつべきドール嬢は、今や監禁の身となつて、あはれ傳染的の牢獄内に呻吟してますぜ。けちな、下等な奴らに拘引いて行かれたんでさ。……宜しく速かにアレクトーの毒蛇の棲む最闇黒の洞中から復讐神を叩き起し來つて、彼嬢を救ふべきです。此ピストルのいふこと金輪際事實ですぜ。

フォール うん、大やうにうなづいて。救はらう。

奥にて多勢の獸呼の聲、盛んな喇叭の聲。

ピスト (又見得を切つて) や、轟き渡る怒濤の響、鳴り轟ける喇叭の聲々！

と劇白のやうに言ふ。

王と其従列と出る。裁判長も従ふ。

フォル (大得意で出迎へて) いよう! 萬歳! ハルさん! ハル王さん、萬歳!

ピスト 萬歳! 萬歳! すっぱらしい、いたづら王子さんの偉物!

フォル 萬歳! ハルちゃん!

王 (裁判長に) 裁判長、あの馬鹿者を制して下さい。

裁判長 (フォルスタッフらに) こらく、お前がたは氣が狂つたのではないか? 言つてゐることが分

つてるか?

フォル (王に) 王さん! 大將! おい、足下、足下に物を言つてるんだよ!

(フォルスタッフに) 老人、汝は何者だ知らんが、祈禱をせい、祈禱をせい。白髪で阿呆や幫間の役を勤めるのは似合はん。予は、大ふ久しい間、恰ど汝のやうな肚の怖しく脹れた、汚はしい或老人を夢に見てゐたが、目が覺めて見ると、それを思ひ出すのさへも否だ。以後は體の量をもつと減して、徳をもつと殖すやうにしる。大食ひを止める。て無いと、墓穴が汝を迎へるために、他人に對する時よりも三倍の大きさに口を開けて俟つだらうぞ。予に對して又と馬鹿口を叩くな。予は舊の予ではないぞ。神は夙に御存じのことだが、予

は世人をして予の豹變を認知せしめると同時に、予を友としてゐた徒輩にもそれを覺らせようと思ふのだ。予の行ひが舊の通りだと聞いたなら、やつて來い、舊の通り汝を師匠にして亂暴を働かうよ。それまでは、汝に十哩以外の追放を命ずる、他の舊惡友共一同と共に。若し誤つて予の身近くへ參ると命が無いぞ。資財がないと、止むを得ず惡事を働くてもあらうから、食ふには困らんやうにしてやる。改悛の實が見えれば、器量に應じて、それく登用の道をも開いてやる。…裁判長、これは卿さんの責任として、只今申し渡した通りを實行して下さい。…(従列を顧みて) 進め。

王及び従列一同入る。

フォルスタッフらは呆れ、驚き、失望する。

フォル (惜げて) シャロウさん、あんたにや一千ポンド借りてたねえ。

シャロ (同じく萎れて) いかにも。どうかあれだけは、持つて歸られるやうにして下さい。

フォル シャロウさん、そいつアむづかしいよ。が、ま、心配しなさんな、多分、今に、内密で呼びによこす積りだらうから。つまり、何だ、世間體、まア、あゝしなけりやならねえのだ。大丈夫、あんたアおれが出世させるよ。なに、おれが附いてる以上、何かしてあんたを大きくするよ。

シャロ だつて、あなたの其下衣を我輩に被せて、さうして薬か何か填込むより外にや、大きくする仕方はなささうだ。……ねえ、士爵ジョン、どうか、あの一千ポンドの半分だけでもいゝから返して下さい。

フォル 大丈夫、約束は違へやしないよ。王があゝ言つたのは、體裁だよ、跋を合はせたまでいゝ。いゝや、體裁ではなく、制裁らしいから、罰が怖うぞわす。

フォル なアに、撥なら太鼓に中らア。さ、さ、一しよに食事しよう。……(ピストルに) ころ、中尉。ころ、バードルフ。……(シャロウに) なアに、きつと今夜中に呼びに来ませ。

王子ジョン 裁判長を伴ひて又出る。役人ら従ふ。

裁判長 (役人に) 士爵ジョン・フォールスタッフをフリート(監獄所)へ引立てる。同類の者も一しよに。

役人ら フォールスタッフ主従を取巻く。

フォル (驚いて) 閣下、閣下……

裁判長 今は答へるわけにはいかん。後に聞かう。……引立てる。

ピスト (見得を切つて) われ薄運なりと雖も、未來の希望無きにもあらずッ!

ジョンと裁判官とを残して皆入る。

ジョン 王の此處分は頗る氣に入つた。以前お傍去らずであつた奴らに十分の手當を與へて、改悛

の實が擧るまでは、國外に追放なさらうてのは、全く當然の御處分ですね。

裁判長 さやうでございます、はう。

ジョン 國會も召集になりましたね。

裁判長 はう。

ジョン 本年中に、きつと、今まで内亂の鎮定に使つてゐた劍や勇氣を、佛蘭西まで持出すことにならうてせうよ。鳥がそんな風に囀つてゐましたが、その妙音楽が、どうやら王の氣に入つたらしかつた。……さ、行きませう。

二人とも入る。

閉場詞

舞踊手述

先づ、心配を致し、次にお辭儀を致しまして、最後に口上を述べます。心配は御機嫌に適つたかどうかといふのでございます。お辭儀は手前の本務で、口上は失禮のお詫びに外な

らるのでございます。若しも巧妙な口上を述べるのだと御期待になつてはは大變でございませう。今日の口上は手細工でございませうから、不細工千萬だらうと存じます。ですが、ま、ともかくも申し上げて見ます。さて、とうに御承知とは存じますが、手前は先だつて、不出來の演劇の終演に、お詫びのため、こゝへ罷り出まして、此次には必ず上等なのを御覽に入れます、とお約束をいたしましたのでございませうから、本日もまたお氣に召しませんやうでございませうと、手前は身代限りでございませう、随つて債主たる諸君に於かせられても、御損毛といふことに相成ります。が、お約束ゆるぎ斯様に罷り出まして、お慈悲の御處分を願ひます。何分かを御免除下さいますれば、多少のお支拂を仕りました上で、世上一般の慣例通り、行く／＼は必ずといふ御契約を無數にいたします。若し舌で願ひましたゞけでは御宥免にならんとございませうれば、脚を使ひまして拙い踊を御覽に入れても宜しうございませうが、お借り申しておいて蹶散らすなんてのは、あまり失禮でもございませうか？ 併しながら、良心が健全でございませう以上、出来るだけのお償ひは致します。御婦人がたは、もう既に宥下さいましたのですから、殿方だけが敢て御異議とございましては、そこどころが、それ、どうもその、前例のございませうことで、如何はしうございませう。

尚一言申し添へませう。脂肪澤山の肉にまだお厩果遊ばしたわけでございませうなら、作者は、もう少し士爵ジョンの話をついで、佛の女王カサリン姫に關する面白い筋を御覽に入りたいと申してをります。佛國へ参りまして、フォールスタフは大汗の爲に命を失ひますさうで、尤も御評判次第で、其以前にも絶命致すてございませうが。現にオールドカッスルは忠死致しました、此れと彼れとは全く別人でございませうから。大ぶ舌が疲れました。此上は、脚の疲れますのを界に、「お休み遊ばせ」を申し上げます。さうして跪坐して、諸君に御挨拶をいたします。が、其實は、女王陛下のお爲に、お祈りをするのでございませう。

じやく馬馴らし



MISS LILY BRAYTON AS KATHARINA
In "The Taming of the Shrew"

Rita Martin, Photo

緒言

沙翁の作と推定せられたる脚本三十七編の中に、其傑作を以て目すべからざると同時に、其純なる作とは見做しがたきもの若干あり。此『じゃ〜馬馴らし』の如きは其一なり。

此作には、例の如く、前後の二種ありて、二つながら傳存せるが、前なるは蕪雜粗笨にして、後なるはやゝ洗練の加はりたるものなり。前なるは、作としての價值頗る低く、通例、ビールもしくはグリーンなどの筆に成れるならんと推測せらる。後なるは、現に沙翁の作と見做されをる本譯書の原本なるが、これとても、喜劇としては、『間違ひの喜劇』コメディ・オブ・エラーズなど、同列に、ファリス級に屬せしむべきものにして、沙翁の傑作ならぬことは勿論なるを、敢て此集中に加へたるには、聊か故あり。

其第一の理由は、此作が沙翁前派の粗笨なる喜劇、即ち我が大阪俄などと其趣味及び形式を多少同じうせるものゝ代表作にして、當時最も廣く歓迎せられしものなるゆゑに、英國古劇の一標本として紹介しおくを便宜と考へし爲なり。第二の理由は、開幕劇（序劇）と本筋の劇とを關聯せしめて、劇中劇の趣向を大規模に結構したる點に特色ありて、當時の劇の娛樂本位なりしを示すに適

當なる作と思惟せし爲なり。第三には、此作は其作意の頗る淺露にして不自然なるにも拘らず、今尙ほ列國の好劇者間に歡迎せられて、屢々上演せられ、殊に、カサリン對ペトルキオのいささつと序劇とは、既に嘗て翻案せられて我が劇場にても演ぜられ、多少話柄ともなりをれば、沙翁劇の譯集中に此作を缺如せば、不備の感なきにしもあらざるべし。次に、此作が、今日に在りては、自由の本源とも、女權の發祥地とも稱せらるゝ英國の本土に於てだに、三百數十年前の其封建時代には、夫唱婦隨を不磨の金則として認受し、男を尊しとし、女を卑しとし、夫を君主とし、妻を臣婢とし、甚しきに至つては、妻を家財もしくは家畜の如くに取扱ひしことある由を證據立つる點に特色あると同時に、かゝる作の、今尙ほ英米其他の好劇者間に歡迎せらるゝは、夫となれる男性の衷心には、廿世紀の今日と雖も、尙ほ依然として少からぬ專制的要求の潜在しつゝあるとを證據立つるものとも見るべく、隨つて理想的男女同遇の實現し易からざるを想像せしむる點に特色あるも明白し。要するに、此作を「傑作集」中に收めたるは、藝術品としての價值以外の理由に因る。

沙翁の作と見做さるゝ後の作の初めて印刷に附せられしは一六二三年にして、例の第一フォリオが其最初の公刊なれど、それよりも以前即ち一五九四年と一五九六年と一六〇七年との三回に、所謂の作が、既に、四つ折本の體裁にて出版せられをれり。此古脚本は "The Tuning of A Shrew"

と表題したるものにて、作者の名は見えず。其後も屢々復刊せられて、彼のコリヤ一の『沙翁文庫』或はハズリットのそれなどの中に收められて、幸ひに今日までも傳存せり。然れども評者は未だ其原本を閲するに及ばざれば、爰には間接引抄によりて比較の概要を記す。

前の作即ち古脚本と沙翁の筆の加はれる現在の作とにては、種々の點に頗る著しき相違あり。只筋立だけは、殊にカサリンとペトルキオとに關する部分は、殆ど全く同一なりといはんも差支へなけれど、副への筋、人物の數及び名、其性格、其臺詞の内容等は、古脚本と沙翁のとは、著しき逕庭あり。前者にては、カサリン以外の名は悉く沙翁のそれらとは異なれり。又、幕割もなく、場割もなし。次に、處は、沙翁の作にては伊太利のパデュアなるが、古脚本にては希臘のアセンスとなりをれり。又、富豪バプチスタ・ミノラに相當するアルフォンゾは、女子二人の代りに、女子三人を有し、隨つて其求婚者も、其求婚者に從へる僕共も、恰もそれに均齊するやうに、おの／＼三人より成れるなど、所謂教訓劇の慣手段そのまゝなるが、いづれも其性格上に何等の特色もなく、すべての點に於て、沙翁の作に劣れること論なし。但し泥醉せる賤者を主人公としたる序劇の筋だけは、古脚本の方が首尾相應して一貫せり。左に、ハズリットの『沙翁文庫』より抄録せるものによりて、沙翁の作との異同を検せんに、

古脚本にては、酒店の主婦の役が酒場の給仕人となりをれり。又、醉漢の名は同じくスライなれ

ど、特に「乞食」と附記しあり。而して、沙翁の作にも、第一フォリオ版までは、此「乞食」といふ附記を保留したり。現行本に、領主の臺詞中に「此乞食め云々」とあるは、明かに古脚本の句の名残なるべし。次に、沙翁の作にては、スライに關する事件は第一幕第一場以後斷絶し、其以後には全く所見なきに、古脚本にては、尙ほ本筋の劇を縫うて、處々に挿入せられあり、且つ第五幕に末に至りて、彼れが、領主の命によりて、其熟睡中に、再び以前のむさき服に着替へしめられて、元の酒場前へ運び戻され、そこにて以前の給仕人に呼起されて「さては今のは夢にてありしか」と駭き呆るゝといふ結局までも示しあり。かくありてこそ劇中劇の脚色は具足すといふべけれ。沙翁の作が此點に於て不具なるは如何なる故にや。按ふに、此劇中劇の趣向は、數回の復演によりて、當時の觀劇者には、既に備さに知れわたりゐたるべければ、沙翁が改作せし頃には、本筋の劇の終ると共に觀衆は大抵退出せしなるべく、随つてもはや舊の如く序劇の筋を演じ通す必要はなかりしならん歟。蓋し泥醉せる賤者を其熟睡中に或貴族が殿上に拉致して、戯れに之を欺きて貴人として待遇し、後、泥醉せしめて、元の處へ運び戻し、南柯一夢の奇に駭き呆れしむといふ筋の話は、古くば、既に『アラビヤ夜話』の中にも見えたるが、チャールス五世の逸話としても、又バアガンディのフィリップの逸話としても、又薩鞞王に關する話としても知られ、沙翁時代には廣く人口に膾炙しをりしが爲もあるべし。

沙翁の改修は、果して此作の如何なる範圍にまで及べるかに就いては、學者の説一定せざれど、少くとも此序劇の全部及び本筋の劇の第二幕第一場の主要部、第三幕第二場のそれ、第四幕の第一、第三、第五場、第五幕の第二場等は、すべて沙翁の筆に成れるものならんとは、フアイニヴル博士の推定なり。就中、序劇は、其沒韻律語の句法といひ、其特色ある詞藻といひ、作者の故國たるウォリックシャー地方に關する種々の暗示といひ、彼れが感興を以て物したるや疑ひを容るゝの餘地なしとも評せらる。例へば、酒店の所在地をウィンコットとなせるは、恐らく彼れの生誕地ストラットフォードよりは僅かに四英里なりしウィンコット村か、或は彼れの母メリー・アーデンが住へりしウィルムコート(又の名ウィンコート)村を思ひ寄せたるが爲なるべしといふ。尙ほ其昔、手釀り麥酒によりて有名なりし村にウイルンコートといふがあたりきと説ける學者もあり。酒店の主婦の苗字ハケットも現にウィンコット村の古記録に見え、又スライといふ名も沙翁時代のストラットフォード附近には普通なりきといふ。

此劇は、沙翁の作ならぬ古き脚本の頃に於て、既に屢々上演せられ、且つ屢々好評を博し、廣く公衆に愛好せられたりき。然れば沙翁が此作を改修せしは、主として興行主の要求に出でしなるべし。即ち此人氣ある劇をして漸く進遷し行く時代の好尚に隨伴せしめて、其脚本としての壽命を延

長せんとせしに外ならざるべし。故ウィリヤム・ウィンター氏のいふ所によれば、沙翁の同人らも此作を、或はブラックフライヤース座に於て、或はニューキントン・パツに於て、或は地球座に於て、上演せし由なるが、其上演模様消息の一も傳はらざるは遺憾なり。沙翁死後も、此劇の人氣は衰へざりきと見え、或は此作の後段として作られしフレッチャーの『The Tamer Tamed』(『馴らし手馴らし』)と相並べて演ぜられなどして十七八世紀に及びたり。但し例のペビスの日記中に見えたるもの如きは『The Taming of A Shrew』と書きたるを見れば、沙翁の改作を更に多少古脚本へ引戻したるものなりしが如し。尙ほ彼の一七五四年の名優ガリックがドリユーリー・レーンにて上演せし「カサリンとペトルキオ」と題したるもの、如きも、沙翁の作其儘にはあらずして、脚色にも詞句にも取捨添削を施したる上に、序劇の全部とピヤンカに關する挿話とを悉く除き去りたるものなりき。而して此ガリックの改作本は其後も久しく用ひられ、或は今も尙ほ用ひらるゝならん。ほゞ現行本通りに復活されての上演は一八四四年に於けるロンドン市ヘーマーケット座のそれを始めとす。俳優ペンジャミン・ウェブスターの努力に因れりといふ。されど藝術としての價值ある上演は一八五六年のサドラー・ス・ウエルにての名優フェルプスのそれを最先とすべく、フェルプスはスライに、ヘンリー・マーストンはペトルキオに、ミッス・アトキンソンはカサリンに扮して成功せり。十九世紀、廿世紀に入りての記憶すべき興行は、一八六七七年のエレン・テリーと故アーギングのカサリンとペトルキオ、

一八七〇年のミッス・アレンとフェヤクロフのそれ、一八七五年のヘレン・バリーとウィリヤム・リグノルドのそれ、一八八〇年のベラ・ペートマンとヘンリー・ネザルのそれ、一八八八年のエーダ・リハントジョン・ドリューのそれ、一八九三年と一八九七年の同じくエーダ・リハントデオルデ・クラークのそれ、一八九七年のミセス・ピヤボム・ツリーとハーバート・ピヤボム・ツリーのそれ、一九〇四年のリリー・プレートンとオスカ・アシュのそれなどなるべし。

米國の劇壇にては、ブリスの頃までは、ガリックの改作を用ふる習ひなりしが、一八八七年に至りて、オーガستن・ダリーはじめて現行本通りを上演するの端を發きたりといふ。尙ほ英語國以外の劇壇に於ける此作の上演に關してもいふべきこと多少あれど、くだゞしければ、今は略す。

いふまでもなく、此劇中の主なる役はペトルキオとカサリンとなるが、二役ともに、殊にペトルキオに至りては粗暴なる活動を特色とせるが故に、夥しき筋肉的勞力に堪へざるべからず。或俳優の如きは、強ひてカサリンを引立て去る場のペトルキオに扮して、力任せにカサリンに扮せる女優を投出すを例とせしかば、該女優が舞臺にて該男優を怖るゝこと劇のカサリンが劇のペトルキオを怖るゝさながらなりきといふ奇談もあり。俗衆の此劇を喜びし一つの理由はかゝる藝術以外の見どころにも存せしならん歟。次に、二役共に、今の觀劇者の同情を牽かんには、餘りに粗なる心理描

寫より成りて、活きたる性格らしき深みをも温みをも缺けり。例へば、カサリンの豹變の如き、如何にも心からの改悛らしきだけに、唐突に過ぎて不自然なり。ペトルキオとても、作の表面に見える限りには、不羈放縱なる一個の粗暴漢たるに過ぎずして、今人の心には不快感を覚えしめざるを得ざる言動多し。故に、古來名優の此二役に扮するや、大抵作意以上又は以外に出て、自家の新解釋を補填しつつ、かくして臺詞に見はれたるよりも多少複雑なる性格のものとして演ずるを例とせり。例へば、ペトルキオの衷情を、其口にし動作にする所よりも遙かに紳士的のものとし、彼れの粗暴なる云爲は主としてカサリンを善化せんための好意の方便に外ならざるが如くに解するが如きは其一なり。又、カサリンに關しても、或は彼女の本來性を極めて可憐にして温良なりと解し、其倨傲、其躁暴、其剛愎等は、我儘育ちの然らしめたる皮相の習癖に過ぎずと做し、假令戀愛の爲にたりとも、他の支配を受くるとを屑しとせずと見識張れる其心の底に、其實は、切りに男性の愛に憧れ、寧ろ絶對服従をも敢てせんとする意向を半無意識の間に懷抱せる女として演じつゝ、成功せしエーダ・リハンの如きあり。總じてかゝる古典となれる作は、所謂名優の型によりて其缺陷を補填せられ、只讀みたるのみの時とは著しく趣味をも面目をも異にして上場せらるゝ習ひなることを記憶すべし。

大正九年九月下旬

譯者識

登場人名

領主

クリストファー・スライ 鑄掛屋。

酒店の主婦、侍童、俳優ら、獵師ら、
 從者、家來等。

序劇に出づる人物。

バプチスタ・ミノーラ バテニア市の富豪。

井ンチェンシオー ピザ市の老紳士。

ルーチェンシオー ギンチェンシオーの男、ピヤンカの情人。

ペトルーキオー エローナ市の紳士、カタリーナの求婚者。

グレミオー

ホオテンシオー バテニア市の住人にして、ピヤンカの求婚者。

ツラニオー
 ビオンデロー
 グルーミオー
 カーチス
 村學究

ル―チエンシオーの従僕。
 ペトルーキオーの従僕。

カタリーナ(或はカサリン) 雷娘
 ビヤンカ、其妹
 未亡人某

バプチスタの女。

裁縫師、小間物商、バプチスタの家僕、ペトルーキオーの家僕。

場所 バデューア及びペトルーキオーの別墅。

じやく馬馴らし

序 劇

第一場 荒れた丘の酒店の前

酒店さかみせの女主おかみと鑄掛屋いかけやのスライと出る。スライは泥酔でいするしてゐる。

スライ 撲り附けちまふぞ、うぬれ。

女主 お仕置しおきだに、悪黨あくたう！

スライ 碌ろくてなし婆ばめ。スライさまの御一門ごもんに悪黨あくたうなんかあつて堪たまるか！ 年代記ねんだいきを見て見ろ。

あらッちはリチャード征服者コンシエロアさまと一しよにやつて來たんだ。だから、敢あへて駄言だごんを要えうせずだ。

浮世うきよはともなれだ。よいぢッさだ！

女主 破こしたコップの代だいも償ささはないのかい？

出ださねえ、銅あかひ一つだつて。「歸かへんなく、エロニモ！。冷つめたい寢床ねここへ往いつて、温あたまんなさい」

じゃじゃ馬馴らし

スライ 女主

といやアからア。

女主 ぢや、此方にも爲様があるよ。第三警察部のお役人さん呼んで来なくちやならない。

女主 入る。

スライ

第三だらうが、第四だらうが、第五だらうが、びくりともするこっちゃアねえや。警吏が来りや、見事に應對してくれら。来るがいしや、似つこらしくやつて来やアがるがいし。

と言ひくスライ眠る。

獵師の角笛の聲が聞える。やがて山獵歸りの一領主が獵師及び従者を連れて出る。

領主

獵師、犬どもをよくいたはつてやれ。ブラック・メリマンめは、可哀さうに、泡を吹いてゐる。クラウダーは、あの聲の好い牝と一しよにしとけ。汝は、シルワアめが、あの生垣の隅のところて、とうく嗅當てをつたのを見てゐたか？ 彼犬は、中々、二十ポンドそこいらには代へられんわい。

獵師一

ですが、彼犬には、ベルマンだつて、決して負けやいたしません。ベルマンはまるッさし見當の附きませんのをも捜し出しました。今日も、二度まで、一等覺束なかつたのを嗅當てましたのです。たしかに彼犬のはうが優等でございます。

領主

馬鹿をいへ。エコーだつて、脚さへ速けりや、ベルマンの十二疋分と相當ふくらゐのものんだ。……とにかく、どいつにも善く物をくはせてやれ。明日また出掛ける積りだからなう。かしこまりました。

領主

(ふとスライを見附けて) 何だこりや？ 死人か？ 醉漢か？ え、息があるか？

獵師一

へい、生きとります。酒の勢ひで、ぐうぐう寝込んでゐるんでございます。てなきや、逆も冷たくて臥てゐられたもんぢやございませぬ。

領主

けしからん獸だなう！ まるで豚のやうに寝込んでゐる！……あ、物凄死よ、汝に似てるといふ眠りも、かうなると、只もう、むさくるしく穢らしいものだなう！……おい、予は此醉漢に惡戯をして見ようと思ふが、汝たち、どう思ふ？ 若し此奴を此儘邸の寢臺へ連れていつて、美服を纏はせたり、指輪をはめさせたり、いろく旨い物を準備しといて、目を覺した時分に、立派な侍者共に給仕させたりしたら、此奴、自分が乞食であつたことを忘れをるまいか？

獵師一

へい、そりやもう、きつと、忘れをるに相違ございませぬ。

獵師二

目を覺しました時分に、嘸不思議な心持をいたしをるでございませう。

領主

きつと、誂へ向の旨い夢を見た時や、たはいもない空想に耽つてる時のやうになう。……

「ちや、伴れてつて、うまくやれ。竊と予の最上等の部屋へ擔ぎ込んで、四方の壁には、邸に有りッたけの淫靡な油畫を掛けとけ。それから、此汚い頭を、温めた香水でよく蒸した上に、尚香本をも焚いて、室内に佳い香りを薫きこめろ。又、目を覺ましたら、すぐと快い楽しい音楽を奏する様にしとけ。て、若し何か言ふやうであつたら、すぐに、恭しく小聲で「何御用であらせられまするか？」といふんだ。又一人は薔薇水を湛へた中へ花片を浮かせた銀盤を手に捧げ、それからもう一人は水瓶を、又もう一人は花模様の附いた手拭を持つて傍に控へてゐて、「お手をお冷し遊ばしませんか？」といふんだ。又、だれかは高價な衣裳を準備してゐて、「どれをお召し遊ばしますか？」と問ねる。だれかはまた、獵犬や料馬の言をいふと同時に、奥方が深く殿の御病氣をお歎きなされておいてだと言つて、もう久しい間氣が狂つてゐたのだと思はせるやうに話す。さうして、奴が、いや、わしはさうした者ではない、云々だといつたら、それはお夢を御覽じたのです、あなたは偉い御領主さまに相違ございませんのです、といふんだ。いゝか、さうするんだぞ、似つこらしくやるんだ。こりや非常に面白い慰みだらうて、巧くやれば。」

御前、大丈夫、巧くやります、奴が私共の勉強の力で、成程、ちや、おれは殿さまかと思ひまするやうにやります。

獵師一

領主 そつと伴れてつて、床の上へ臥せる。さうしてめい／＼に役をしる、目を覺したら。

二三人にてスライを擔ぎて、入る。此時喇叭が聞える。

こら、あの喇叭は何だか、見て來い。

從者の一人入る。

あそらくどこかの貴族が旅行中か何かで、こゝで一休みしようといふのだらう。

從者戻つて來る。

どうした？ 何者だ？

從者 あそれながら、俳優でございます、御用を仰せ附けられますやうにと申します。

領主 こゝへ呼べ。

このうち俳優連出る。

あゝ、よう來たなう。

俳優一同 ありがたうございます。

領主 今夜おれの邸に泊る積りか？

俳優 どうか御用を仰せ附けられたうございます。

領主 最も望む所ぢや。(從者に)あの男は見覚えがある。いつか農夫の物領息子を演つたことが

あつた。(俳優に)それは汝がさる貴婦人を巧く口説き落す場だつた。汝の役名は忘れッちまつたが、たしかに善く適つてた、さもあるらしく演つたよ。

一俳優

ソートーのことを仰せられますのでございませう?

領主

ソートー。彼役を汝が巧く演つたよ。……む、ちやうど好い處へ来てくれた。といふのは、汝たちの手際で手傳つて貰ふと、大變都合のいゝ或面白い事があるんだ。或殿さんに、今夜汝たちの劇を観せようといふんだが、少々心配なのは、其殿さんは、今までまだ一度も劇を観たことはないんだから、多分變な様子をするだらう、それを汝らが見て、無作法に吹出したり何かすると失禮になるからね。汝たちが笑や、立腹されるのは分つてゐるから。

一俳優

その御心配には及びません。たとひ其お方が世界一の道化方ていらつしやいませうとも、笑ひますやうなことはございせん。

領主

(從者に)さ、此手合を臺所へ案内して、一人々々、懇ろに接待しろ。邸で出来る限りの優遇をしてやれ。

從者一人俳優らを案内して入る。

(又一人に)こら、汝は侍重のパーソロミーの許へ往つて、彼れを奥方そつくりになつたせ

ろ、それから衣裳づけが濟んだら、あの醉漢を臥かした室へ伴れていつて、「奥方々々」と呼んで、へい〜いふんだ。さうして、これは予の命令だから、其通りにすれば恩寵が加はらうといつて、彼れに、上流の婦人が其所天に對してするやうに。しとやかに、氣高くふるまはせるんだ。しづかに、うや〜しく、小さい聲で、あの醉漢に對つて「あなたの奥であり又不束な妻である所の妾が其義務を盡し眞情を表しまするために、何事をお命じ下さいませ」といはせるんだ。それから、いかにもなつかしげに、あの醉漢を抱擁したり、キッスしたり、頭を奴の胸元へおつけて涙を流したりして、此七年の間といふもの、乞食非人に成り下つたとお思ひ込みなされた殿さまの御病氣がお癒りになつたのが嬉しい〜といはせるんだ。若しも、逆も、實物の女のやうに、思ふやうに涙を雨すとは出来んといふなら、玉葱を役に立てる、手拭に包んでゐて、目へ摩りつけりや、否でも應でも涙が出る。その通り大急ぎでやらせる。後に又いひつけることがあるだらう。

從者入る。

大丈夫、小僧めが貴婦人らしい品や聲や介や料を粧ひ得るであらう。奴があつた醉漢を夫と呼ぶと、家來ども一同が吹出したいのを堪へて、あの馬鹿者の農夫にへい〜いふのを早う聴きたいわい。歸つて奴らに言ひ含めよう。予が其席に出てゐることが、餘り浮かれ

過ぎさせないために必要だらう。でないと、耐へかねて、笑ひ出してしまふかも知れん。
一同入る。

六八〇

第二場 領主の邸の寢室

舞臺の一段高くなつてゐる處(高二重)にスライと侍者らが出てゐる。
スライはちやうど目を覺したばかりの體である。或侍者は立派な衣裳を、他の者は銀の水盤や結構な水瓶や其他の調度を携へてゐる。領主も侍者にまじつてゐる。

スライ

(寢惚顔で)後生だ、醪を一盃下さう。

侍者一

お殿さま、西班牙酒を一つ召上りましてはいかとでございます。

侍者二

御前、此砂糖漬を召上りましてはいかとでございます。

侍者三

御前、本日はどのお召物をお召しになりますのでござりますか。

スライ

わしはクリストファー・スライでもんでがす、御前だの、殿さまだのいはれちやア困る。わ

領主

(うやくしく)天よ、御前の此たはいもない御病氣を御全快あらしめたまへ！ あゝ、かうしは曾どまだ西班牙酒なんか飲んだことはねえ。もし漬物下さるんなら、牛肉の鹽漬を下せまし。何を着るかつて訊かつしやりますな。わしにや此脊中が上被だ、此脚が股引だ、此足が靴だ。うんにや、どうかすると、靴だか足だか分らねえのを穿いてまさア、半分は皮からはみ出してゐるだからね。

スライ

(呆れて)え、お前さまたちはわしを氣ちがひにしようてのかね？ わしはクリストファー・スライでねえかね、バートンヒースのスライ爺さんの息子の？ もとは呼賣商人だけんどね、羊毛櫛製へることを習つて見て、それがうまく行かねえて、熊使ひになつて見たがね、それも止めて、今ぢやア鑄掛商賣だ。ウインコットの、あの肥つちよの酒屋のお婢に、あのマリヤン・ハケットに訊いて見て下せえまし、おらを知つてゐるかつて。奴がおらに十四片の醪の貸しがあるといはねえやうなら、おら基督教國中での大虚言者だに。え、何だつて？

なアに、氣ちがつちやぬねえ。その證據に……

と傍らの麥酒の盃を取り上げる。

六八一

侍者一 あゝ、さういふ御様子であらせられますからして、奥さまがお歎き遊ばすのでございます。

侍者二 さうして御家來一同が悲歎に暮れますのでございます。

領主 またこれが爲に、御親戚がた御一同がお館へお立寄りなさいませんでございます、御前のその不思議な御狂態をおそろしく思召すからでございます。お、殿さま、御身分柄をおぼしめさせ、追放遊ばした故の正しいお考へをお呼戻しになりました、さういふ下賤な御夢心地を放逐してしまひ遊ばせ。御覽じませ、御家來一同がかやうにお傍にゐて、何でもお命じのことを致さうとしてをるぢやございせんか？ 音楽がお望みてございすれば……あれ、お聞き遊ばせ！ アポロ神が琴を奏てまして、數十疋の妙音鳥が囀りはじめます。

此時奥にて音楽を奏し始める。

或は眠りたいとおつしやいますか？ いつでもお床は準備してございます。セミラミス女王のために特に飾り整へましたのよりも豊柔と氣持のよい、なまめかしいお床が準備してございます。或は散歩したいとおほせられませ。早速御通路に花を蒔きます。馬に騎りたいとおつしやいますか？ お召料に黄金や真珠を鑲めた馬具を付けさせます。又、鷹狩がお望みとあれば、お飼ひ馴らしが朝の雲雀以上に舞ひ上ります。或は山獵をと仰せ

侍者一 られますか？ 御愛犬どもは蒼空をして彼等の啼き聲に呼應せしめ、大地をしてけたましい反響を起させます。

侍者二 駈けさせるとお命じになりませうなら、獵犬どもは何れも血氣の牡鹿のやうに迅速でございます、無論牝鹿よりは速うございます。

侍者三 繪が見たいとおほせられますなら、手前どもはすぐに持つて参ります、例へば、瀬の早い小川の岸に美少年神のアドニス、又生茂る菅の葉がくれには美人神のシ、リヤがをりまする畫で、菅の葉はシ、リヤの喘ぐ息でみだりがはしく戦いでゐるかとも見えませ、まると風に弄れて波立ちます時のやうに。

領主 又はアイオーがまだ處女でゐました時分に、ジュピター神に誑され、不意に物されてしまひまする體を、まるで見るやうに描いたのぞを御覽に入れませう。

侍者三 又は裸體の女神のダフニーが、荆棘だらけの森の中を、アポロ神に追ッかけられて、逃げ廻つてをりますうちに、處々に引搔疵をこしらへ、血が出てをりますらしいのを、アポロIが打見やつて、痛はしがつて涙を流しまする體を、いかにもまさしくと巧妙に畫いたのを御覽に入れませう。

領主 あなたは殿さまでございます、殿さまに相違ないのでございます。あなたには此末世には

又とあるまじい美しい奥方があらせられます。

侍者一 奥さまは、あなたのお爲にお流し遊ばした涙が、意地わるの洪水のやうに氾濫しまして、お美しいお顔を荒しませなんだ時分には、世界第一の美人であらせられました。今でもまだどの婦人にも劣りはなさいません。

スライ ぢや、おらは殿さまかね？ そんな奥方があるかね？ こりや夢ぢやねえかな？ いや、今までが夢だつたのかな？……こりや睡てるんぢやねえ。見えもする、聞えもする、物もいへる。いゝ匂ひがするし、物の柔いのも分る。ぢや、全く、あの、おらは殿さまなんだ。鑄掛屋のクリストファー・スライぢやねえんだ。ぢや、奥方をこゝへ伴れて来てくろ。それから、醜をもう一壘だ。

侍者二 お殿さま、お手をお洗ひになりませんか？ あゝ、お正氣にならせられましたとお目出たうございます！ あゝ、再び御身分柄を御意識遊ばされるやうになりましたといふは、喜ばしいことでございます。此十五年の間お夢を見ていらせられましたのです。てなければ、まるでお目が覚めたやうに、御正氣にならせられたのでございます。

スライ 十五年？ そいつア随分眠たもんだね。その間ちつとも物いはずなかつたかね？
侍者一 へい、おつしやいました、けれどもたはいもあらせませられんことばかり。こんなお立派

な座敷に御寝なつていらせられながら、「戸外へ何故叩き出すんだ」なんぞとおつしやいまして、其家の女主人らしい者をお叱りになりました。「こりや石壘だぞ、封印済の六合を何故持つて来ない、うぬ、訴人してくれる」なんぞとおつしやいました。折々シ、リー・ハケットといふ名をお呼びになりました。

スライ うん。そりやあの店のお娘だ。

侍者三 でも、御前、あなたがさういふ店やさういふ娘を御存じの筈はございません。其他、あなたが呼び立になりましたスチーヴン・スライとか、グリースのジョン・ナップ爺さんとか、ピーター・ターフとか、ヘンリー・ピンマーネルとか何とか、二十名以上の者は、曾て御領内にゐたことございませんければ、無論、見た者はございません。

スライ ぢや、おれの病氣の治つたのを神さまに禮いふことにしようかね？

皆々 アーメン！

スライ (天を仰いで) はい、ありがとございました。決して御損は掛けません。

此時領主の侍童パーソロミュー、巧みに奥方に扮して、侍女らをつれて出る。

侍童 殿さま、御機嫌はいかたごびらします。

スライ うん、上機嫌だ。御馳走が十分だからね。嬪は何處にゐるね？

侍童 殿さま、こゝにをります。何か御用でございませうか？

スライ おめえが嬪かね？ それなのに、俺を殿さまと呼ぶかね？

侍童 家がだらおれを殿さまと呼ぶが當然だけんど。俺はおめえの亭主でねえかね？

侍童 我夫でも又我殿でもあらせられます、我殿でも又我夫でもあらせられます。わたくしはあなたの柔順な妻でございませう。

スライ そりや分つてるよ。……何て呼ぶかね？

領主 奥とお呼び遊ばせ。

スライ アリス・オックかね？ ジョーン・オックかね？

領主 只「奥」とだけでよろしいのでございませう。大谷方は御夫人をさうお呼びでございませう。

スライ (侍童に) 嬪の奥、みんなが、おれは十五年そこいらも寝込んで夢見てゐたんだといふだよ。

侍童 はい、その十五年がわたくしには三十年とも存せられました、その間お添ひ臥しも出来ませんで。

スライ そいつアえらかつたなア。……家來ども、退つて、彼女だけ残してけ。……奥、着る物ぬいて、さ、こゝへ來う。

侍童

お殿さま、もう一夜二夜の間御猶豫を下しおかれたうございませう。若し叶ひませずば、せめて日が暮れますまで。實は、侍醫どもが御病氣にさほるから、お添ひ臥しをいたしてなぬと申し附けましたのでございませうから。かう申し上げましたなら、わたくしの申分は立ちませう。

スライ 立つ。からして、もうどうも我慢は出来ねえ。けれど、又夢見るやうになるのもいやだ。だから、生身が承知しなくつても我慢すべし。

使者役出る。

使者

御前さま、お抱への役者どもが、御病氣御本復と承はりまして、愉快な喜劇を御覽に入れますとて参りましたのでございませう。と申すのは、久しい御悒鬱症のために嘸かし御鬱血遊ばしましたであらうが、お醫師たちはとかく悒鬱は狂病の保母であると申されますから、喜劇でも御覽に入れてお心をお慰め申してはいかゞかと彼等が考へましたのでございませう、陽氣に笑ひ樂しみますれば、千百の邪害も打攘はれて長壽延命の福を得る例でございませうから。

スライ うん、觀よう、やらしてくれ。喜がくてのは基督祭の踊かね？ とんぼげえりする輕業かね？

侍童 ではございませぬ。もつと面白味ひのものてござります。

スライ え、ぢや、食へるものかね？

侍童 いへえ、ま、お話のやうなものです。

スライ おし、観べい。……さ、嬢の奥、おれのすぐ傍に掛けてゐてくんな。浮世はともなれだ。斯う若くは又とはなれねえ。

第一幕

第一場 バデュア。街上。

盛んに喇叭を吹き鳴らす。ビザ市の豪商ギンチェンシオールの男ルーチエ
ンシオールと其僕ツラニオールと旅装にて出る。

ルーチ ツラニオール、わたしの豫ての念願通りに、藝術の保育所たる此バデュアの美しい市へ、から

ツラニ

して、大伊太利の愉快な花園たるロンバデーの沃野から着いた以上、又慈愛深い父の甘諾を得て、忠實な汝に侶をして貰つて、何一つ不自由のないやうに用意して、やつて来た以上、一先づ息休めをして、それから學問修行の便宜な方向を求めるとしよう。市民の眞摯な有名なビザの市は、予に存在性を興へてくれた。先づ、わたしに父を興へてくれた、世界おうと取引をする大商人のベンチブーリイ家のギンチェンシオールといふ父を興へてくれた。ギンチェンシオールの子と生れて、フロレンスで育て上げられたからには、世の期待に背かないやうにする爲には、此好運を飾るに徳行を以てするのが當然だらうと思ふ。だから、今度の修學中は、専ら徳を磨くことにして、主として美德によつて幸福を得る道を教へる所の學問を修めようと思ふ。それを汝はどう思ふね？ わたしがビザを去つて、わざ／＼此バデュアへ来たのは、譬へば、平素の渴を醫さうとする者が浅い水溜りを棄てて深い淵へ躍り込んで望みを十分に遂げようとするやうな心持で、やつて来たんだ。乞寛恕、旦那さま。わたくしの心持は、何につけても、あなたとおんなじてございますから、あなたが、相變らず、結構なお學問を御勉強なさいますのを結構なことだと喜んでくれます。只ねえ、旦那さま、その美德とか道徳の修行とかいふことは結構だとは存じますけれど、どうか、ま、スティックだの、丸太棒だのには成りたくないものでございます。あ

んまりアリストートルさんの戒律にばかり凝固まつて、オギッドさんなんかは七里つば
 いたとまでお嫌ひなさいませんやうに。お知合とは随分理窟をもお控ねなさいまし、平生
 のお話には修辭學の御實習もよろしうございませうぜ。お退屈まぎらしには音楽や詩や歌
 も結構です。數學や心理學もお氣が向いたらおやりなさいまし。「興伴はぬ仕事には益
 生ぜず」でございます。つまり、一等お好きなことを御勉強なさいまし。

多謝、ツラニオ。至當の忠告だ。あゝ若し今、あのピオンデローが着港してさへくれ
 りやア、すぐにも宿所をさめて、此バデューアで知交に成り得た限りの人達を招待することに
 するんだがな。……が、ちよいと。あの同勢は何だらう？

ツラニ
 わたくしたちを歓迎するための行列でございませう。

當市の富豪バプチヌスタ・ミノーラ、其第一女カサリン、其第二女ピヤン
 カ出る。ついでいてピヤンカの求婚者クレミオーとホオテンシオーと出る。
 二人とも當市の住人であるが、クレミオーは、もう大分の老年者である。
 ルーチェンシオーとツラニオーは一隅に退いて様子を見てゐる。

バプチ
 兩君、もうそれをいふのは止めて下さい、わたしは決心してしまつてゐるんだから。すな
 はち、姉嬢が夫を迎へない以上、末女は決して與げられないといふのです。若し兩君のう

ちて、姉のカタリーナをとちつしやる方があるなら、——もとより兩君を知りもし愛しもし
 てゐるわたした——御隨意に、ぢかに、常人に御縁談下すつて差支へないといひませう。
 (傍白) むしろ嚴談に及んだはうがいい。無頼漢を取締る料簡になつて。……さ、さ、ホオテ
 ンシオー、君はどんなでも可いといふのかい？
 (怒氣を含んで、父に) おとうさん、あなたはわたしをこんな連中の玩弄物にさせようといふん
 ですか？

ホオテ
 玩具ですつて、あなたが！ どういたしまして。もつと可愛らしく製り直して、も貰はな
 い以上、迎も此世の中にやあなたを玩具にし得る亭主はありますまい。

カサリ
 (突慥食に) 御心配にや及びません。彼女は亭主なんか迎へたがつちやゐますまいよ。けれ
 ども、萬一迎へたとすれば、三脚椅子を梳櫛代りにして、あなたの駄頭をごし／＼と梳い
 て、それから其顔を眞赤に繪どつて、阿呆の役を勤めさせるでせうよ。

ホオテ
 神さま、どうかさういふ鬼女にとつつかれませんやうに！

グレミ
 わたくしとても、どうか、それだけは！

ツラニ
 (ルーチェンシオーに、傍白) し、旦那！ 面白いとが始まりさうですよ。あの女はまるで氣ち
 がひです。てなけりやあ、そろしい我儘者です。

附かつたら、それを親父さんへ紹介することにしよう。

わたしもさうしよう。が、グレミオーさん、ちよいと……お互ひの競争の性質上、今までは未だ曾て妥協を容さなかつたのでしたが、反省の結果、特に或一事を若しも二人が協力して成し遂げたならば、お互ひにあの美しい令嬢に再び接近することが出来て、其愛を得るための幸福な競争者になれると思ふのですが、どうです？

グレミ　　といふのは、どんなことですか？

ホオテ　　すなはち、あの姉嬢に夫を周旋するんです。

グレミ　　夫を！ 鬼をでせう。

ホオテ　　夫をです。

グレミ　　鬼をでせう。ホオテンシオー、親父さんが金持だとはいふものゝ、あんな娘の亭主にならうといふものが有ると思ひますか？

ホオテ　　さういつたものぢやない、われ／＼こそあのがみ／＼と怒鳴るのに、怖れをなしたものの、世間には随分、若し丹念に探しさへすりや、どんな疵物をも、金が澤山附いてゐりや、貰はうといふ好い氣な男もあるもんです。

グレミ　　どうだか？　　が、わたしは彼女を持參金附で娶るのは、毎朝市場でぶんなぐられるといふ

條件附で娶ると同格だと考へるのです。

ホオテ　　いかにも其通り。腐つた林檎を喰はうといふ者はまアない。が、ま、同意したまへ。此負公事で仲よしになつた以上、あの惣領女にどうかして亭主を世話して、妹嬢が結婚の自由を得るやうにしむけるまで、仲よくしてゐて、其上で又新たに競争しませうよ……あゝ、可愛いピヤンカ！　あゝ、其男こそ任せもんだ！　一等脚の速い者が指輪をだ。グレミ

オーさん、え、どうです？

賛成。さういふ男が見つかりや、わたしは此バデューア第一等の駿足をくれてもいい、すぐあの鬼を口説き落して、結婚をして、一しよに寝て、あそこに居ないやうにしてくれさへすれば。

グレミ　　グレミオーとホオテンシオーと入る。

此以前、ルーチエンシオーはピヤンカに戀慕したる體で、ほれ／＼と其後ろ影を見送り、前の二人の間答の問頻りにツラニオーに何事か囁いてゐたが、此時ツラニオーは呆れたといふ表情をして

ツラニ　　旦那、戀愛てものは、そんなに唐突に人にとつくもんでございませうかねえ？

ルーチ　　おゝ、ツラニオー、おれだつて、今日實驗したまでは、そんなとあるだらうとも、ある

らしいとも思つちやゐなかつたんだが、かうして惘然として立つて見てゐたらちに、其惘然状態に於ける戀の力といふものを發見したよ。かうなつた以上はだ、カーセイジ女王に於けるアンナ姫よりも子の爲には無二の腹心である所の汝に露骨に自白するが、ねえ、ツラニオー、予は、今のあの娘を手に入れるとが出来なけりやア焦れて焼ちまふ、病氣になつちまふ。死んちまふ。ツラニオー、どうしたらいいか、教へてくれ、汝にやきと工夫があるんだ、助けてくれ、きとさういふ深切もあるんだ。

ツラニ
旦那、今はお小言を申し上げる場合ぢやございませぬ。好き嫌ひは叱つたつて、心から出て行くものではないのです。戀愛の捕虜におんなすつた以上、只もう成るだけ廉い償金でお身受けをなさるのが第一です。

ルーチ
ありがたう。で、それから。今いつてくれたことは氣に入つた。つゞいて言つてくれることも氣に入るだらう、お前の考へは正しいんだから。

ツラニ
旦那、あなたはあのお嬢さんの顔ばッかし見詰めていらつしやいましたから、多分肝腎の事にお氣が附かないでいらつしやいませう。

ルーチ
あゝ、さうさ、あの娘の顔のうつくしさと來たら、そら、あの、ジョーヴ神が身を下して、天降つて、クリート島で土下座をしてキッスしたといふアジノアの愛女も、ろしくといふ

風情だ。

ツラニ
その他には、何にもお目に附いたものはございませぬでしたか？ 姉さんが怒鳴りはじめて、人間の耳ぢや忍耐の出来ないやうな大雷を落しかけたのに、お氣が付きませぬでしたか？

ルーチ
ツラニオー、予はあの娘の珊瑚のやうな唇が動く、其息で以てそこいら中が香水を撒いたやうになつたのに氣が附いたよ、あの娘に關する限りは、何でもかんでも、神々しくつて、うつくしくつて。

ツラニ
（傍白）此様子ぢや、先づ正氣に返らせなけりやなるまい。……もし、どうか、はつきりなさいまし。正直、あの嬢さんを戀しいと思ひですなら、どうしたら手に入るかといふことをお考へにならなけりやいけません。と申すのは、姉さんがあゝいふ我儘な、口ぎたない厄介者なんですから、親父さんがあの姉娘を手離すことが出来ない間は、旦那、妹さんは、宅に、嫁入しないてゐなけりやならんといふのです。ですから、親父さんが妹さんを箱入にしちまつたのです、うるさく縁談を申し込む手合を避けさせる爲に。

ルーチ
あゝ、ツラニオー、何といふ酷い親父だらう！ だが、あの娘を教育するために、熟練な家庭教師を雇ひたいといつてたらう？

ツラニ へい、さやうでございます。て、今思ひついたことがあります。

ルーチ おれにもある。

ツラニ きッと旦那の工夫とわたくしのおんなじですよ。

ルーチ 先づ汝のをいへ。

ツラニ あなたが家庭教師になつて入込んで、あの娘に教へようてんでせう？ さういふ案でございますか？

ルーチ さうだ。

ツラニ

むづかしいですよ。といふのは、だれが此バデュアの市で、ギンチェンシオーさまの息子さんむすこの役をします？ さうして家を借りて往んだり、勉強べんきやうをしたり、お友達ともだちを迎へたり、お國出くにいでの方達かたたちを訪問ほうもんしたり、其人達そのひとたちを饗應きやうおうしたりをだれがするんです？

ルーチ

足矣やす。安心あんしんしな、そんなとにや脱落だつらくはないよ。おれたちはまだどんな家に住んでゐたといふのでもなく、顔かほで以て主人しゆじん、家來けらいと知られてゐるわけでもないんだから、かうするんだ。ツラニオー、汝おまひが予おれの代かたりに主人しゆじんになつて、家を借りて、予おれがするやうに物體ぶつたいぶつて、人ひとを使つかふんだ。予おれは何なにか別の人間にんげんにならう、フロレンス人じんとか、ネーブルス人じんとか、ピザピザから來たとするにしても、身分みぶんの賤いやしい者ものにならう。かう案あんが熟じやくした以上いじやうは、すぐそれを實じつ

にするから、汝おまひは早速さつそく着物きものを脱ぬいて、俺おれの色いろ變かはりの帽子ぼうしをかぶれ、さうして外套がわいたうを被かろ。ピオンデローが來りや、汝おまひの家來けらいの役やくをさせる。が、其前そのまへに、奴やつをごまかしつけて秘密ひみつを守まもらせなけりやならない。

ツラニ

さうなさらんけりやなりません。……(一寸考へて)御主人ごしゆじんの仰おほせに順したがふのが家來けらいの本務ほんむでございますから、——既すでにお父ちちさまが、御出立ごしゆつたつの際さいにも、手前てまへに、よく倅せがれに仕つかへてくれとおつしやいましたことですから——もつとも、御趣意ごしゆいは別べつだと存ぞんじますか——よろしうございいます、お身代みかたりを勤つとめます、ルーチエンシオーさまを身に代かへてもと愛あいしてゐるわたくしでございます。

ルーチ

さうしてくれ、そのルーチエンシオーさまも身に代かへて愛あいしてゐる最中さいちゆうだ。あの娘むすめを手てに入れるためには奴隸なれいにてもなる。一日見ひとひるや否いなや、此目このめが生捕いけられつちまつた。

主従衣裳帽子しゆじゆういしやうぼうしを取換とりかへる。ルーチエンシオーは、ふと一方ひうを見て

ルーチ 奴やつがやつて來た。

ルーチエンシオーの僕めいピオンデロー出る。

おい、どこへ往いつたのだ？

ピオン

(二人の姿すがたを見て呆あはれて)どこへ往いつたとおつしやるんですか？ わたくしよりも、ま、あなた

がたはどうなすつたんで？ 旦那さま、ツラニオーがあなたのお召物を盗つたんでござい
ますか？ 或はあなたが彼れのお奪りになつたんですか？ お互ひッこですか？ 一體
どうしたといふのでございませす？

ルーチ おい、ま、こゝへ來な。戲談をいつてる場合ぢやないんだ。だから眞面目になつて聴
いてくれ。この、汝の同僚のツラニオーがおれの命を救ふために、おれの衣服を着て、身
代りになつてくれるんだ、おれは彼れのを着て、逃げようといふんだ。といふわけは、お
れは、此港へ着いてから、喧嘩をして、人を殺したのが、もう既に知られたらしい。どう
か、おれが落延びる間、彼れの家來になつて、似つこらしくやつてくれ。分つたか？
へい！……(傍目)ちつとも分らない。

ルーチ 假にもツラニオーなんていつちやいかなぞ。ツラニオーはルーチエンシオーになつちまつ
たんだから。

ピオン ツラニオーは幸福でございませす。手前だつてさうなりたうございませす。

ツラニ どうかして、ルーチエンシオーさまに成り切りたいものだ。(口のうちで) といふわけは、旦那
に、バプスタさんのあの妹娘を手に入れさせたいばかりだ。……(ピオンデローに)お、
君、わたしの爲ぢやないよ、旦那さまのお爲なんだから、どうか、人前へ出た時にや、う

まくやつてくれたまへよ。ひとりてゐる時にやツラニオーだけれど、さうでない場合に
や、いつても君の旦那のルーチエンシオーだよ。

ルーチ ツラニオー、さ、往かう。……もう一つあつた、それは、汝が例の求婚者の一人になるこ
とだ。譯は今はないが、正しい、重大な理由があると思つてゐればい。

三人とも入る。
高き處にて此劇を始終見物してゐる積りのスライはじめ侍童、侍者ら
に扮したる俳優共、此時物をいふ。

一侍者 (眠りかけてゐるスライに)御前、お眠り遊ばすのですか？ 劇をねッから御覽になりませんや
うです。

スライ なアに觀てるよ。大變結構だ。オだあるかい？

侍童 御前、まだ始まつたばかりでございませす。

スライ 奥方さん、大變に面白いものだね。早く終ひになればい！

一詞並んで腰を掛けて觀てゐる。

(スライの一群は、此第一幕の終るまでは、高二重めく處に最初から着席したまいて、平舞臺の劇の進行を見てゐるやうにしてあるらしいが、第二幕以後には――沙翁の作は――顔を出さないことになつてゐる。随つて劇中劇の趣向が首尾一貫しないことになる。或は彼の沙翁學者フリーが注意したる如く、第五幕の――ソリオ版で見ると――比較的短いのは、其後に、書下しの當時には、スライの筋の結末が添へられてゐたが爲ではないか？ すなはち、スライが酔うて再び熟睡してゐる、それを領主が命じて元の丘へ擔ぎ出させる、とゞ、スライが目覺して「さては今は夢であつたか？」と呆れるといふ段落が書添へてあつたのでもあらうか？ 一千八百四十六年に『F. Penha』が沙翁劇の復活を試みた際の此劇の演出では、始めから終りまで、スライの一群が普通の見物同様に高二重に着席をつゞけてをり、第五幕の終りに至り、領主が立つて、無言で、眠つてゐるスライを擔ぎ出せと家來に手眞似て命ずる、そこで幕がおりるといふ演じかたであつたといふ。尙本書の緒言を参照して下さい。)

第二場 バデュア。ホオテンシオーの宅の前。

エローナ市の若紳士ペトルーキオーと其従僕ケルミオーと出る。

ペトルー　エローナよ、當分汝とはお別れだよ、おれはこれからバデュアの友人、といふうちにも無二の信友のホオテンシオーを訪ねるんだからね……ところで、これがあの男の宅だ……

ケルミ　こら、おい、ケルミオー、叩け。

ペトルー　へ、撲け？　だれを撲くんです？　あなたさまに無禮をした者でもございますか？

ケルミ　馬鹿！　叩いてくれといふんだ、頼むから。

ペトルー　へ、あなたをですか？　どうしてそんなことが出来ますものか？

ケルミ　馬鹿！　早く、その、何をその、ぶばたけといふんだ。分つてるぢやないか？　早く叩かないと、汝の駄頭を撲きみじくぞ。

ペトルー　(獨自)　喧嘩ごこがしたくなつたんだな。おれに、わざと先へ撲かせておいて、それから

ケルミ　手酷くお撲き遊ばさうといふのだ。

ペトルー　叩かないな？……おい、どうしても叩くのは否だといふなら、おれが引摺つてやる

ぞ。捻ぢつたら、どんな音色を出すか、うぬ、試験してくれる。

グルーミオーの耳をつまんで捻ぢ廻す。

グルー あいたく！ だれか来て下さい、だれか来て下さい！ 旦那が気がちがいました。

ペトル さ、叩け、早く叩け、馬鹿！

グルーミオー突き放されて、へたばる。
家の内よりホオテンシオー出る。

ホオテ どうしたのです？ 何事ですか？……おや、古い馴染のグルーミオーどんぢやないか！……

お、ペトルーキオー君ぢやありませんか？ どうお暮しです、ゴローナて皆さんが？

ペトル ホオテンシオー君、喧嘩を引分けに来たんですか？ 眞個好邂逅。

ホオテ 歓迎、々々、仁兄、大人ペトルーキオー……さ、グルーミオーどん、お起ち

なさい、お起ちなさいよ。わたしがいゝやうに取做すから。

グルー いゝえ、旦那がどんなことを拉典語でいひなさうとも、理分は此方にあります。けふ限りお暇を貰ふといつたつて、無理ぢやござんすまい、だしぬけに、撲け、ぶんなぐれとおつしやるんです。家來が主人を撲られますか、たしかに正札外れをしてござるのが分つてゐますの？……あゝ、いつそ初手に、思ふさま撲つておいたら、まだしも此埋合せが

附いたであらうものを。

と撲たれて打身のおとを擦つてゐる。

ペトル 間ぬけ野郎！ ホオテンシオー君、わたしは奴にあなたの門の戸を叩けと命じたんです、それを奴に、どうしても呑込ませるとが出来なかつたんです。

グルー (呆れて) 門を叩くんですか？ おや〜！ だつて、あなたは門を叩けとはおつしやらないで、たしかに撲けたの、ぶんなぐれたのとおつしやいましたぜ。今になつて 門だなんて。

ペトル おい、こら、引込んでろ。でなきや、喋舌らないはうが爲だぞ。

ホオテ まい、ペトルーキオー、グルーミオーの保証人には僕がなるから。とにかく、とんだ行違ひが起つたもんだねえ、君が君の忠實な、愉快な、子供の時分からの召使ひを撲るなんて。が、一體、どういふ嬉しい風の吹廻して、君はゴローナからはる〜此バデアアへやつて来たんだね？

ペトル 例の若い者を世界ぢうへ吹散らす其同じ風さ。國にゐちやう浮ぶ瀬がないが、遠くへ出ると、少しばかりの経験も物になる。だから、出世を望む若い者は外へ出たがる。つまり、僕の境遇は、かうなんだ。親父のアントーニオーが死んだので、暗雲に旅へ出かけて見た

んだ、成るべく好い嬬を見つけて、金をも儲けて、幸福な暮しをしようといふんだ。懐ろには金があり、家には財産がある、だから世界見物に出かけたといふわけさ。

ホオテ ペトルーキオー、ぢや、單刀直入にいふが、どうです、不標致なじや〜馬を一定妻君にする気はないかね？ といつたら、君はあんまり有りがたくも思はないだらうけれど、其女は金持だよ、非常な金満家だよ。もつとも、君は僕の大事の親友なんだから、實は、そんな女なんかを世話したくはないんだけれど。

ペトル ホオテンシオー君、お互ひのやうな親友間には、餘計な言ひ草は無用だ。僕の妻たるに足る財産があると君がいふ以上はだ——僕の求婚曲の囃子言葉は「お金！ お金！」ってんだからね——其女がだ、たとひフロレントの情人のやうな醜婦であらうと、魔女よろしくの婆であらうと、ソクラテスのザンシビのやうな堪らない悍婦であらうと、乃至其れ以上であらうと、僕は平氣だ。少くとも、敢て娶らうといふ銳氣を挫かないね、よしんば其奴がアドリヤチック海の怒濤よろしくであらうとまだ。僕はバデアで金持の嬬を見附けようとしてやつて来たんだ。金さへありや他は問はないんだ。

グルー (ホオテンシオーに) ねえ、もし、あなた、旦那は眞實のとをいつてをられますんです。お金さへ澤山附いてりや、操り人形だつて、金具の飾りの豆人形だつて、かまつたことはないの

ホオテ す。齒の一本もない、馬五十疋分の病氣の間屋のやうなお婆さんだつていゝのです。お金さへありや何でもいゝのですから、お世話をなすつて下さいまし。

ペトルーキオー、こゝまで踏込んだ以上、實は戯談にいひ出したんだけれど、話を進めよう。ペトルーキオー、ぢや、妻君をお世話しようよ。財産はうんとあり、齡も若くて美しくもあり、教育もある。只一つの缺點はだ——尤もそれが大きな缺點だがね——といふのは、始末におへない我儘な、氣がさな、氣むづかしい悍婦なんだ。全く度外れなんだ。僕なんかは、たとへ境遇が今よりもずつとわるくつても、よしんば黄金の山を積んでくれても、あの女ばかりは妻にしたくないといふくらゐのものだ。

ペトル ま、まぢたまへ！ 君はまだ金の威力を知らんのだ。其女の親父はだれだい？ 名をいつてくれ。親父次第で、僕は求婚する、たとひ其女が秋口の雷神のやうに怒鳴つてもかまはん。其娘の親父はバプチスタ・ミノーラといふ親切な、上品な紳士だ。娘はカサリンといつて、其口汚いのではバデアぢやに知れわたつてゐる。

ペトル 娘は知らんが、親父は知つてる。僕の亡父の知人だつた。ホオテンシオー、僕は其娘に會ふまでは寝ないよ。だから、失敬だが、今すぐにそこへ一しよに往つてくれればよし、さうでなけりや、今逢つたばかりだけれど、僕はこれでお分れする。

ホオテンシオーが答へに躊躇してゐるうちにペトルーキオーはもうさつさと行きかける。グルーミオーはホオテンシオーに

グルー もし、機嫌の變りませんうちにやらせなすつて。其娘さんが若し手前ほど主人を知りましたなら、いくら怒鳴つても駄目だてとを悟んなさいませう。多分、其娘さんは、畜生とか、馬鹿とか、五六度も怒鳴りませうけれど、そんなことはお茶の子です、主人が怒鳴り出したりといふと、悪體もく體を學理的に並べるんですからね。きつと、その、何てございます、其娘さんが、只の一言でも口答へをなさらうものなら、主人は忽ち手きびしく悪口を——娘さんの鼻柱が引垂みさうな奴を——眞面に叩き附けませう。さうすりや撲かれた猫のやうに目をねぶつてしまひませう。あなたはまだ主人を御存じてないのです。

ホオテ (ペトルーキオーに) おい、ペトルーキオー、待ちたまへ、僕も是非一しよに行くよ。バプチス夕には寶物が預けてあるから。といふのは、僕の命の種の寶石だ。彼れの二番目娘のピヤンカといふ美人のとです。親父は僕をも僕の競争者をも、即ち其ピヤンカに求婚する者一同を排斥するんです。姉嬢は、今いつたやうな缺點があるんで、逆も貰ひ手があるまいといふところから、親父は其雷娘のカサリンが夫を迎へないうちは、どの男にもピヤンカとの交際を許さないと云ひ渡してしまつたのです。

グルー 雷娘のカサリン！ 娘さんの綽號としては、此上もなくわるい名前だ。

ホオテ ところで、親友ペトルーキオー、僕に恩恵を施してくれたまへ。といふのは、僕は眞面目くさつて、禮服を着て行くからね、此仁は知り合ひの熟練な音楽者だといつて、僕をあの親父に推薦してくれたまへ、ピヤンカの家庭教師に。さうすれば、許しを得て、ピヤンカとさし向ひになつて、大ッぴらに直談判を試みる事が出来るから。

グルー (獨自のやうに) こりや奸計でも何でもないや！ 老爺連の計略の裏を搔くために若い連中が智慧袋を絞るまでのことだ！

此時老爺連のグレミオーを先に、若い學者らしく假裝したるルーチエシオーが出る。

グルー 旦那、旦那、御覽なさい。だれか來ましたよ。

ホオテ しッ、グルーミオーどん！ あれがわたしの競争者なんだ。……ペトルーキオー、少し待つてゐてくれたまへ。

グルー (グレミオーを見つて) 色師らしい立派な若い衆だ。

グレミオーとルーチエシオーと近くへ來る。

グレミ (ルーチエシオーに) 宜しい。書附はすつかり讀みました。ねえ、君、いゝかね？ 手際よく製本

ルーチ させて下さいよ、その戀愛書類一切を。費用なんか不關はんからね。さうして只その戀愛の講義だけを彼女に読んで聴かせておいて下さい。分つたかね？ バブチスタさんが支拂ふ教師給以上又以外に、わたしからも十分の報酬をしますからね。紙を持つて下さい。それから何もかも十分に好い薫ひを附けさせておいて下さい、何にしろ、それを受ける人が、あの通り、薫物以上にしほらしくもなつかしくもあるんだからね。

大丈夫です、何を讀まうとも、必ずあなたの爲に辯じますよ、恩人の爲にするやうに。あなたが學者でない以上、自身にそこにおいて、自身の口でおつしやるよりも、おそらく上手にやりませうよ。

グレミ あゝ、學問てものは、妙なもんだねえ！

グルー (傍白) あゝ、山鶴てものは馬鹿なもんだなア！

ペトル (クレミオーを睨んで) シック！

ホオテ (同じくクレミオーに) グルーミオーどん、黙！…(クレミオーを出迎へて) グレミオーさん、御機嫌よう。

グレミ や、これはよいところで、ホオテンシオーさん。どこへ行くかを御推察？ バブチスタ・ミノーラへです。ビヤンカの教師になる人物を物色しようといつて約束したんですが、幸ひと、學問、品行、ともに適任といふ此若いのには偶然ぶつつかつたのです、詩や歌や其他いろんな

良い書をよく讀んでる人なんです。

ホオテ それはけつこう。わたしも一人の紳士に逢つたんです。其人が、わたしのために、お互ひの戀人に音楽を教へ得る或立派な人物を周旋しようといつてくれたんです。ですから、わたしとても、我親愛する所のビヤンカに對して義務を盡すといふ點に於ては、聊かもあなたに後れない積りです。

グレミ 「我親愛する所の」といふ點は、今に行爲でわたしが證明する。

グルー (傍白) それは金財布が證明するだらう。

ホオテ グレミオーさん、今は戀愛程度なんかを主張し合つてゐる時ではあるまい。ねえ、あなたに隔心がないならば、双方に取つて、共に都合の好いことをお知らせ申したい。……(ペトル) キオーを紹介しつゝ、此紳士は偶然にお目にかゝつた方ですが、若しわれ〜が此方の好まれる通りの或約束をしさへすれば、此方は、あの雷娘に縁談を申込んで、結婚までもしよ

うといはれるんです、持參金の額次第で。

グレミ 其の言葉通りに實行されるやうなら、妙です。ホオテンシオーさん、姉娘の缺點は、すつ

ペトル かり話したんですか？

厄介な、騒々しい、怒鳴る娘だとか聞きました、それきりなら、かまはないのです。

グレミ かまはないとおつしやるんですか？ あなたはどちらのお生れです？

ペトル ゼローナで生れました、老アントーニオの倅です。父が死にましたので、わたしの財産が生れたのです。幸福な生活をして、長生もするだらうと思つてゐます。

グレミ あゝ、さういふ身分で、あゝいふ婦人をお娶りにならうといふのは稀代ですなア！ ですが、お好みとあれば、けつこうでせう。出来るだけ御後援させうが、實際御求婚なさらうといふんですか。あの山猫に？

ペトル

無論！

グレミ

ペトル

求婚なさらうかって？ 萬一にもなさらなかつたら、其の猫を絞殺して御覽に入れます。何の爲に爰へやつて來ませう、そんな目的でもなけりやア？ 少しぐらゐ大きな物音がしたからつて、びくつくやうなんぢやアないのです、わたしの耳は。獅子の吼えるのを聞いたともあれば、海が颶風に吹捲られて、怒つた野猪が汗の泡に包まれて狂れ廻るやうに激したのを聞いた耳です。原野に鳴り轟く人工の雷をも、大空にはたたく天の大砲をも聞いた耳です。或は又、兩軍が相對陣して、亂打する鐘、太鼓、喇叭の響、軍馬の嘶き、関の聲、天地爲に壊るゝかと思ふ大騒音をも聞いた耳です。それなのに、女の怒鳴るぐらゐにおびえるだらうと思ひますか？ そんなものア 農家の爐で爆る栗の音の半分にも

當りませんよ。てッ！ てッ！ 子供はお化けて威すがいい。

グレミ

旦那にそんなお話は無駄です。

グレミ

ねえ、ホオテンシオーさん……ちやうどいゝ處へ此方がお見えになつたわけです。おそらく、此方の爲にも、又われゝの爲にもです。

ホオテ

そこで、此方の求婚費をです、それが幾らかゝらうとも、わたしたち二人で以て負擔するといふことにお約束しましたよ。

グレミ

よろしい、あの姉嬢を手に入れてくれられさへすれば。

グレミ

(傍白) そりやたしかだ。が、それとおなじ程度に、たしかに御馳走にありつけるといゝがなア。

ルーチエンシオーに假装して立派な紳士と見せかけたツラニオーと其從僕らしくもてなしてゐるピオンデローと出る。

ツラニ

(前の人々に近づきて) 諸君、御機嫌よう。失禮ながら、バプチスタ・ミノーラさんの邸への近路は、どう参りますか、お教へを願ひたい。

ピオン

美しいお嬢さんのお二人ある方、で(とツラニオーに) ございませう？

ツラニ

その通り、其方だ。

グレミ ねえ、あなた。よもや其娘さんに……

ツラニ いや、多分その娘さんにもお目にかゝるでせうが、……あなたはどういふ御關係があるんですか？

ペトル (横合から) 怒鳴るはうの娘ぢやないでせうね、とにかく。

ルーチ (傍白) ツラニオー、うまいぞ手始めが。

ホオテ (ツラニオーに) もし、一寸一言……あなたは、只今お噂の其娘さんへ縁談をお申込なさらうてんですか？ ぢやないんですか？

ツラニ 申し込めば、何か御迷惑になることでもあるんですか？

グレミ ありません、もしすぐにこゝを立退いてさへ下されば。

ツラニ 天下の通路に對する權利は誰れしも同等ぢやないですか？

グレミ あの娘に對しては同等でないです。

ツラニ といふ仔細は？

グレミ 其仔細はです、お望みなら言ひませう、彼女は紳士グレミオーの意中人だからです。

ホオテ 彼女は紳士ホオテンシオーの選擇濟であるからです。

ツラニ まゝ、まゝ！ 若し兩君が紳士でありなさるなら、一應わたしの申すことをお聞き下さ

い。バプチスタは、わたしの父とは萬更知らない仲でもない所の歴とした紳士であるんですが、其娘がもつと美人であつたならば、求婚者はもつと有つてもいゝわけであり、さうしてわたしが其一人であつてもいゝわけです。現にリダの女のヘレンには一千人の求婚者があつたのです。で、ビヤンカにも、もう一人ぐらゐはあつても當然なのですから、そこで此ルーチエンシオーが其一人にならうといふのです、よしんばパリス其人がやつて来て、一人で以て占領しようとしてもです。

グレミ (ルーチエンシオーに) ちや、此男は、辯舌ぢや、わたしらを負しますよ！

ルーチ ねえ、やらしときなさいよ。きつとあの男は途中で疲憊れてしまひますから。

ペトル ホオテンシオー、何の爲にこんなくだらんお喋舌をしてるんだい？

ホオテ (ツラニオーに) 失禮ながら、あなたはバプチスタさんの嬢さんにお逢ひになつたことがありますか？

ツラニ いゝえ、けれども、娘が二人あつて、一人は怒鳴るので有名、一人は美しくつておとなしいので有名だと聞いてゐます。

ペトル ねえ、其第一のはうは僕のだから、手を出しちやアいけませんよ。

グレミ さやう、そのはうは大ハーキュリーズ君に任せとくことだ、例の十二の大難業以上の努力

を要しさうだからね。

ペトル (ツラニオーに) ねえ、かういふことをよく呑込んできたまへ、あんたが覗つてる其妹娘での親父はだれにも會はせないやうにしてるさうだ、さうして總領娘が結婚しちまふまでは、妹には自由を與へない、どこへも遣る約束はしないとつてるさうです。

ツラニ 若しさうですなら、あなたは吾々一同、といふうちにも、わたしに益を與へて下さる方です。で、若しあなたが氷破のお手際をお現しになつて、早速姉のはうをお手に入れて、われわれが妹娘へ接近する道を開いて下さるなら、だれが成功者になりませうとも、一人としてあなたのお骨折に對して感謝しないやうな義理知らずはをりますまい。

ホオテ (ツラニオーに) お言葉御尤だ、御尤なお考へです。ところで、求婚者だとおつしやる以上、あなたもまた此方にお報いをなさらなけりやなるまい、われは一般に此方の恩を荷ふわけになるんだから。

ツラニ 承知しました。其印に、本日午後、わが戀人の健康を祝するための宴會を開きませう、さうして原被兩造の辯護士がやるやうに、法廷では大々的に争ひ、宴席では友として食ひ且つ飲まらちやありませんか？

ビグルー けつこうな動議です！ 同役、さ、行かうぜ。

ホオテ 全くいゝ御提案です。さうませう。……ペトルキーオー、僕が君の東道にならう。

皆々入る。

第二幕

第一場 バデュア。バプチスタの邸の一室。

カサリンが妹ビヤンカを後手に縛つて引立てつゝ出る。

じゃじゃ馬馴らし

ビヤン 姉さま、わたしをこんなに縛つて、奴隷扱ひになさるのは、わたしを侮辱なさるんです、いゝえ、あなた御自身を侮辱なさるんです。いやしいなされ方です。よ、此手を解いて下さい。こんな玩具のやうなものは自分で打捨りますよ、然々、着物でも何でも。下袴だけにだつてなりますよ。あなたのおつしやる通り、何でもしますよ、長上に對する義務は、わたしよく知つてますもの。

カサリ

(手強く)お前へ縁談を申し込む男のうちで、お言ひなさい、お前の一等好きなのはだれだい？
嘔吐くときかないよ。

ビヤン
姉さま、正直、わたし、生きてる人のうちで、特別に好きといふやうな顔の人はありませんのよ。

カサリ

此あばづれめが、嘔を吐け。ホオテンシオーがやないの？

ビヤン

姉さま、あなたあの方が好きなら、わたし誓つて、あなたの爲にあの方を説きますから、御亭主になさい。

カサリ

ぢや、お前は金に惚れるはうだね、世間體を立派に暮さうとところから、あのグレンミオーにするんだね。

ビヤン

ま、あなたがこんなに妬むのはあの人のため？ (思はず笑ひ出して) ぢや、あなたは戯けてるんだわ。分つた、先刻から戯けていらしつたんだわねえ。よう、姉さま、もう解いて頂戴よ此手を。

カサリ

これが戯けてるのなら(と手強く打擲して) 他のも悉皆ふざけてゐたのだ。

ビヤンカ泣き叫ぶ。

父バプチヌスタ奥から出て来て取りおさへる。

バプチ

これ、どうしたといふのだ！ なぜそんな無法なことをするんだ？……ビヤンカ、そつちへ寄つてゐな。……(カサリンに) 可哀さうに。泣いてるぢやないか？……(ビヤンカに) 縫物をしなさい。姉さんにはおまはないがい。……(カサリンに) やい、此ろくてなしの夜叉女めが！ なぜ罪もない者を酷い目にあはせるんだ？ 彼女が汝の氣にさはるやうな何か不埒なことも言ひましたか、いつか？

カサリ

黙つてゐるやがるから癪に障るんです。だから、返報してやるんだ。

ビヤンカに飛びかゝる。

バプチ

(止めて) おれの目の前でもやるのか？……ビヤンカ、あつちへ行きなさい。

ビヤンカ入る。

カサリ

おや、わたしの邪魔をなさるの？ いや、分りました、彼女はあなたの御秘藏です、彼女にや亭主を有たせなけりやなりません、わたしは妹の婚禮日に跣足で踊を踊らなけりやなりません。(だん／＼泣きさうになりかけて) あなたが彼女ばかり可愛がりなさるから、わたしは地獄へ猿を牽いて行かんけりやなりません。いゝえ、聞きません。わたしは部屋へ往つて、一人で泣くからいゝわ、此返報が出来るまでは。

怒り泣きに泣きつゝ入る。

バプチ おれの身分で、こんなに不幸な、情けない者があるだらうか？……あ、だれやら来た。

眞先に、老求婚者のクレミオーと貧乏書生らしく装つたルーチエンシオ
Iが出る。ついで、豪放なペトルーキオーと音楽者らしく假装して
すつかり見紛ふやうになつてゐるホオテンシオーが出る。尙その後
ついで、若紳士らしく装つてルーチエンシオーに化けたるツラニオーと
其従僕として琵琶一面と書籍数巻とを携へたるピオンテローが出る。

クレミ 今日、バプチスタさん。

バプチ 今日、グレミオーさん……(皆々に) 皆さん、御機嫌よう！

ペトル (無遠慮に前に進んで) あんたにも御機嫌よう。時に、あんたの許に、カサリンさんといふ美人
て淑女だといふ評判の娘さんがありますか？

バプチ はい、カサリンといふ女はあります。

クレミ (ペトルーキオーに) あんまり無作法過ぎますよ。言葉づかひに注意なさい。

ペトル 無作法なことがあるもんですか！ 邪魔をしないで下さい。……(バプチスタに) わたしは、エ
ローナから来た一紳士ですが、お嬢さんが美人で、聰慧で、非常に柔和で、内氣で、温雅
貞淑であつて、驚くべき種々の資格を備へておいてだてことを聞いたもんですから、失禮

ですが、お宅へ推参して、果してそれが噂通りであるかどうかを實驗したいと思つたので
す。て、はじめて参上の水引代りに此仁を献上します。(とホオテンシオーを紹介しつゝ) 音楽と數
學に精通してゐて、お嬢さんが豫てお修めだと承はつたそれらの學術を十分お教へする
とが出来る男です。御受納下さい、でなけりやわたしが恥を搔くわけになる。名はリシオ
Iといひます、マンチユア生れです。

バプチ ようこそおいで下さつた。さうして其方も、あなたの御紹介ですから。だが、拙女カサ
リンは、あれは逆もあなたのお手には合ひませんよ、ですから詢に情けない次第で。

ペトル ぢや、お嬢さんを手離したくなくお思ひなのですか？ 或はわたしがお氣に入らん？

バプチ 誤解なされるな。有りのまゝを申してをるのです。一體、あなたはどちらからお出でなすつ
た？ お名前は？

ペトル 名はペトルーキオーです。亡父アントーニオーは伊太利ぢうに名を知られてゐました。

バプチ わたしも存じてゐます。アントーニオーさんの御子息ですか？ よくおいでなすつた。

クレミ (横合から) お話中だが、ペトルーキオーさん、どうかわたし共にも、憐れな請願者たるわ
たしどもにも、ちつと物をいはせて下さい。交代！ あなたはちつとろしく氣逸な人だ。
ち、グレミオーさん、これは失敬。實は、すぐにも實行に及びたいくらゐのもんです。

グレミ さもありませう。だがね、今に、縁談に及んだことをさへも後悔なさるでせう。……バプ
チスタさん、ペトルーキオーさんの御進物も全くの御芳志と信じますが、予も同様の微意
を表すために、あなたには特に多くお世話になつてゐる手前ですから、此（とルーチエンシオ
ーを引合せつゝ）久しくリームズ市で修行してゐた若い學者を獻じたいのです。希臘、拉典、
其他どこの國語にも通じてゐます上に、音楽も出来、數學も出来、名はカンビオーと
いはれます。どうか御受納の上お召使ひ下さい。

バプチ これはどうもありがたう。……カンビオーさん、ようこそ。……時に、あなた（とツラニオーに）
あなたは、まだどうもお目にかゝつたことがないやうですが、失禮ながら、どういふ御用
でおいでになりました？

ツラニ 御免下さい、失禮は手前こそです。手前は當市へは全く初めて参つた者でありますも拘
らず、令嬢へ御縁談を申し試みたく存じますのです。美人であり淑女であるビヤンカさん
へです。先づ御長女をといふあなたの堅い御決心の件も承知の上で参上したのです。で、
手前の願ひと申すは、素姓を申し上げた上で、他の諸君と同格の自由と權利と御歡待を得
さへすれば満足です。で、令嬢がたの御教育用にと、こゝに粗末なる樂器と希臘、拉典の
書籍を収めました此小包とを呈進いたします。もしも（と包を開きつゝ）御笑納下さいますれ

ば、爲に大いに價値を生じます次第です。

バプチ お名はルーチエンシオーさんですね。どちらからおいでです？

ツラニ ビザから参りました。ボンチエンシオーの倅です。

バプチ ビザのあの大家の。噂では善く承はつてをりました。ようおいて下された。（ホオテンシオ
ーに）君は此琵琶を持つてつて下さい。（ルーチエンシオーに）君は此書籍全部を。すぐに弟子
になる拙女どもに會つて下さい。……（奥へ向いて）こら、だれかをらんか！

家僕一人出る。

あいく、このお人たちを拙女どものところへ御案内しろ。さうして二人にいへ、先生方
だと。丁寧にお扱ひ申せといひな。

家僕に案内されてホオテンシオーもルーチエンシオーも入る。ピオンテ

ローもつゞいて入る。バプチスタは、残つた人々に

庭内を少し歩きましてから、食事にしませう。……おいて下すつたのを非常に喜ばしく思ひ
ます。どうか十分にお寛ぎ下さい。

バプチスタさん、わたしは急用を持つてゐるから、迎も毎日来て御縁談なんかしてゐ
るわけにやアいかない。あなたは父をよう御存じてある以上、父の性質から推して、わた

ペトル

しがち分りてせう。わたしは地面、財産一切を相續して、それを決して減さないで、むしろより良くしたといつてよいです。ところで、若し娘さんに異議がないとなつたら、いよいよ結婚といふ段になつて、財産は幾ら娘さんにお持たせになるんですか、承はつときたい。

バプチ

わたしの死後に、地所半分と所持金のうち二萬クラウンだけを遣はす積りです。

ベトル

すると、わたしは、其持参額に對して、娘さんが、わたしに先へ死なれて、後家となつた場合には、わたしの持つてる限りの地所、借地権一切がつさいを譲ることを保證します。ついでには、あなたとわたしとの間に、契約を双方共必ず履行するといふ特殊證書を取交すことにさせよう。

バプチ

はい、特殊物件すなはち彼女の愛をあなたが得なさりさへすればです。それが肝腎勘文です。

ベトル

なアに、そりや何でもないこつてす。といふのはです、お父さん、わたしの我強さと來たら娘さんの高慢なんかに凹むやうなことはないのです。烈火が双方からふつつかりやア、其火勢を養成する筈の物が却つて打消されつちまふ。生中少しばかり風が吹くので、強くもない火めが煽られて燃立つが、非常な大風が吹くと、火も何もかも消えつちまひます。わたし

は娘さんには大風です、だから娘さんが參ちまひます、わたしは手荒いから、赤ん坊のやうにや口説かないから。

バプチ

どうか巧くお談じなすつて、成功して下さるやうに！ だが、どんな酷いことを言はれても驚かない覺悟をしておいでなさい。

ベトル

はい、十二分に。風に對する山嶽の如くにです、山はどんな烈風が引切なしに吹立てたからつて、びくりともしやしません。

此時ホオテンシオー、頭に剣を蒙つたらしく、顔色蒼白となつて出る。

バプチ

(驚いて) どうしたのです？ なぜそんな眞蒼な顔をして？

ホオテ

蒼ざめてますか？ おそろしかつたからです。

バプチ

え、我女は音楽者たるに適してをりませうか？

ホオテ

軍人のはうが適任でせう。研つたり撲つたりのはうは似合ひませうが、弾いたり鳴らしたのほうは駄目です。

バプチ

ちや、彼女に琵琶を仕込んでいただくわけにはいきませんか？

ホオテ

駄目ですとも。わたしの頭へ琵琶を叩き込むんですからね。わたしは只甲が違つてますといつて、指の使ひかたをお教へしようとしたばかりです。すると、おッそろしく腹をお立

ちなすつて、「癩ですつて是れが？　ぢや、癩を起してよ！」とちつしやるや否や、わたしの脳天を琵琶で力一ぱいにビシャーリッ！　で、頭が樂器の外へ抜けッちまつたんです。わたしは駭いて、暫く突立つてました、琵琶を首にはめたまゝで、まるで首枷を掛けられた形で。其間お嬢さんはわたしを胡弓彈野郎だの、ふがく坊主だの、其他それに類する悪口を二三十お並べてした、豫てわたしを罵倒する爲に研究をしておきなすつたかと思ふやうに。

ペトル

こりやアどうも、實に愉快な、逞しい娘ッ子だ。さう聞くと、更に十倍も可愛くなるね。あゝ、早く其娘ッ子と喋舌りあつて見たいねえ。

バプチ

(ホオテンシオーに) ねえ、ま、わたしと一しよにおいでなさい、そんなに弱り込んでしまつちやいけない。妹嬢のはうを教へて見て下さい。彼女は習ひ得ます、さうして骨を折つて下さりや有りがたがりもする。……ペトルーキオーさん、あなたもあいてなさるか？　或はケイトをこゝへよこしませうか？

ペトル

どうかさう願ひます。こゝで待つてまして……

バプチスダ、カレミオー、ツラニオー、ホオテンシオー入る。

見えたら、元氣よく説いて見ませう。……(獨語的に) 悪口を始めたとする。おれは平氣で妙

音鳥の囀る聲のやうだといつてやらう。怖い顔をしたとする。まるで朝露を帯んだ薔薇の花のやうに美しいといつてやらう。黙り込んで何にもいはないとする。何といふ氣持のいい辯舌だ、鋭利な舌刀といふのはこれだと褒めてくれる。「すぐ出て行けッ」と怒鳴つたら、「有りがたう。だが、逆ももう一週間と逗留することは」といつてやる。「結婚なんかだれがするもんか」といつたら、「ぢや、教會での披露は何時にしよう、式は何時にしよう」と反問してやらう。……やつて來た。さ、ペトルーキオー、喋舌れ。……

カサリン佛頂づらなして出る。と極馴々しく

カサリ

今日は、ケイトさん。といふのが、あなたの名だと聞いたよ。お聞きなすつたでせう、けれども聞き苦しいわね、それぢや。禮儀を知つてる者は、わたしのことを、カサリンさんと呼びます。

ペトル

嘘をいひなさい。だれでもあなたのことを生地ケイトだの、可愛いケイトだの、どうかすると雷ケイトだのといひますよ。とにかくケイトです、基督教國第一等の可愛らしケイト、ケイト堂のケイト、無類飛切の美しいケイト。ケイト(珍産)といふ以上は美しいは定りてせう。だから、ケイトさん、ま、聞いて下さいよ。ねえ、御慰安のケイトさん、僕はねえ、君が温雅で貞淑でさうして艶麗であるといふことに關しては、到る處の

都市で豫て豫知してゐたけれども、尙其稱讃は、君の眞價に比べれば、遙かに以下だと聞いたもんだから、君を説いて妻になつて貰はうと思つてやつて来たんだよ。
(つつ慳食に) 貰はうと思つてやつて来たつて？ わたしはまた其遣つて来た人に、すぐ歸つて貰はうと思つてゐるんです。あなたは、見たところから、すぐに撥返りさうな家具に似てよ。

ベトル 撥返る家具に？ といふのは？

カサリ あなたは疊椅子よ。

ベトル けつこう。……さ、お掛けなさい。

と膝を差出して、ござれ腰になる。

カサリ (侮蔑の目で見やつて) 載けるは驢馬の持前です。あなたがそれよ。

ベトル いや、載けるのは女の持前です。あなたがそれだ。

カサリ お生憎さま。わたしはあなたなんかを載けるやうな牝馬ぢやないのよ。

ベトル どうして〜、僕の大事のケートちゃんに重荷なんか負はせてたまるものか、可哀さうに、まだ年齒もいなくなつて、暢氣に氣輕に育つて來てゐるお嬢さんだ。
いくら氣輕でも尻輕ぢやないんだから、あなたのやうな農夫の手にゃあはなくつてよ。

カサリ

へん、輕くつてもね、身分だけの品位も重量もありますよ。

ベトル 銃獵がある？ どこで？ そいつア危険だねえ。土鳩の癖にあんまりぼぼと囀つてると、きつとやられる。

カサリ 土鳩よりも土農夫のはうで用心するがい、いつ流れ弾が飛ぶかも知れないからね。

ベトル 成程、君はちこりッぽいねえ、くまん蜂式だ。

カサリ くまん蜂には毒針があるから、用心なさい。

ベトル そんな針なんか、今に引ッこぬいてしまふ。

カサリ へん、蜂の針でものは何處にあるか、多分兵六玉には分るまいよ。

ベトル 分らなくつてさ。尻に在るよ。

カサリ いしえ、舌に在る。

ベトル だれの？

カサリ あなたのさ、お尻の話なんかするんだもの。……ぢや、もうさよならです。

と行きかける。

ベトル え、あなたの尻に舌を、僕の？……行くのを止めて、お待ちなさいよ、ねえ、大丈夫ですよ、ケートさん、わたしは紳士ですから……

とまだ何かいはうとするのを憎々しげに睨んで
カサリ ちや、試験してよ。

といふや否や手ひどく横面を撲つ。

ペトル (儼となつて) もう一度やつて御覽なさい、その鼻柱を叩き潰しますぞ。

カサリ (荷尻目にかけて) そんなことをなさりや、あなた自身の面目玉のほうが潰れませうよ、女を撲

つのは紳士の行爲ぢやありませんからね。……こゝにありや怒鳴りたくなるから、もう往きます。さよなら。

と又行きかゝる。

ペトル どつこい、ま、お待ちなさい。聞いたとは大違ひだ。あなたは非常におとなしい人だ。噂ではあなたは亂暴な、高慢な、氣むづかしやだといふことだつたが、大嘘の皮だ。どうして、面白い、愉快な、非常に禮儀正しい人だ。言葉少な過ぎるのが少々疵だけれど、まるで春の花のやうに可愛らしいねえ。(カサリンがこらへかれて、睨み附ける。) 怖い顔なんかしようとしたつて、あなたの其可愛い顔立ちやア出来やしないや。睨み附けようとしたつても駄目だ。(カサリン悔しがつて唇を噛む。) 怒つた賤女のやうに唇を噛まうとしても、それも駄目だ。うんと逆捻に、意固地に出ようとしたからつて、本來が柔和で優しくつて愛嬌が有り過ぎ

カサリ 馬鹿ッ！ 命令は自分の家の者にするがいし。
ペトル あゝ、ダイヤナ神が彼の森林の中に在します折の御姿とても、此、王女の如き風情して室内に立ちたまへるケート嬢の麗しさにはよもまさらじとこそ思へ。あはれ ダイヤナ神とケートとを取換へばや。さらばケートは清淨の神となれ、而うしてダイヤナをして只の猥りがはしき女子たらしめよ！

カサリ そんな氣のきいた文句を何處で習つて來たの？
ペトル 持つて生れた頓智に由る自作ですよ。
カサリ ちや、阿母さんの遺傳のお底だわね。あなた自身は……
ペトル 無論賢明でせう？

カサリ 然、だから、風を引かないやうに、早く引込んでお温まんなさい。
ペトル さ、だから、温ためて貰ふ人を拵へるために、縁談に及んでゐるんてさ。ねえ、餘計なお

喋舌を止して、明白にいふと、かうです。あなたを妻にすることは、もう既にお父さんの承諾を得てゐるんです、嫁入資産の事までも約束済です。で、あなたが何といはうとも、僕はあるたを娶るんです。即ち僕はあなたの夫だ、僕は僕をしてあなたの其美貌を見せしめ、其美貌を見えますよ。あなたを好いたらしく思はしむる所の此白日の光線によつて誓ふ、あなたは是非とも、一へに、僕に嫁がなけりやならん。といふのはだ、ケートさん、僕はあるたを馴らすべく生れた男なんだ、山 猫のあなたを手 飼 猫のあなたにすべき天職を有つて生れた男なんだ。……あ、お父さんが見えた。いやだといつちやいけなよ。何でもかんでも、あなたを妻にせないぢやあかないんだからね。

バプチスマとグレミオーとツラニオーと又出る。

バプチ バトルーキオーさん、拙女との御談判はどんな鹽梅式です？ 御成功ですか？

バトル どんな鹽梅式？ 成功は無論です。失敗しよう筈はないですよ。

バプチ (カサリンの例になく沮喪してゐるのを見て) おや、どうしたのだい、我女？ え、カサリン？ ふざけてるぢやないか？

カサリ (怒めしげに睨んで) あなたはわたしを我女と呼ぶんですか？ ぢや、いひますが、あなたは、わたしの爲に、慈愛深いお父さんらしい御配慮をして下さいましたわね、こんな半氣ちが

ひと結婚させようなんて。こんな無法な、口ぎたない、怒鳴つて勝たうとばかりする亂暴人ッたらありやアしない。

バトル (バプチスマがけいんな顔をするのをなだめて) お父さん、かういふわけです。あなたも世間も、嬢さんに關しては、全く間違ひ切つた批評をしてゐたのです。若し此嬢さんが我鳴り屋であるなら、それは何か政略の爲なんでせう。嬢さんは剛情張の我儘者どころでなく、まるで鳩のやうにおとなしいのです。氣が短いどころか、長閑で長くって、春の日のやうでさ。忍耐強いことに於ては、グリゼルダ第二世といつてもいゝくらゐだし、貞操にかけては羅馬のルークリウスそののです。で、つまり、我々二人は、いづれ、そのうち、或日曜日

カサリ を以て式を擧げることによ束しちまつたんです。

グレミ へん、日曜日が来りや、先づお前を絞罪臺へ上らせて見せるからね、さう思ツといで。

ツラニ ねえ、バトルーキオーさん、彼女は先づあなたを絞罪臺へ上げさせて見せるといつてますよ。(バトルーキオーに) これで成功なんですかい？ ……ぢや、(と歎息して) われ／＼の望みはさらん

バトル ばんだ。
(なだめて) まゝ、諸君。彼女はわたしの縁女ですよ。われ／＼どうしさへ満足してゐりや、君たちがかれこれいふには及ばんぢやないか？ 二人は差向ひの時に、實は、斯う約束し

たんです、人前ではやつぱり雷娘になつておいて、はい、おませうて。ねえ、實際、彼女が僕を熱愛する其猛烈振と來たら、逆も君たちは信じてくれまい。あゝ、何といふ人情の深いケイトだらう！ 僕の此頸へ絡み附くのですよ、キッスに次ぐにキッスを以てし、盟約に次ぐに盟約を以てするのですよ。だから、只一瞬間にして、僕は彼女に首ッたけになつちまつたのです。あゝ、君たちはまだ青いよ。世間知らずだよ！ ね、妙なもんだよ、男と女は差向ひになるといふとだ、おそろしい雷女が、案外にも、意氣地のない亭主の手でおとなしくさせられることがあるもんだよ。……ケイトちゃん、手を。(とカサリンの手を取らうとする、カサリン手ひどく振拂ふ。それにはかまはず) 僕はこれからゼニスへ往つて、婚禮の式服を買つて來よう。……お父さん、披露の祝宴の準備をして、客を呼んで下さい。カサリンはきつとうつくしくなりますよ。

バプチ

(呆れて) 何といつていゝか分らん。だが、ともかくも手を。(とペトルーキオーと握手して) ちや、ペトルーキオー、御機嫌よう！ これが結婚のお約束。

ツラニ
ペトル

アーメン！ とわれ／＼もいひます。さうして證人になりませう。

お父さん、それから(とカサリンを見返る。ぶり／＼して横向く、それにかまはず) それから諸君、さよなら。どりやゼニスへ往させう。日曜はすぐに來るから。(と浮れて、だん／＼言葉に調子を附けて)

指輪が要ります、睛着が要ります、いろ／＼要ります。ところでケイトさん、キッスをしとくれ、日曜にや二人が婚禮だ／＼。

とカサリンを抱いてキッスしようとする。カサリン怒つて手荒く突き離し、無言で一方へ入る。ペトルーキオーは愉快さうに笑つて他方へ入る。

グレミ

(呆れ) こんな急な、だしぬけの婚約ものが、いつぞか、どっかにあつたらうか！

バプチ

諸君、正直のところ、わたしは貿易船の役廻りをしてゐるのです、一かばちかの冒險を海外の市場に對つて試みてゐるのです。

ツラニ

ですが、其代物は、どうせお仕舞になつてお置きになつても、どうにもかうにも捌け口のないものなんでしょう。ですから、うまく行けば御利益、行かなければ海の藻屑。其利益とてもです、只もうおとなしく運添つていつてくれ、ばい、のです。

バプチ

おとなしく提つてしまひなすつたには相違ありません。……ところで、バプチスタさん、妹さんの一件です。われ／＼が待ち焦れた日がいよいよ來ました。わたしは御隣家の者

ツラニ

でもあり、真先の求婚者でもあります。而うして手前は、到底言語を以て證明すべからざる又あなたの推測し能はざる程度にピヤンカさんを愛慕してゐる者です。

グレミ (角目だつて) 二才さん、お前なんぞにや逆もく、おれのやうな清い愛情のあらう筈はない。
ツラニ 爺さん、お前なんかの戀愛は半分がたもう凍っちまつてるんだ。

グレミ お前のは熱し過ぎて焦附いてる。ちよび助め、すつこめ。年寄でなけりや女の口を養ッちや行かれない。

ツラニ 若い者でなけりや女の目を嬉しがらせるわけにやいかない。

二人いよく 角目立つ。

バプチ

(止めて) 二君、其争ひはわたしに裁かして下さい。これは、是非とも、證書に勝敗を決せしめませう。すなはち、兩君のうち、何れが、ビヤンカに、一層多くの養老資金を遺さうと約束せられますか？ 其多いはうへビヤンカを差上げませう。……グレミオーさん、あなたは彼女に何々を遺ると約束して下さい？

グレミ

先づ、御存知の如く、當市内のわたしの邸には、金や銀の皿、小鉢が十分に備へ付けてあります。ビヤンカさんの美しい手を洗ふための水盤もあれば、瓶もある、壁代は悉くタイヤ織です。象牙づくりの金匣には金貨が一ぱいあります、椶柏の箆筒には花毛氈や高價な晴衣や天幕や天蓋や上等のリネンや眞珠を浮飾りにした土耳其蒲團や金糸で刺繡をしたゴニスタタリの帳や、其他、洋銀だの、黄銅だの、および家に屬し、家政に入用なものは何て

もありません。それからわたしの農園には、いつでも需要に應ずる乳牛が一百頭、又小屋には一百二十頭の肥り返つた去勢牛がゐます。其他、此約定條件に應ずべきものは何でもあります。わたしは齡を取り過ぎてゐます、それは自白します、随つて、若しわたしが明日にも死ねば、右の財産が悉皆娘さんのものになります、若しも娘さんが一にわたしのものになれば。

ツラニ

「一に」はよかつたね。……(バプチヌタに) ねえ、わたしのを聽いて下さい。わたしは父の嗣子です。若しわたしが令嬢を妻にすることになれば、富裕なるビザの市壁内に於て、四ヶ所乃至五ヶ所の堂々たる邸宅を——グレミオーさんのバデユアのどの邸に比べても決して遜色のないのを——令嬢に遺します。尚その外に、豊饒なる田地からの年々の上り高二千兩をも總て妻の養老資として遺します。……どうです、グレミオーさん、參つたらう？

グレミ

田地からの年々の上り高が二千兩！ わたしの田地は、逆もそれ程にはなりません、とにかく、残らず嬢さんへ遣ります。尚其外は、目下マーセルズへ着く筈になつてゐる大貨物船が一艘あります。どうだね、ツラニオーさん、この貨物船では閉口に及んだらう？

ツラニ

グレミオーさん、わたしの父の所有に屬する大貨物船が三隻以上だといふとは天下周知の事實です。其外に二隻の巨船と十二隻の防水船があります。それら一切をビヤンカさんへ

約束します。及び（とグレミオーに）何でも、君が此上提供しようとするもの、二倍だけを約束させう。

グレミ
いや、わたしはもう有りつたけを提供してしまつたから、もう何にもない。わたしの持つてゐる一切以上をビヤンカさんへ遺すわけにはいかない。持つてゐるだけでよろしければ、何もかもお約束通りにします。

ツラニ
おや、令嬢は、堅い御前約通り、わたしの物です。グレミオーさんは競り負けです。

バプチ

（ツラニオーに）あなたの御提供を第一等と認めないわけにはいきません。ところで、あなたのお父さんに、我女があなたの妻であるといふ保証をして貰ひたい、でないと、失禮だが、あなたがお父さんよりも先へ亡くなつた場合に、我女の養老資の出どころがありますまい？ そりや少々御見當ちがひでせう。親父はもう老人です、わたしはまだ若いのです。

ツラニ

グレミ

バプチ

（獨語のやうに）若いからつて、老人同様に死なないわけにやいかない。さて、兩君……わたしは斯う定めました。次の日曜に、御承知の如く、長女カサリンが結婚します、て、其次の日曜にビヤンカを（とツラニオーに）あなたへ嫁入らせます、若しあなたが只今の約束通りになさるならば、が、若しなさらぬとなれば、グレミオーさんへ……では、これでお別れします。ありがたうございました。

グレミ

さよなら、御機嫌よう……

バプチ スタ入る。

（ツラニオーを尻目にかけて、傍目）汝なんか怖くないぞ。……（ツラニオーに）おい、賭事師どん、お前の親父さんは馬鹿だねえ、お前に何もかもくれつちまつて、死際になつて、萬事お慈悲をお前に乞ふなんて。ちえッ、馬鹿々々しいこつた！ 伊太利の古狐はそれほど馬鹿深切ぢやないよ。

入る。

ツラニ

今に見ろ、其狡猾な皺だらけの皮をひんめくつてくれる！……だが、十點の札で虚喝つてくれたが、みんな御主人のお爲になるやうにと思ふばかりだ。ところで、似せ者のルーチェンシオーが似せ者のギンチェンシオーといふ親父を拵へなけりやないんのだが、不思議だな、親父が子供を拵へるのなら當り前だが、此縁談では、首尾よくいけば、子供が親父を拵へることになるんだ。

入る。

第三幕

第一場 バデユア。バプチスタの邸

學者に假裝したるルーチエンシオーと音樂者に假裝したるホオテンシ
オーとビヤンカと出る。

ルーチ 樂師さん、ま、お控へなさい。あなたはあんまり無遠慮過ぎますよ。あなたは、お姉さん
のカサリンさんからお受けになつた待遇をもう忘れたんですか？

ホオテ だつて、學者さん、この方は、お姉さんとは違つて、音樂の女保護者でいらつしやるんだ
から、全權を僕にお譲りなさい。僕が先づ一時間音樂をお教へした上で、君も其同じ時間
だけ講義をしたらいいだらう。

ルーチ 馬鹿な、理窟に合はないことをいひたまふな。君は音樂は何の爲に作られたかといふこと
だけをも讀んぢやゐないだらう！ 音樂でも、人が勉強をしたり勞働をしたりした後
で、其心を休め慰めるために聴くものだらうぢやアないか？ 然ればだ、先づ學問の講義

ホオテ をわたしにさせるのが順當だ。わたしが止めたら、音樂の教授をなさい。

と二人が角目立つ。

ビヤン (止めて)ま、お二人さん、わたしの事で、お争ひなさるのは、わたしを二重に侮辱なさるので
す。その選擇權はわたしにあるんでせう？ わたしは灣泊者の小學生ぢやありませんから、
時間て縛られたり、順序を豫定されたりして習はうとはしません。自分の好きなやうにし
て習ひます。ですから、争ひの根を絶つために、(とルーチエンシオーに)ね、こゝへ腰掛けさせう。
(ホオテンシオーに)あなたは樂器を取つて弾いて見て頂戴ね。調子が整ふまでには、講義が濟
むでせうから。

とルーチエンシオーを促して同じ長椅子に並んで掛け、書籍を繕きは
じめる。

ホオテ ちや、調子がすつかり合へば、講義のはうは止めになるんですか？

ルーチ (口のうちで) 決して合はんね。…… (大きな聲で) 樂器の調子をお合せなさいよ。

ビヤン (書物を開きて) どこで止したんでしたらう？

ルーチ こゝでした。

じゃじゃ馬馴らし

ホオテンシオーは樂器(笛?)の調子を合せはじめる。

ルーチ

Hic ibat Simois; hic est Sigeya tellus; Hic steterat Priami regia cels semis.

ビヤン

譯して下さる。

ルーチ

(小聲) *Hic ibat* 前にもいつた如く——*Simois* わたしはルーチエンシオーである——*hic est* ビ

ザのギンチエンシオーの息子である——*Sigeya tellus* あなたの愛を得んが爲に斯くの如く假装した——*Hic steterat* ちうして求婚に来る所のルーチエンシオーは——*Priami* 私の從僕の

ツラニオーである——*regia* わたしの風采を装つてゐる——*Cels Semis* 爺馬鹿を欺く爲に。嬢さん、調子はもう合ひました。

ホオテ
ビヤン

奏して見て御覽なさい。(ホオテンシオー奏して見せる。……あら、いやな! まるで合つてやしないわ。

ルーチ

(ホオテンシオーに) 穴へ唾でも吐込んで、やり直して見たまへ。

ビヤン

(書物を控へて) さ、わたしが讀んで見るわ。譯せるか知らん。*Hic ibat Simois* わたくしはま

だあなたを知らない、——*hic est Sigeya tellus* わたくしはあなたを信ずることが出来ない——

——*Hic steterat Priami* 彼れに聞えるといけませんよ——*regia* たかをくつちやいやいな

——*Cels Semis* 絶望しちやいやいな。

ホオテ

嬢さん、こんどは合ひました。

と又奏して見せる。

ルーチ

ペイズ(マス音)だけが合つてゐないよ。

ホオテ

ペイズだけとは御道理だ。とかく不快な音色を出す奴はペイズ(賤奴)だからね。……(口の

中で) 何といふ猛烈な、ぶらぶらしい奴だ、あの書生ッほうは! きつとあいつはビヤンカ

さんを口説いてやがるに相違ない。物識屋どん、これからは油斷をしないぞ。

といひつゝ、又樂器の調子を直してゐる。

ビヤン

(小聲でルーチエンシオーに) そのうちには信用するでせうけれど、今は疑ぐつてしよ。

ルーチ

(同じく小聲で) 疑ぐらないで下さい。といふのはです、と大きな聲で) たしかにエジャックスは

イヤカスの血統です、お祖父さんの名に因んで、エジャックスと呼ばれてゐたのです。

ビヤン

(笑ひ出しながら) 先生のちつしやることですから、信じなかりやならないわ。でなかりやわたし

しいつまでも疑ぐつてでせうけれど。(快活に笑ひながら) ですが、ま、それはいゝとし

させう。……(ホオテンシオーに) リシオーさん、さ、あなたの番よ。(ホオテンシオーがいやな顔な

するのを見て) 先生、わるく思つて下さつちやいやよ、わたしがふざけてゐたからつて、

ホオテ (ルーチエンシオーに) 君はちつと外へでもいつて下さい、僕がお教へする間。僕のは三人の
ちや教へにくいんだ。

ルーチ そんなにやかましいことをいふのかい？ よろしい、しかたがない、待つてゐよう。……
(傍) 見張つてやらう。あの音楽屋め、どうもあぶない、だんく色っぽくなつて來やがる。

少しく立離れる。

ホオテ 嬢さん、樂器をお使ひになる前に、指の使ひかたをお教へするために、初歩から始めますよ。極簡略な方法で音階を教へます、從來此専門の者がお教へするよりもずつと愉快な、有效な方法で。こゝに綺麗に書いてあるのがそれです。

と書いたものを示す。

ピヤン でもわたし、音階はとうに習ひましたの。

ホオテ けれども(と小聲になつて)ホオテンシオーのは別ですからお讀みなさい。(と本名をいふ)。

ピヤン (讀む) 音階、予はあらゆる諧音の基礎なり。A re ホオテンシオーの切なる情を代辯せんとす。B mi ピヤンカよ、彼れを所天として迎へよ。C fa re 彼れは真情を傾けて君を愛す。D o re 予に一つの鍵と二つの調子とあり、E lu mi 憫みを垂れよ、然らずんば、予は

死なん。……(ホオテンシオーに)これが音階ですの？ ちや、わたし嫌ひ。舊式のはうがずつといゝわ。わたし正しい古い規則を變的な新工夫と取換へたりなんかするほどそれほど物ずきぢやなくつてよ。

家僕一人出る。

僕 お嬢さま、お父さまが御書のお稽古をお止め遊ばしまして、お姉さまのお部屋のお粧飾をお手傳ひ遊ばしませとお頼みてございます。明日は御存知の御婚禮日でございますから。お二人の先生さま、さやうなら。用が出来ましたから。

ピヤンカと家僕と入る。

ルーチ (見送りつゝ) 嬢さん、ではわたしもこゝにゐる必要はありません。

ついでに入る。

ホオテ (獨りになつて) あの書生はうめを一詮義しなくちやならんぞ。どうも惚れてるのらしい。……ピヤンカさん、若しも君がどんなつまらない囀にでも目をうるろく向けるやうな、そんなさもしい料簡なら、好きなものをお攫み。君は浮氣者だと定ちちまやア、ホオテンシオーは敵手を他で求めるよ、君を捨てるよ。

はひ入る。

第二場 ハデユア。バプチスタの邸の前。

バプチスタとクレミオーとツラニオーとカサリンとビヤンカと學者に
假裝せるルーチエンシオー其他出る。從者ついで。

バプチ (ツラニオーに) ルーチエンシオーさん、けふがカサリンとペトルーキオーとを結婚させる筈の日
ですが、まだ婿殿から知らせがありません。(心配げに) どんなをいひ觸されるか? 僧官
が来て、いよく結婚式を行はうとする段になつて、花婿がゐないなどといふのは、何と
いふ嘲弄の種であらう? ルーチエンシオーさん、わたしどもの此恥辱をどう御覽です?
わたしだけの恥辱です。わたしは、いやてたまらない、氣まぐれの、半氣ちがひの亂暴者
に無理無體に結婚させられなけりやならんのです。あの男は、性急に縁談を申込んでい
て、而ものろくさと式を挙げようといふのでせう。だから、あいつは氣のちがつた馬鹿者
だといつたんです。不作法な行爲で馱洒落の毒舌を塗隠してゐるんです、さうして面白い
極樂蜻蛉だといふ評判を得るために、千人も二千人もへ縁談をいひ込んで、式の日をも定
めて、友達を招待したり披露式を行つたりするんです。けれども其申込んだ敵手と實際結

カサリ

ツラニ (カサリンを見送つて) もつともだ。泣くのも無理はない。こんな目に逢つちやア聖者だつてお
悲みなさるだらう、況んや氣隨氣まゝで通して來たじや〜馬の汝だ。
カサリ (ツラニに) 旦那さま〜! 新聞です、珍聞です、すてきな古い新聞です!
バプチ すてきな新聞で而も古いといふのは? そりやまたどういふわけだね?

カサリ (ツラニに) 旦那さま〜! 新聞です、珍聞です、すてきな古い新聞です!
バプチ すてきな新聞で而も古いといふのは? そりやまたどういふわけだね?

カサリ (ツラニに) 旦那さま〜! 新聞です、珍聞です、すてきな古い新聞です!
バプチ すてきな新聞で而も古いといふのは? そりやまたどういふわけだね?

ピオン だつて新聞でござんせう、ペトルーキオーさんの御入來てのは？

バプチ え、來ましたか？

ピオン いゝえ。

バプチ ちや、どうしたのです。

ピオン 來かゝつてゐなざるんです。

バプチ いつ、こゝへ來ませう？

ピオン さ、手前の今立つてるこゝんとこへ來て突立ちなすつた時にてせうね。

ツラニ だが、古い新聞だといつたわけは？

ピオン だつて、ペトルーキオーさんが來なざるんですよ、新しい帽子を冠つて、古いチヨッキを着て、

三度裏返しをした古細袴を穿いて、一度燭臺入れになつて古長靴の、一方は縮金、一方は笹縁で奴をつっかけて、町の武器庫から拾ひ出して來た赤鯛の、欄も鏢も折れた奴を佩下げて、尻骨の歪んだ馬に乗つて、其鞍は蟲喰ひだらけ、其鐙は無類、おまけに、其馬は鼻疽に罹つてゐて、脊骨を病んでもゐて、上脛が腫れてゐて、瘤が出來て、蹄にも故障があつて、後脚蹠節は來つて、黄疽にもやられて、耳瘤と來ちや骨絡みだし、暈倒症は持病、胃の蟲は附き物、脊は曲つてる、肩骨は脱れてる、前脚は接近してる、やつと頬半

分がたの轡にや羊革の絡頭、それもね、奴を躓かせまいって、あんまり強く引張つたので、もう何度もちぎれたのを綴くり繕つて結び玉だらけといふ奴、腹帯とても、もう六遍も縫ぎ合せた奴、鞆と來ては、女用の天鵝絨仕立て、飾り紐にや其女の名頭の二字が麗麗と浮上つてゐる上に、あっちこつちを荷繩で以て繋ぎ合せてあるといふ厄介千萬な代物なんです。

バプチ だれか一しよに來ますか？

ピオン はい、馬丁が一しよです。それがまた、實にその、只今申した馬よろしくの扮装なんです。

一方の脚にはリネンの股引を穿いて、一方には毛織の長靴下を穿いてゐます。その飾紐が赤と青との織端。それから古帽子、それへ四十種ほどの變的れんの思附が羽根の代りにぶらさがつてゐるんです。まるで衣裳を着た化け物でさ、逆も基督教國の馬丁や紳士の御家來なんかとは見えません。

ツラニ そんな風をするてのは、あの男、また何か、例の變な體液にても刺戟されたんでせうよ。

バプチ もつとも、時々、粗末な服装で出掛けることもあるんですが。

ピオン とにかく、ペトルーキオーさんが來てくれたのは有りがたい、服装はどんな風であらうとも

ペトルーキオーさんが、來たんぢやありませんよ。

バプチ でもち前さん、今来たといつたぢやないか？

ピオン え、ペトルーキオーさんが？ 来たといひましたか？

バプチ さやう。さういひなすつたよ。

ピオン いゝえ、馬が来ましたんですよ、ペトルーキオーさんを載けて。

バプチ 一つこつた、そりや。

ピオン (鼻唄)

なんの一つこと！

誓文くッされ、

二錢賭けまじよ、

お馬と人とぢや

一つよりや餘計だ、

たんとぢやなければど。

このうちペトルーキオーとケルミオーと出る。ペトルーキオーは前
の如き奇妙不思議の服装をして、手に鞭を持って、今馬から降りた
といふ風で、無作法に、亂暴に駈けて入る。皆々其亂暴な態度に面くらふ。

ペトル (雷聲で) さ、さ、奴等アどこにゐる？ だれかをらんか？

バプチ (無作法なのに呆れながら、ともかくも出迎へて) よく来て下すつた。

と形式的に挨拶する。それをじろりと見て

ペトル あんまりよう来たらしくもないね。

バプチ でもち達者にやつて来なすつたらしい足附だ。

ツラニ もう少し體裁のいゝ身装をしてやつて来て貰ひたかつたねえ。

ペトル 體裁がもつとよかつたからつても、僕はやっぱり此通り躍込むんだ。…：ケートは何處に

ゐる？ 可愛い花嫁さんは何處にゐるんだ？…：え、おとつさん、どうしたんです？…：…

諸君、佛頂づらをしてるね。なぜそんな顔して見てるんだ我々を、此立派な同勢を？ 何

か奇怪な現象でも見附けたやうに、慧星でも発見したやうに？

バプチ だつて、けふはあんたの結婚式の當日でせう。實は、最初は、おいでなさらないのでな

いかと心配したのですが、そんな體裁で来なすつたのを見ては、更に新たに不安を感じ

るわけです。早くそんな見ともない服装をお脱ぎなさい、あんたの身分にさはる、嚴肅な

儀式の目障りになります。

ツラニ 一體、どういふ據ない理由があつて、こんなに妻君のところへ来るのがおくれたのみな

らず、そんな、不似合な装をして来たのです？

ペトル

話すのもおつくらだし、聞くのも面倒だらう。約束通り来た以上、それで澤山だらう、少少傾道へ外れたとはいへ。いづれ、閑な時に、諸君が成程といふやうに説明しようよ。が、ケートはどこにゐるんです？ 出て来たか遅いぢやないか？ ずん／＼時刻が経つ、もう教會へ行く時刻だよ。

ツラニ

そんな無作法な装で花嫁さんに會ふのはおよしなさい。わたしの室へ来て、せめて、わたしの着物をお着なさい。

ペトル

いや、決して。是非このまゝで會ふ。

バプチ

だつて、よもやそのまゝで結婚はなさりやしません。

ペトル

いや、このまゝでします。かれこれ言ふのは無用だ。彼女は僕と結婚するんだ、着物と結婚するんぢやない。どうか彼女が身に着けてるものを、僕が此粗服を取換へ得るやうに仕立直してしまひたいものだ。さうなりや彼女の爲にもいゝし、僕の爲にもいゝんだ。だが、君たちと喋舌くつてる場合ぢやなかつた、花嫁のそこへ往つて、お早うといつて、愛のキッスをして権利を確定しなけりやならなかつた。

ペトル キオーとケルミオーと入る。

ツラニ

(バプチスタに) 何か意味のあることでせう、あの氣ちがひめいた扮装には。出来るものなら、教會へ行く前に、服装を改めるやうに説得させよう。

バプチ

わたしは従いていつて、様子を見て来ませう。

バプチスタとケルミオーと従者と入る。

ツラニ

(何かルーチエンシオーと囁いてゐたが) ですが、御當人の承諾だけでは足りませんよ、親父さんにも諾といはせなけりやいけません。それには、前にも一寸申し上げましたツけが、一個人間が要ります——だれでもいゝのです、此方の目的に適はせるやうにしさへすればいゝのですから——その男がビザのギンチエンシオーさまになるのです。さうして此バデアで、手前が約束しました以上の額面を遺すといふ保證をしますのです。さうすれば、あなたが無事にお望みを遂げて、異議なくビヤンカさんと結婚なさることが出来ます。

ルーチ

あの同僚の家庭教師めが、あんなに目ばしこくビヤンカを看守してゐなけりや、内密で結婚しちまつたはうがまだ、結婚さへ濟んぢまへば、世界ぢうが不可いといはうと、何といはうと。こつちの物はこつちの物だけだ。

ツラニ

その邊も、おひ／＼よく視察しまして、御都合のいゝやうにしたいと、機會を待つてゐます。先づ、あの白髪頭のグレミオーや、目ばしこい、脱落のない親父さんや、あの一寸喰

へない音楽者の色事師を騙すのに着手しませう。これはみんな、旦那さま、あなたのお爲にすることです。……

七五四

グレミオー 急ぎ足で又出る。

グレミオーさん、教會から歩いてになつたのですか？

學校から放免されたやうな心持でやつて来ました。

ツラニ では、新郎、新婦も歸つて來ますか？

グレミ 辛勞とちいひなさるか？ いかにも辛勞、辛勞！ あゝいふ雷婿を取つては、娘さんが

嘸辛勞なことだらうて。

ツラニ ぢや、娘さん以上の雷ですか？ そんなことがあらう筈はない。

グレミ どうして鬼です、鬼です、全くの夜叉です。

ツラニ だつて、娘さんが鬼です、鬼の阿母です。

グレミ なんの、娘さんはあの男に比べりや仔羊です、鳩です。ルーチェンシオーさん、その仔細を話しませう。……先刻、僧官がいよゝゝ式を行ふとて、ペトルーキオーさんに「然らばカサリンを妻とせらるゝや？」と式通りに問ひを掛けたら、あの男「無論！」と雷のやうな聲を出して誓言を怒鳴つたので、みんなが吃驚したが、僧さんは、覺えず、手に持つて

ゐた聖書をおつこととした。で、それを拾はうとして、僧さんが新婦の裳裾近くへ蹲むと、氣ちがひめいた新郎は、拳固で僧さんを撲り附けたものだ、僧さんも聖書も、聖書も僧さんもでんぐり返るといふ騒ぎでした。と「さ、どいつでも、こいつでも、手が出せるなら出して見ろ！」と血眼になつて怒鳴つたものです。

ツラニ 娘さんは何といひました、僧さんが起上つた時分に？

グレミ 只もうぶるゝ顛へるばかりでした。といふのは亭主どのが足を踏鳴して怒鳴り立てるん

ですからね、まるで牧師が何か不正なこともしたかのやうに。けれども、そのうちに、儀式がだんゝと濟んだ。と、彼れは酒を命じて、「さ、祝盃！」と叫いたものです、船にでも乗込んでゐて、颯風の後に、同船者と無事を祝してゝもゐるやうに。甘葡萄酒をがぶりと飲つて、残つた實を残らず寺男の面へ叩きつけたものです、何にも理由はないのです、其男の髭が如何にも薄くて、飢るさうで、他が葡萄酒を飲んでるのを羨ましうにして、せめて中の實だけでもくれろといつてるやうだからといふのです。それが濟むと、花嫁の頸根子を引かへて、猛烈にキッスしたんです、唇が離れる途端に、どえらい音がして、教會堂に地響がしたほどでした。わたしはそれを見てあさましくなつて逃げて來ましたが、すぐあとから一同がやつて來る筈です。こんな氣ちがひめいた婚禮は曾て例のない

七五五

ことです。……あゝ、あれをお聞きなさい！ 楽人どもの奏樂が聞えます。

七五六

音樂が聞える。

ベートルーキオーとカサリンとピヤンカとバプチスタとホオテンシオーとケルミオーと從者らと又出る。

ベートル

諸紳士及び友人諸君、お骨折ありがたう。諸君は今日僕と會宴するつもりで、御馳走の準備に及んでをられるらしいが、ところが、急に用が出来て、往かなけりやならんから、僕はこれでお暇するよ。

バプチ

そんなことがあるもんですか、とんでもないコッた。

ベートル

是非とも往かんけりやならんのです、夜にならんうちに。何も不思議がるにや及びませぬ。其用件の性質が分れば、止めるどころか、早く往けとお勧めなさるだらう。で、諸君、僕は諸君に感謝します、お庇で、かういふ極めて忍耐強い、可愛らしい、貞淑な妻を娶りましたことをです。舅と宴を共になすつて、僕の健康を祝して下さい。僕はお別れしますから。では、諸君、御機嫌よう。

ツラニ

せめて、祝宴後までお止まりを願ひたい。

ベートル

さういふわけにはいきませぬ。

グレミ わたしのお願ひです、どうか。

ベートル いけません。

カサリ わたしのお願ひです。

ベートル 可ね。

カサリ 止まつて可いことッ。

ベートル なアに、あなたが僕に止まつてくれと頼むのは可ねといったんだ。が、止まりやしないよ、

どんなにあなたが頼んでもだ。

カサリ ねえ、わたしを愛して下さるなら、止まつて下さい。

ベートル (見向きもしないで) グルーミオー、馬を。

グルー はい、もう準備は出来てゐます。燕麦めが馬を食つてませ。

カサリ (憤激して) ぢや、もう、勝手になさい、わたしは行きません！ けふは勿論、あしたにな

つたつて、行きません、わたしの氣が向かない以上。出口は開いてますよ。そつちが通り路ですよ。其長靴の青い間、たんとぬたくつてお歩きなさい。わたしはです、わたしは自分の氣が向くまでは、決して行きません。はじめから斯ういふ無遠慮な態度をお取りだからには、つまりは、無禮な、意固地な亂暴者たるの實をお見せなさるに相違ないから。

と怒鳴り立てる。

ベトル あ、ケートさん、まゝ。さう怒つたもんぢやアないよ。

カサリ (猛り立つて) 怒らなくつて。

バプチスタ 其他取りおさへようとして立寄る。

あなたに關係したことがありません！……お父さん、騒ぐにや及びません。

グレミ (傍人に) そらくそ始まりますぞ。

カサリ 皆さん、さ、祝宴の席へいらつしやい。女は阿呆扱ひにされると思ひます、反抗する勇氣がないといふと。

ベトル

ケートさん、あの手合は、お前がさう命ずれば、随分、宴席へ往くだらうよ。……花嫁附きの諸君、花嫁の命令通り、宴席へおいてになつて、盛んに飲んで騒いで下さい、彼女の處女性を祝して、満を引いて下さい。氣ちがひのやうに浮れて下さい、それが厭なら首をお縊りなさい。但し、我可憐なるケートはです、ケートは僕と一しよに往かざるを得ないので。……

ケート これを聞いて、居丈高になつて氣込む。ベトルキオオは、わざとそれを他の男性らの態度であり表情であるらしくもてなして、ケ

トの方を見返りもしないで、特に一同の方を見つめてゐて

いゝえ、そんなに居丈高になつたつて駄目です。ケート(地鞠を踏む) 足踏なんかしたつて、(ケート睨む) 睨んだつて、(ケート悔しがつて身を焦る) 焦つたつて駄目です。僕はすべて我所有物に對しては主権者です。彼女は僕の所有品です、動産です。彼女は僕の家屋です、僕の家具です、僕の島です、僕の小屋です、僕の馬です、僕の牛です、僕の驢馬です、僕の何でもあります。現にこゝに(とケートを遮二無に引つかへて) 立つてゐる。さ、どいつても、おれが此女を伴つてゆくのを止めて見る、バデニアで一等威張つてる奴だつても敵手にするぞ。(といふや否や腰剣をすらりと抜き放して) グルーミオオ、汝も抜け、盜賊に取巻かれてゐるんだ、汝が男なら、さ、早く奥さんを助け出せ！ (驚き怖れて、ふるへてゐるケートに) ケートちゃん、こはがらなくてもいゝよ、だれもお前をどうもしやしなないよ。おれが附いてるよ、百萬人來たつて大丈夫だ。

ベトルキオオはカサリンを引立て、グルーミオオと共に入る。皆々驚き呆れて見送る。グレミオオは笑ふ。

バプチ (歎息して) いや、うつちやツときませう、あゝいふむつまじい夫婦です。

グレミ はゝゝゝ、早く出て行つてくれたからよかつたが、さうでなかつたら、あんまり可笑い

ので笑ひ死したかも知れない。

ツラニ 氣ちがひめいた結婚もたまにはあるもんだが、あんなのは未曾有だ。

ルーチ 嬢さん、姉さんをどう思ひます？

ピヤン 自身が半氣ちがひですから、氣ちがひめいた御亭主を迎へたんですわ。

グレミ 雷男に、雷娘は良い取合せだ。

バプチ 近隣の諸君及び友人がた、新婦新郎は席に缺けてをりましても、食卓に山海の珍味は缺けてをりませぬ。ルーチエンシオー、あなたは新郎の席を充して下さい、ピヤンカを姉の席に着かせませう。

ツラニ ピヤンカさんに嫁さんになる稽古をさせるんですか？

バプチ さやうです、ルーチエンシオーさん……さ、諸君、まわりませう。

第四幕

第一場 ベトルーキオーの別荘

グルーミオー泥水まみれの姿にて、疲れ切つた體にて出る。矮驅の男である。寒さにふるへてゐる。

グルー たまらんく！ もうく疲憊馬や氣ちがひ旦那や凸凹の泥濘路は眞平だ！ こんな人間が撲ちのめされたことがあるだらうか？ こんなに泥んこになつたことが？ 汝先へ往つて火を製へとけてんだ。さうして後からやつて来て温まらうてんだ。おれが小鍋だから直と温まるからいゝやうなもんだが、てなけりや此唇は齒ぐきへ、此舌は上唇の天井へ、心臓は胸肚へ凍り附いちまつたらう、温まる火が出来ねえうちに。が、ま、火でも吹きながら温まらう、かう寒くしちゃ、おれよりずっと圖體の大きいもんだつて、風を引いちまはア……（奥へ向いて）おしい！ カーチス！

ベトルーキオーの他の僕カーチス出る。

カーチ 寒さうな聲で呼んでるのはだれだい？

グルー 氷が呼んでるんだ。嘘だと思ふなら、おれの肩につかまつて見な、すぐにつるりと踵とこまで這り落ちちまはア、まるで頭から頸根子へ這つたかと思ふやうに早く……火だよ、

カーチス。

カーチ 旦那と奥さんとが来るのか？

グルー あゝ、来るよ。だから、火だ、火だ。水をぶっかけちゃいけねえ。

カーチ 奥さんてのは、評判ぢやア、火のやうな女だとかいふが、さうかい？

グルー さ、今朝霜が降りたまでは、さうだつたがね、極寒となると、男でも、女でも、けだもの

でも、みんなへこたれちまふよ。旦那もへこたれたし、新奥さんもさうだし、おれもへこたれたよ、なア同役。

カーチ 馬鹿いへ、此三寸角野郎が！ あらおめえのやうな獸類ぢやアねえ。

グルー おれのはたつた三寸だと？ ぢや、おめえの角は一尺だ。おれのは（と呼子の角笛を出して見せる）

少くとも此くらゐあらア。……だから火を製へねえのかよ。製へなけりや奥さんに言ッつけ
るぜ。さうすりや火を製へなかつた報いで、おめえの目から火が出るぜ。

カーチ グルーミオー、何か聞かしてくんなよ、面白い世間話を。

グルー 面白いどころかい、寒くッつて、世間は冷上ッちまつてら。温かいのはおめえの許ばかりだ。だから火だ。よ、お役目を勤めて、役徳に有りつきな。旦那も奥さんも、うちやつ
とくと、凍えて死んぢまひさうだから。

カーチ 火はとうに出来てるよ。だから話を聞かせなよ。

グルー ぢやア「太郎どんや！ ほう！ 太郎どんや！ ほう！」新聞、珍聞、お望み次第だ。

カーチ おい、おい、悪黨の話なら幾らでも知つてる癖に。

グルー だからさ、火を持つて来なよ、冷くッてこてへられねえから。料理番はどこにゐるね？
夕食の用意は済んでるかい、家の飾り附は、葎葉を蒔くのは、蜘蛛の巣をぶっ拂ふのは？
給仕人は悉皆新しい綿服に着換へて、白い股引を穿いたかい？ 役員連は婚禮服で奴を被

つたかい？ 柔革盃は内部を清潔に、金屬盃は外部を美麗にといふんだぜ。食卓掛を掛け

たかい？ 何もかも可いのかい？

カーチ あゝ、いゝよ。だから、何か話をよ。

グルー 先づなア、馬がへこたれたね。旦那と奥さんが轉落ちたよ。

カーチ どうして？

グルー 鞍坪からすつてんころりと泥中へだ。それからが肝腎勘文なんだ。

カーチ よう、それを聞かせなよ。

グルー 耳を貸しな。

カーチ さ、斯う。

じゃじゃ馬馴らし